米原市こども計画策定のための
意見聴取結果報告書

【ヒアリング調査・ワークショップ報告書】

令和６年 10 月

米原市

目　次

Ⅰ　調査の概要 1
1　調査の目的 1
2　調査概要 1
3　報告書の見方 1

Ⅱ　関係団体ヒアリング調査 2
1　実施概要 2
2　団体について 3
3　子ども・若者、子育て家庭の現状について 8
4　困難を抱える家庭の状況について 39
5　支援の状況・課題について 55

Ⅲ　子どもヒアリング調査 73
1　実施概要 73
2　中学校生徒会 74

Ⅳ　子どもワークショップ 83
1　実施概要 83
2　実施結果 85

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

本調査は、子ども・若者や子育てにかかる現状と課題をより詳細に把握するため、子どもに関わる団体や子ども本人に対して意見聴取を実施しました。

2　調査概要

区分	対象	実施時期	対象件数
① 関係団体ヒアリング調査	米原市内で活動する子育て･教育関係団体	令和 6 年 6 月 6 日～ 7 月 31 日	105 件
② 子どもヒアリング調査	米原市内の中学校生徒会の生徒	令和 6 年 7 月 2 日～ 7 月 31 日	38 件
	居場所や施設に通っている子ども	令和 6 年 10 月 28 日	7 件
③ 子どもワークショップ	放課後児童クラブに通っている子ども	令和 6 年 8 月 22 日	30 人

3　報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「ｎ（number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ　関係団体ヒアリング調査

1　実施概要

（1）調査の目的

米原市の子ども・若者、子育て家庭に関わる団体等に調査を実施し、子ども・若者、子育て家庭の現状や課題を把握し、今後の支援策の検討のための資料とする。また、団体を通して困難を抱える家庭や子どもの状況、地域における取組み、支援の状況などについて把握する。

（2）対象団体と回収結果

■調査票送付対象機関・団体

福祉・教育関係機関	民生委員児童委員協議会連合会、米原市社会福祉協議会、保育所・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業所、米原市内小中学校、子育て応援施設、地域福祉センター、スクールソーシャルワーカー、特別支援サポートセンター、米原市教育支援センター　など
子育て関係機関	子ども家庭相談センター、地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、こども家庭センター、放課後児童クラブ、多文化共生協会、保健センター、米原市子育て支援課など
障がい児関係機関	発達支援センター、養護学校、児童発達支援センター、放課後等デイサービス、地域包括医療福祉センター　など
子育て支援関係	ボランティアセンター、子育てサークル　など
若者・ひきこもり関係	就労・自立支援施設
貧困・居場所関係	子どもたちの居場所、子ども食堂　など
その他	米原市子ども・子育て審議会委員

■回収結果

配布数	有効回収数	有効回収率
120 件	80 件	66.7%

（3）実施方法

令和 6 年 7 月に調査票を送付・回収したうえで、以下の機関・団体に直接の聞き取り調査を実施しました。

NPO 法人 Take－Liaison、　放課後等デイサービス「陽空ひだまり」、米原市こども家庭センター、冒険遊び場「あじっこパーク」、ぷらっとふぉーむ、多文化共生協会、子育て支援センター「寺子屋」、スクールソーシャルワーカー

2　団体について

問１　貴団体の活動について教えてください。

① 団体名

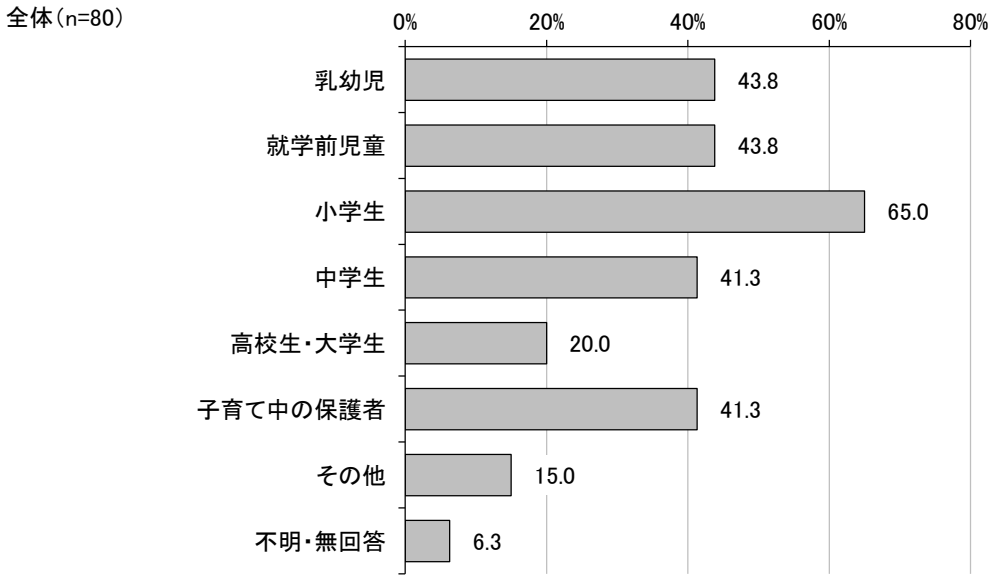
1	認定こども園チャイルドハウス近江（社会福祉法人　石龍会）
2	認定こども園　柏原こども園（社会福祉法人　柏葉会）
3	米原市立いぶき認定こども園
4	米原市立おうみ認定こども園
5	米原市立かなん認定こども園
6	米原市立山東幼稚園
7	米原市立山東小学校
8	米原市立大原小学校
9	米原市立米原小学校
10	米原市立坂田小学校
11	米原市立息長小学校
12	米原市立柏原中学校
13	米原市立大東中学校
14	米原市立伊吹山中学校
15	米原市立双葉中学校
16	米原市民生委員児童委員協議会連合会　主任児童委員
17	米原市民生委員児童委員協議会連合会　主任児童委員
18	米原市民生委員児童委員協議会連合会　主任児童委員
19	米原市民生委員児童委員協議会連合会　主任児童委員
20	米原市民生委員児童委員協議会連合会　主任児童委員
21	米原市民生委員児童委員協議会連合会　主任児童委員
22	社会福祉法人　米原市社会福祉協議会
23	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
24	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
25	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
26	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
27	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
28	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
29	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
30	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
31	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
32	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
33	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター

34	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
35	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
36	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
37	特別支援サポートセンター　子どもケアサポーター
38	ステップフォワードプログラム
39	ステップフォワードプログラム
40	米原学びあいステーション
41	近江学びあいステーション
42	米原市立図書館（山東図書館、近江図書館）
43	滋賀県彦根子ども家庭相談センター
44	米原市地域子育て支援センター「あゆっこ」
45	米原市地域子育て支援センター「はなばたけ」
46	米原市地域子育て支援センター「寺子屋」
47	米原市ファミリー・サポート・センター（社会福祉法人　米原市社会福祉協議会）
48	米原市こども家庭センター
49	放課後児童クラブ　米原第１児童クラブ（特定非営利活動法人きづな）
50	放課後児童クラブ　米原第２児童クラブ・河南児童クラブ（株式会社明日葉）
51	放課後児童クラブ　坂田第１児童クラブ（特定非営利活動法人わっか）
52	放課後児童クラブ　坂田第２児童クラブ（特定非営利活動法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会）
53	放課後児童クラブ　大原児童クラブ（特定非営利活動法人おおはら）
54	特定非営利活動法人　米原市多文化共生協会
55	米原市保健センター　保健師
56	米原市子育て支援課　子ども家庭支援員
57	米原市子育て支援課　母子父子自立支援員
58	米原市発達支援センター
59	長浜養護学校
60	米原市地域包括医療福祉センター　病児・病後児保育「おおぞら」
61	放課後等デイサービス　陽空ひだまり・青空ひだまり
62	放課後等デイサービス　星空ひだまり
63	若者自立支援ルーム「あおぞら」（特定非営利活動法人　就労ネットワーク滋賀）
64	米原市ボランティアセンター（社会福祉法人　米原市社会福祉協議会）
65	子育てサークル「ちびーず」
66	子育てサークル「おにぎり」
67	子育てサークル「マニマニ」
68	子育てサークル「伊吹仲良しかい」
69	子育てサークル「多胎児サークル Twinkle」
70	子育てサークル「MANI MANI KIDS」

71	子どもたちの居場所（特定非営利活動法人 Take-Liaison）
72	子どもたちの居場所（特定非営利活動法人 わっか）
73	冒険遊び場あじっこパーク（任意団体 あじっこ）
74	子ども食堂「おおのぎ 子ども食堂」
75	子ども食堂「アイアイ　こむすびカフェ」
76	子ども食堂「キッズレストラン虹」
77	子ども食堂「しあえる」
78	米原市子ども・子育て審議会委員
79	米原市子ども・子育て審議会委員
80	米原市子ども・子育て審議会委員

② 活動の対象者

「小学生」が 65.0%と最も高く、次いで「乳幼児」「就学前児童」が 43.8%となっています。

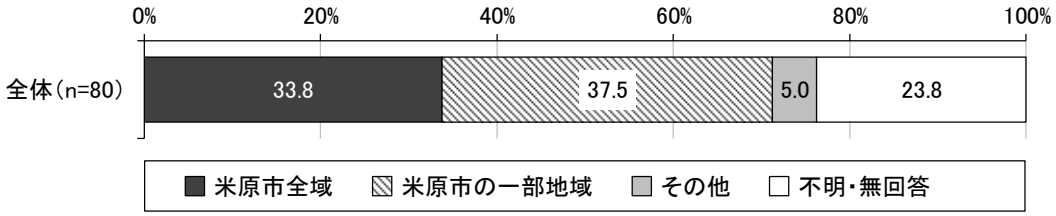


【その他】

15 歳以降の若者、困窮者支援
地域住民
障害のある方、高齢者
高齢者
児童・生徒およびその保護者、区民全員

③ 活動範囲

「米原市の一部地域」が 37.5%と最も高く、次いで「米原市全域」が 33.8%となっています。



【米原市の一部地域】

伊吹地区	飯区
近江地域	旧近江町、米原町
伊吹、春照小学校区内	米原小学校区
山東地区	坂田小学区
山東地域が中心	伊吹山中学校区
近江地域	山東小学校区
坂田地域	近江地域
大原学区	息長学区
米原市、長浜市、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町	大原小学校区
河南小学区	大東中学校区
大野木区	柏原学区
近江地域	柏原学区

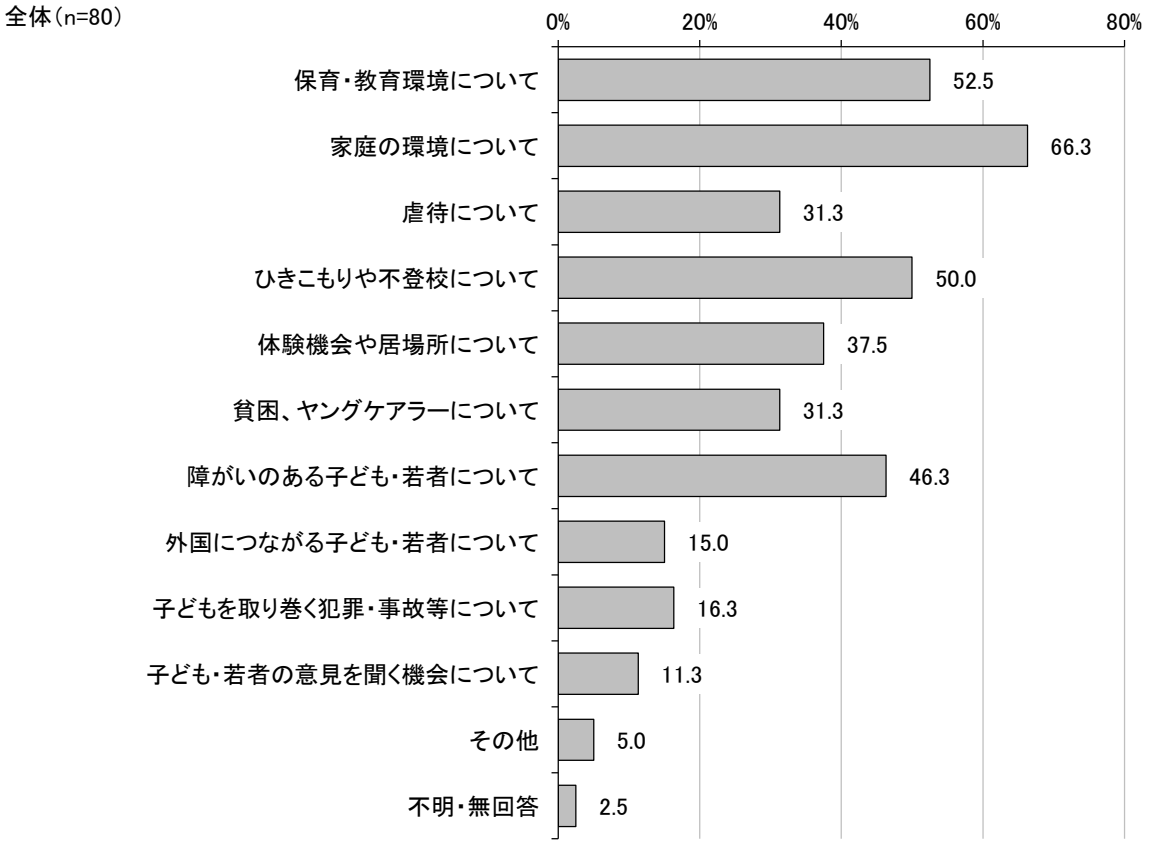
【その他】

市外・県外	滋賀県内、米原市でも事業実施中
依頼があれば市外への送迎なども対応している	会場は大野木の休耕地と古民家。参加者は、柏原学区を中心に、市内各地の他、長浜、彦根、岐阜県内の各市町村等から来ている
市外も利用可能	周辺の市町
長浜市	市外も可
米原市内在勤（保護者が）	長浜市
長浜、彦根	滋賀県内、米原市でも事業実施中
長浜市	長浜市

3　子ども・若者、子育て家庭の現状について

問２　米原市の子ども・若者、子育て家庭を取り巻く課題について、日頃の活動を通じて、気になっていることがあれば教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「家庭の環境について」が 66.3%と最も高く、次いで「保育・教育環境について」が 52.5%、「ひきこもりや不登校について」が 50.0%となっています。



【その他】

子育てについて
障がいの子の親や家族
スマホについて

問３　上記で選択した項目について、具体的な事例や問題と感じる点についてご記入ください。（番号を選び、具体的な内容をご記入ください。）

１　保育教育環境について
長時間保育を利用する園児の増加に対応できる、保育者の数が足りない。
学校・園等との連携を更に深めることで、子どもや若者が本と出会える機会を充実させたいと考えています。
夜遅くまで電気がついている学校がある。「先生方はこんなに遅くまで仕事をしていてくださるのか。」と感じる。教師の働き方改革と言われているのに、何とかならないものかと思っている。
保護者が日々の生活にいっぱい、いっぱいで子どもの保育、教育環境にまで気持ちが向いていかない。
山東幼稚園が今年度で閉園になります。とても良い環境の中の施設であったので後の施設を活かし、子どもが楽しめる場、親子で活動できる場、地域の異年齢の方々が笑顔で関われる施設になるようお願いしたいと思います。子どもや米原市民が気軽に関われ交流できる施設、滋賀県では米原市にしか体験できない施設になることを期待します。
子どもと関わる時間が少ない中で、生活習慣の安定と学習への意欲の向上へどう向けていくことができるかが課題である。
勉強をしない子とする子の差が年々増加してきており、理解力に乏しい子が多いように思う。知らん、わからんの言葉が直に返ってくる。集中力の問題も気になる。家庭で保護者がどの程度関わっているか、子どもの力をどの程度理解しているかが気になる。教育現場は大変かと察している。
先生の働き方改革による、残業などの削減により子ども達をしっかり支援することができない。人員を増やすとか、処遇改善をするとか、先生の待遇を見直すことが大切と思う。
保育士の人員不足が顕著になっており、そういったことが環境の悪化や改善への遅れに比例している。海外に比べると、職業としてのヒエラルキーが低く、給与も安いことが繋がっている。
・市内の園によって使える予算の額が異なり、園によって子どもの活動に差が出てしまう。 ・保育の質の向上のために保育士の労働環境を改善してほしい。 ・伊吹小と春照小を合併してほしい。 ・地元地域の望んだ園に子どもを入れることができず困っている。
保育料についてわかりにくい。第２、３子で上の子が園に行っていないと保育料がいる等。
集中しやすい静穏な環境の確保、気持ちを落ち着けるための別室確保など障がいへの合理的配慮を検討する際、保育や教育現場では人手の不足、部屋の不足など資源不足がある。
障がいを持つ子供が適正な環境で教育・療育を受けているのか考えることがあります。例えば放課後児童クラブの利用が本人にとって適正なのか、中学生や高校生が障がいサービスを受ける受け皿が充足しているのか。
家庭と保育、教育現場との関わりについて、未就学児の期間は子育て支援センターやこども園の職員の方と頻繁に顔を合わせる機会があるが、就学後はそういった回数が激減し、繋がりがうすれ、気軽に相談することが難しくなる。

1　保育教育環境について
・平日の就学時間が短く、又、子どものことを考え、短時部（14 時降園）として入園したが、夏休み等の長期休みで、預けられる日数に制限があり困ったそう。お弁当を作る負担もあり、長時部の子たちが給食（おかずのみ）を食べている中、その子だけはお弁当で、何でなのか聞かれたそう。 ・一時預かりの時も事前に給食を予約することはできないのかなと話しておられた。（同じく、学童も夏休みのお弁当作りが大変だそう） ・乳幼児健診が午後にあり、短時部のお迎え時間と重なるので、検診の度に一時預かりを利用することになる。内科検診の都合は仕方ないが、希望者のみ後日内科検診を個人で行くことはできないかなと話されていた。家庭により、身内が近くに住んでいない場合、預け先に困ることはよくある。ファミサポ等がもっと身近に気軽に活用できるよう広まれば良いなと思う。 ・兄弟の参観や学校行事で一時預かりを利用した際（短時部で）、長時部の家庭との幼児無償化の不公平さを感じたそう。預けている理由が、仕事ではなく、参観であることはあることは同じであるため。
保育士不足
家の外で、障がい児は時に親ひとりでは守り切れないヒヤッとする場面が日常的にあります。じっとしていない、急に飛び出して行ってしまう等ほかの親にも子供にも先生方にも障がい児に関する研修を取り入れてもらいたいです。
タブレット授業がはじまっているがみんな使いこなせているのか心配になった。
さまざまな家庭の事情によって、保育を必要としている人は多いと感じるが、制度によって必要な保育を受けられないこともある。そういった時に、次に相談すべきところ、サポートしてくれる制度は何かがわかりやすく提示されるとよい。
保育士不足の解消、待遇改善
不登校になってる生徒の家庭環境の情報が伝わってこない。（家族の思いなど）
米原学区は今子どもの数がどんどん増えている地域であり、一つの字で 14 の登校班がある。昔からの字はだんだん子どもの数が減り、字の中で遊ぶ子どもが減っている。
学校に対して消費者感覚でサービスの要求や対応を求めてくる保護者が増えていること。
・小規模校の良い面もたくさんあるが、６年間単級なので切磋琢磨する雰囲気が乏しい、人間関係が固定化しやすい等の傾向は否めない。 ・ＳＣやＳＳＷのような専門的な人材や、子どもケアサポーター等の派遣は大変ありがたいと思っているが、現場では依然人が足らない現状が見られる。
学校としては、家庭と連携して子どもの指導・支援を行っていきたいと考えているが、家庭によって学校教育への理解や認識に差があり、家庭での指導が十分に期待できない状況も見られる。

2　家庭の環境について
・園で対応するだけでは見えにくい家庭状況に遭遇する場合がある。コロナ禍から無くなった家庭訪問も大事なことである。 ・兄弟の不登校の影響を受けるケースがあり保護者の考え方により左右される。
良くも悪くも「個」が大切にされ、昔に比べて横の繋がりが希薄になってきている中で、リラックスして子育てができる人と孤立していく人、子育てに対する情報やアドバイスに柔軟に対応できる人、一部の考えに固執したり振り回されてしまったりする人など、各家庭の状況や保護者の姿がより多様になってきている。誰しも我が子は大切だが、集団生活の中で子どもたちの間で起きるいざこざは、人との関わり方や互いの気持ちを知ること、社会性を育むために大切な出来事であることを保護者に理解してもらえない場面が年々増えてきているように感じる。“お互い様”という心の余裕がもちにくい社会は、子どもにとっても息苦しい環境であると思われ、少なからず影響を受けているのではないかと感じる子どもたちの姿も見られている。それぞれの家庭の価値観や生活習慣に関しては、保護者の生育歴や収入、人間関係等も大きく関係してくるので、子どもにとってより良い環境についての共通理解は容易ではない。それらがマイナスに働くと虐待事象へと繋がっていくため、保護者との信頼関係の構築は必須であると同時に、職員にとって大きな悩みにもなっている。
保護者の就労時間の増加に伴い、保育時間が長くなり、親子の触れ合う時間が少なくなっている。
ひとり親家庭が増えているように思う。ひとり親家庭がわるいわけではないが、家族の協力が得られる家庭も多いなか、子どもの支援や保護者への支援が必要となっている。
・地域の方々との交流の希薄（地域が育てる） ・幼少時代からの遊びの変化（スマホ、ゲーム） ・多人数→個（人間関係の希薄、もめごとなし、コミュニケーション不足） ・ストレス社会（親も子も） ・三世代交流の不足（核家族の増加）
10 代未婚で出産され、実家で生活をしている。母親は家庭では現在も娘のままの生活スタイルであり、子どもへの関わり方は勿論、母親のような姿が見られず、子育ては、基本全て祖母がしている。（祖母がしないと何も回っていかない。）先日の親子遠足も祖母の手作りのお弁当、母親は恥ずかしがることもなく喜んで食べていた。保育参観も親子共にあまり楽しそうな表情が見られない。子どものその場を取り繕う嘘もかなり心配である。
20 歳で出産され、昨年離婚。親子 2 人で生活している。母親は子どもへの関わりが苦手であるが、今はやりたいことを仕事にされ、仕事の事で頭がいっぱいである。登園時の母子分離も不安がる姿や、保育参観で少しでも母親の姿が見えないと泣いて探すなど、一緒に過ごしていても子どもは満たされていない。普段の生活の中でも子どもの自信のなさが気になる。
学区外から通園している。子どもは素直な子である。母親に気分の浮き沈みが見られ、自分の目的（ライブ）があると気持ちが上がるが、終わると体調を悪くされる。そんなときは下を向いて送迎されている。父親は自営業をされ、子どもからは 2 階で仕事をしていると聞くが、会話に出てくることが少なく、どのように生活されているのか見えにくい。家庭内での持ち物の紛失がよく見られ、帽子や水筒など無くなりがちである。姉がいるが、来年から学校での提出物なども心配される。
保護者などの大人が家庭で本を読む姿を子どもに見せることで、幼少期からの読書習慣の形成を推進したいと考えています。

2　家庭の環境について
頼れる人や相談する人がなく孤立化している。地域とのかかわりを否とする人が増え、子どもの人間関係にも影響をあたえるのではないか。
・子どもを連れて再婚し、再婚相手との間に実子が生まれた場合、父親と連れ子の親子としての関係がうまくいかない場合（父親がうまくかかわれない、どう接していいかわからない、実子の方に目がいくなど）連れ子は不安定となり、非日常的な行動をおこす。 ・親ではなく、実質祖父母の養育による子どもへのしわよせ。 ・定職につかない親のための貧困。
毎日の子どもの行動、言動から家庭の様子がよく感じ取れる。愛着の問題も大きく感じている。毎日が忙しい日々を送っている保護者にとって、ゆっくりと子どもと向き合える時間が減少してきているのがよくわかる。言葉使いの乱れは、保護者が、要因となっているように感じる。
核家族で、両親が働いている家庭の子どもをお預かりしているのですが、時間、経済的に余裕がない保護者が多いと感じます。
・核家族の増加にともない、身近に相談する環境や子育てを援助する環境がなく、育児の孤立化が増えている。 ・子どもが生まれたばかりで戸惑いの多い家庭、自ら支援を求めにくい家庭、漠然とした不安を抱えていて、相談することを「思いつかない」家庭が見受けられる。
保護者の就労に伴い、保育施設や学童の利用が多い。習い事をさせたいが、仕事の都合で送迎ができないという相談を受けます。ファミサポで一番利用が多いのが「習い事の送迎」です。祖父母の協力を得られない家庭も多く、サポート会員の力を借りている家庭が年々増えています。
・祖父母など頼れる身近な人がおられず、子育てへの不安を抱えておられる家庭が多い。 （離乳食の進め方、体重が増えない、夜中に何度も起きる、トイレトレーニングの進め方、両親での子育ての考え方のずれ、子どもへの対応の困り感等） ・アパートなど、限られた空間の中での生活で、息が詰まりそうである。 （子どもが泣くとお隣の壁からドンドンという音が聞こえる）
地域に子どもがいない。集団登校する子が少ない。送迎しないといけない。学童に預けて仕事すべきなのかと悩む。
子どもの成長や発達に応じた関わりや環境調整がうまくできない保護者がいる。
家庭環境が複雑で、養育不安のある家庭が増えてきている。
夫婦で就業されており、祖父母などの支援を受けにくい環境下で子どもが病気になるとあおぞらでも対応できない日はかなり困られている。
家庭によっては、子どもの発達障がい的な特性の理解に課題がある。また、保護者自身に発達障がい的な特性があり、子どもとの関わりや心情の理解に課題がある場合がある。
障がいを持つ子どものみならず家族に障害を持つ家庭では養育の困難さが顕著になります。そういった家族全体をまるごとサポートする環境をもっと発展させたいと思います。
未就学の時は支援センターの先生が、就園すると園の先生が、悩みの相談などにのってくれますが、小学生になると気軽に相談するところが無いように思います。 学校の先生に何から何まで聞くわけにもいかないので。
家事代行サービスがあるのは知っていますが、利用しにくく部屋が散らかった毎日でつらいです。

2　家庭の環境について
１歳頃より就園される方が増え、未就園児の保護者同士がつながる場が必要。
ワンオペ育児について話を聞きます。核家族化に伴い、祖父母の協力を得られない家庭もあります。
貧困世帯の子どもは、みんなと同じようにすごせているのか。
こども食堂開催時に、「お母さんが食事を作ってくれない」と話した子がいた。
共働き家庭の増加に伴い、長時間保育を必要とする家庭が増えている。その為、家族間でのコミュニケーション不足、教職員と保護者との連携不足（ゆっくりと話す時間が取れない）が見受けられる。
・両親もしくは夫婦のうちどちらかが精神的な理由から仕事ができない状況で、家庭に大人がいる場合でも、子どもたちが家事を担うことがある。また兄弟たちの面倒を年長の子どもたちがみていることもある。子どもたちが自主的に行う『手伝い』の範囲を超え家事育児をすることが、経済的な理由からだけでなく保護者の精神状況からも出てくることがある。 ・子育てに関して未熟で、仕事や享楽、恋愛を優先するあまり看護者としての責務を果たさない保護者が増えていること。
・３世代同居の家庭が多く、学校には協力的である。一方で幼い頃から子どもに手をかけてこられた家庭が多く、小学生になっても大人にしてもらえるまで待っているといった様子が見うけられる。 ・我慢をする経験が乏しく、簡単にあきらめてしまう様子が見られる。子どもに生きる力をつけるためには、場合によって辛抱することも必要であるが、家庭によっては、子どもに辛抱をさせたくないという傾向も見られる。
家庭環境が子供の成長にとって不安定であったり、親の養育状況がよくない家庭が増えつつある。親（大人）にとっても、社会で生きる上で難しい状況があり、結果として子の成長や養育環境に影響が出ている。
各家庭の状況等が複雑化してきており、その把握や連携について難しさを感じている。
洗濯機からまだ洗われていない衣服を引っ張り出して学校に着てくることが続いたり、食事はとれているが、子どもから食べているものを聞くと、インスタントのものが多かったりする。虐待とまではいかないが、家庭の養育力が以前とは変化してきていると感じており、同時に子どもたちが大人になった時の家庭の築き方に影響があるのではないかと考える。
家庭環境による差 家庭によっては児童が保護者に充分に見てもらえていない。（学習面・生活面）上記６とも重なってくるが、児童が夕ご飯や妹の世話などを多く請け負っていたり、家の人の帰りが遅いため児童の就寝時間も遅くなるなど、生活が不規則になりがちである。

3　虐待について
保護者自身が虐待を受けた経験があり、「これは、しつけです」と自身が子どもにしている行為を認識していないと市より報告を受けた。保護者と信頼関係を築いていくのが難しい一面である。
虐待が起きる前の予防的な対応が必要。背景にある保護者が抱える困難にも目を向け、被害者一加害者という構図だけで捉えないようにすることが大切だと感じる。
こどもの家庭環境によって、こどもの生活や言動に支障が出ている事。言葉が乱暴だったり、他害行為があったりなど。
警察からの面前ＤＶ等の心理的虐待の件数が多い。警察を呼ばないと収まらない等、脆弱な夫婦関係や孤立的な育児環境が目立ちます。
身体的虐待に加え、暴言などの心理的虐待を受けていると思われるケースがあるが、なかなか解決にいたらない。
虐待は様々な事情で生じうるが、発達障がい特性を背景に「育てにくさ」から虐待につながる場合がある。
虐待が疑われるケースについて、児童本人からの訴えがありますが言語表出機能の未熟さから真実かどうか判断が難しいケースがあります。その際は関係機関に相談するようにしています。また家族の障がいへの理解や未熟さが原因のケースもあるので障がい理解を進めることも課題と感じています。
子どもが遊べる所、児童館みたいな施設があるといいなと思う。きれいな公園などあるといいなと思う。
・関わる大人が児の発達的な特性を共通理解して関わる場合。また、保護者も同じような特性を持ち合わせている場合の対応の難しさ。 ・不登校・ひきこもりとなる若者が増加の一途をたどる中、この事実に市がどこまで真剣に向き合おうとしているのかがわからない。
身体的・心理的虐待、ネグレクトの他、愛着障がいと思われる子どもが在籍しており、学校生活において、そのことが起因と考えられる言動が多くみられる。
家庭環境において養育が困難な家庭。学校でトラブルが起こった際、家庭と連携がとりにくい。専門機関とも連携は取っているが、対応の難しさを感じる。
生活するうえで、様々な支援を必要とする家庭のあり方、特に家庭環境による子どもの生活習慣の乱れやネグレクトにつながる状態を気にする必要がある。また、児童の様子から虐待を気にするようになった場面が増えた。
普段、笑顔ですごしている子どもが、思わぬ形で虐待の被害者になっていることを知ることがある。かくれた部分をいかに見つけるかが非常に難しく感じる。

4　ひきこもりや不登校について
開室２年目で手探り状態での活動です。教室や備品、取組内容など模索中です。
ひきこもりのケースの中には不登校経験のある場合も多いため、福祉と教育の連携は重要。特に中学校卒業後に所属なしとなると、その後の様子がわからず、ひきこもりが長期化してから福祉関係に相談がくることもある。
以前、適応指導教室の指導員として、不登校傾向にある子どもたちに関わらせていただいた。指導教室に通室して来る子はまだ幸せ（？）で、そこにすら来られない子どもも多いだろうと思っている。何とかならないのだろうか？
・不登校の質・考え方が多様化し、子に応じた対応やかかわりがむずかしい。今、双葉中にフリースクールができているが、市内の生徒が自力で通えることができない。不登校からの脱却は、まず「自立」からだと思うので、自分で家庭を出て、通える範囲内にそういった場所がほしい。貧困家庭の学習支援で地域の公民館が使われていることは、地域ぐるみの支援となりすばらしいことだと思う。 ・長年、ひきこもっている子の保護者が高齢化したり病気になったり、死別したりした場合、その子たちが以後どのように生活していくのか。老健や特養など高齢者向けの施設はまだあるが、グループホームや生活支援の方策などが充実していない。
小、中の義務教育時期に、不登校になり、大人になっても引き続きひきこもりになる方がおられる。加えて、社会に出られてから新たにひきこもりになる方もおられる。大人になればなるほど、改善が難しい。対応できないことがあり、医療や行政の支援に結びつきにくい。
米原市では、フリースクールに通うための補助金は出るようだが、通う先が周辺も含めて、全然ない。そのために、不登校になっても選択肢が少なく、公的支援に合わなくても、他に選択肢がない。フリースクールを設立するためのサポートやその土台を醸成するような施策を実施してもらう必要がある。
生きづらさを感じている子どもがいる。
家庭基盤が弱く、登校の送り出しができない家庭、登校できないことへの困り感を感じておられない家庭への支援が難しい。
小児科外来でも相談が増えている。
早期の対応により、若齢期での支援の内容が大幅に変わってくることを理解しているので…可能であれば、早期介入早期支援をお願いしたい（場合によっては協働できることもあると思うので…）。
あじっこパークには、不登校や学校行き渋りの子も、学校に行っている子も来て、一緒に過ごしている。子どもが遊んでいる横で、保護者が焚き火を囲んで話し込む場面がよく見られ、その中で、不登校の子、行き渋りの子への接し方、学びの環境への不安や期待などが話題になることが非常に増えている。
不登校の子どもと接することがありますが、自分たちがよく無いんだと思わされています。学校にいけないこと、みんなと同じように学べないこと、自分は怠け者なんだと言います。そんなことを思わせている学校でいいのでしょうか。不登校や学校にいきにくい子どもたちが、自分を責めなくてもいい環境を早急に作るべきです。
こもりがちな人が、義務教育以降、見えなくなり、支援が届かなくなってしまうこと。 自分の周囲にもかなりの人数の人がおられるのではと思われるが、支援者が不足していると思う。
具体的な数字が知られていない。

4　ひきこもりや不登校について
支援を必要とする児童が多く、個別対応していかなければいけない児童も増えているため、小学校における教員の定数を改善し、支援員や SSW スクールカウンセラーの先生の配置（時間）を増やしていただきたい。そのことが、小・中学校での不登校を減らしていく一助となる。
不登校生徒への対応（コミュニケーションのとり方）
不登校になった子どもたちが、なかなか元通りのように登校できることは難しい。SFP やみのりもあるが送り迎えも大変。
・障がいに対する対応が取られてきていないケースがある。学習には支障がないからと見過ごされた場合や保護者の思いで取られなかった場合がある。 ・不登校の原因は様々で、単に別室登校で解決できる問題ではないと感じる。 ・朝起きられない子どもが多く、スマートフォンによる弊害は多いと感じる。 ・ひきこもりの当事者や親が相談できる場所の選択肢がない。 ・「子どものことで困っている、悩んでいる人」の相談窓口であるが、不登校やひきこもりの悩み相談については別の部署になるので…とすぐに他の機関につないでしまう。業務的にそうならざるを得ないが、相談者からすると勇気を出して話し始めた相手から「別の部署に。」と言われるのは気持ちが折れてしまうことにつながらないのかと心配することがある。
・不登校の原因がはっきりせず、母子ともに困っているが、出口が見つからず将来に不安を持っているが、支援策が見つからない。 ・高校で不登校や退学になった場合の相談先や、支援策が分からない。
米原市にはフリースクールがなく、不登校児の居場所が近くにない。
不登校生徒が多い、その中で、区域外で入学したが不登校になり、地域とのつながりもないため卒業後どうしていくのかが心配である。
児童本人やその家庭とつながりを築くことや信頼関係を築くことで支えていく必要があり、そのようにつながり、支えていく手立てを早期に個別に立案していくことが求められる。
本校の不登校生徒の在籍率は約５％と県や全国の数値を下回る状況にはあるものの、生徒指導上の一番の課題となっている。特に、不登校が長期化しているケースについては、校内だけの支援では改善が難しい。近年、本人のもつ発達特性から集団生活への不適応を起こし、不登校に至るケースが散見される。
共働きの家庭が多く、朝、登校できないと、遅刻して送迎することができない状況から、一日欠席となってしまう状況がある。不登校傾向の児童が、教育支援センター「みのり」を利用しようと思っても、送迎が課題となる場合がある。不登校傾向の子どもが社会とつながる居場所が多様にあるとよいと考える。
本校は小規模ながら、不登校傾向の子どもが一定割合で在籍している。不登校は、将来的に引きこもりになる可能性があるため、少しでも良い方向に向くように各機関と連携していきたい。
不登校傾向のある児童への対応。不登校傾向にある児童は増加しているが、その児童の対応に回すには人員が十分にいない。

5　体験機会や居場所について
コロナ以前では、学校から下校した後や休日には、当館に集まってトランプやカードゲームをしたり、モノづくりをしたりする子どもの姿が見られました。コロナを境に、そうした姿が少なくなり、時々集まって来ても、インターネットゲームを個別にしている子どもが多く見受けられます。子ども達の体験教室への参加も、休日の朝が出にくいのか、開講日であることを忘れていたり、遅刻してきたりと積極的な姿勢が乏しいように感じます。
図書館が子どもや若者の居場所となるためには、まずは来館したくなるような工夫が必要だと考えています。
米原市全体でみると自然資源も豊かで遊べる場所がたくさんあるようにも思えるが、整備された公園もなく、小学生から高校生までの自由に集える場所がない。近江地域は、特に遊べる場所も少なく、集まれる場所がない。児童館のような誰もが安心して集える場所があるといいと思う。
ファミサポ交流会で体験活動（田植え・稲刈り・季節のイベントなど）を行うと参加者が多く、参加された方からは核家族化や住環境の変化に伴い、子どもに体験させる機会が無いなどの声を聴きます。家族だけではできないことも多いが、（市や社協などの）イベントがあると、気楽に参加できると言われる方が多いです。
市の全地域の人が行きやすい場所に児童館や子育て支援センターがあるといい（長浜市のサンサンランドや彦根市の荒神山のような）。職員と気軽に話せたり、ベビーマッサージなどの体験ができるといい。
米原市には子育て支援センターはあるが、未就園児と限られていて、すべての子どもたちが遊べる屋内施設が少ない。児童館のような土日、夏休みなど大型連休も遊べる場があるとよい。また公園も少ない。水辺や砂場が少ない。山東幼稚園がどうなるのか。
多様な特性の中で、それぞれにとってより良い体験や居場所を提供することにとても苦慮する。
住宅街に住んでいる、祖父母とは別居という家庭も多く、農作業等の体験機会ができにくい家庭が多いです。
若者や就労困難者が体験できる場所の不足は懸念します。一方で、支援者側にもその責任はあると思います（当事者の状況を適切に把握できていない、連携が十分に取れていないなど）。互いが互いを知る機会があると良いと感じます。
学童以外の放課後の居場所があまりに貧弱です。なぜ児童館などを作らないのでしょうか。学童にいかない子どもたちが自由に集える場所を、もっと地域につくるべきです。
子どもから大人まで誰でも参加できるサロン活動や交流広場（外の公園）での花見などを実施していますが、参加される家族が限られている。父母が地域との関わりに無関心。
就園している子どもと親が休日に一緒に過ごせる居場所を増やすことと、周知すること。
誰でもいつでも遊べる公園や施設が少ない。
都市とはちがって、車がないとどこへ行くのも移動しにくい環境であったり、社会資源（通信制高校や大学、居場所等）の多い地域へは距離があるため気力体力財力を要するため通うことの継続が難しかったりする。電車の本数も減ったので、さらに困難になっている。それゆえ、やりたいことや行きたいところへ行くのを諦めざるをえないケースもある。
子どもが自由に遊べる公園や広場等の環境がない。このため、ますます子どもは自宅でスマホでYouTube やＳＮＳを活用する時間が増えている。

5　体験機会や居場所について
各家庭の経済状況については、見えにくい部分が多く、就学援助費受給家庭であるかどうか、学校徴収金の滞納があるかどうかでしか判断できない。また、ヤングケアラーについても同様に学校だけでは把握しづらい問題である。本人にその自覚がないケースが多いといわれるため、「子どもの権利」について、子ども自身が学ぶ機会をつくっていく必要がある。

6　貧困、ヤングケアラーについて
修学旅行の積み立てができていなかったと修学旅行の直前に相談を受けることがあったり、高校進学の直前に費用が工面できないという相談も受ける。学校は、見通しを立てることが難しい保護者が一定数いるということを念頭においた上で、保護者への説明を工夫してもらえたらと思う。
本人もまわりの人もヤングケアラーと気づかずお手伝いを頑張っている子と思っていないか。
保護者の所得に格差があり、子どもへの影響は大変大きなものがある。底辺にいる子ども、家庭をもっと支援すべき。
貧困家庭や家庭基盤がぜい弱な家庭において、習い事や塾等、学校場面以外での活動経験が著しく少ない現状があると思います。そのことが、学力の低下や、子どもの経験不足に影響し、その後の人生に影を落とすことがみられます。
家庭環境、貧困などが原因となり他利用児との会話の中でついていけない内容があったり劣等感を感じている場面を多く見る。
周りではあまり感じない問題だが、実際にそういった家庭があることを知る機会があり、驚いた。子どもが子どもらしく過ごせる環境を作ってあげたいと思った。
片親家庭（母子家庭）で母親は収入を得るため、日中は働きに出ることから、日中のお子さんの状況が把握できていないことが多い。また、離婚された時期や離婚理由もお子さんにとって精神的な影響が少なくない。 両親の高齢化により、親の面倒（家庭内介護）でご本人への負担増が自立への妨げになっている可能性がある。
経済的に余裕がない家庭については急な対応が難しいため、早期から進学（特に高校）に関する支払いスケジュールについて情報提供をする必要がある。
家事ができない保護者さんのもとで暮らしているため、夕食づくりや家族の世話に追われている。自分のために使うエネルギーが湧かない。
本校でもヤングケアラーのうたがいのあるお子さんがいる。ただ、手伝いと、ケアラーの境目を引くのがむずかしい。このことについても学んでいきたいと考える。

7　障がいのある子ども・若者について
健常児とのインクルーシブ保育の大切さは理解できているが、時としてパニックになり、他児が被害を受けるような場合があり、特別支援児の部屋というものの必要性を感じる。
該当する子どもや若者を、当館の職員のみで対応することは、非常に困難なことだと思います。幸い、当館で活動しておられる和太鼓のグループでは、知的障害のあるお子さんと一緒に活動をしておられ、該当する人の活躍の場となっていると考えます。また、別の事業所で、該当する人の自立の一助とするために、焼き菓子を作って販売をされています。当館では、そのお手伝いをするべく、商品を提供していただき販売を行っています。少しでも、その方達の励みになればと思っています。
特別支援保育対象児の他に、個別の関わりを有する園児の増加。
障がいの手帳は取れないが、グレーゾーンの子どもは中学校を卒業すると支援を受けにくくなり、生きづらさを抱える可能性がある。
図書館利用にハンディキャップがある子どもや若者への読書支援が十分には行えていないと考えています。
特別支援教育や発達支援が充実していないように感じる。公的支援の基本的な支援が実施されていると思うが、インクルーシブ教育の考え方に基づいた、個々のニーズに応えるような支援が充実しているとは言えない状況だ。
支援が必要と思われる子の利用の際、サポートに支障が出る可能性があります。関係機関にも相談し、ファミサポでの対応が適切なのかを判断する必要があります。ファミサポでサポートをする場合、サポーターさんに負担がかからないよう事前面談での綿密な打ち合わせが必要となります。
障害のある子どもとご家族、特に兄弟への支援がますます必要と感じる
障害のある子は発表会や運動会で奇行を見せることが少なくありません。そのため親は保育園のころの孤独感（提携発達の親とは悩みが共有しにくい）とストレス（子がトラブルを起こしてきやすい）、不安（常にだれかに迷惑をかけているのではないか、子供や家族の将来のこと）が常にあります。また小学校の進学にあたって思いが一層強くなりました。障害のある子の親同士保育園でつながる場があれば進級するときや子育ての悩みや情報共有がしやすくママたちが安心した子育て環境を作られればこどもも育ちやすくなるのではと思います。障害のある子の親につながりたい希望があるか聞いてもらって保育園で繋がる場を作っていただき（できればライン交換まで案内してもらい）たいです。
発達障がいの子を抱える保護者から、ママ友との関わり方や子どもの就学などの悩みを聞きます。
障害を受容していない方の層が支援の困難さを助長していると感じます。4 とも関連しますが早期に介入することで、状況がよりよく変化することも考えられるので連携した支援の必要性を感じます。
発達年齢に合わせ、子どもの自立を第一に考えていき、干渉を控えていくことがよいのかもしれない。 ・ＳＮＳなど、不特定多数の人に「虐待を受けている。」「助けて。」と訴えることができる時代だが、正確な情報をいち早く収集する方法を支援者が持ち合わせていないことがある。 ・障害のある子と、ボーダーラインの保護者の家庭を支援する時の複合的な課題の整理、解決が難しい。
子どもの障がいの受容ができないまま、子どもが大人になってしまい、ひきこもりになってしまっている。

7　障がいのある子ども・若者について
通常学級においても、発達の課題を抱えると思われる子どもが多数存在しており、その一人一人に応じた支援を充実させ、それを継続していくことを大切にしていきたい。しかし、その数は年々増加しており、自校の職員だけでは手が回りきらない状況になりつつある。
障害のある子を育てる親が相談できる場がないため、親が孤立している。
児童の現状を改善すること、また児童の将来をビジョンとしてえがき、それに基づいた教育をすすめる必要がある。

8　外国につながる子ども・若者について
家族は当然助け合うものだと考える文化があると、ヤングケアラーということを理解してもらうのは難しい。進学に対する考えも違うと、中卒→不安定就労→貧困の連鎖が起きやすい。親子間で言葉の壁があるケースもある。
現場には外国籍の子が何人かいる中で、一番には言葉の壁を強く感じている。外国籍の子の保護者と、コミュニケーションをとる為にも、信頼関係を築く必要性を感じ、通訳を兼ねて、同国籍の支援員を雇用している。友達との接点がない子もみられ、狭い友達関係のみで 6 年間が過ぎてしまっている子が在籍しているのが気になっている。
・中学校卒業後の進路。進学について、日本の高校 or ブラジルの高校の相談関係。また、やむを得ず就職を選択された場合、就職先について、どこが対応するのか。 ・ご両親が仕事を休むことが出来ず、中学校へ行っている子どもに体調を崩した兄弟（幼児）の面倒をみており、不登校となっているケースがある。 ・ご両親の失業や就業時間カットによる貧困家庭（食料支援が必要な家庭）への対応。 ※現在は米原市社会福祉協議会、フードバンク米原等のご協力により対応しているが、根本的な解決となっていない。
在日の保護者様、利用児との日常のコミュニケーションが難しく、こまかなサービス提供がやりづらい。
保護者が外国にルーツのある方で、友達を作りたいと相談を受けました。ここ数年、サークルづくりの参加者の中に外国にルーツのある方が参加されています。
・外国語を母語とする児童への対応。 学校での様子や持ち物を保護者（日本語不可）の方へ伝えきれないことがある。また、児童は、一見、日本語をしっかりと話しているように思えるが、学習言語と生活言語は違う。その児童たちの学習を保障できるような制度や人員の補充が必要であると感じる。

9　子どもを取り巻く犯罪・事故等について
小学校から不審者情報の連絡をよくいただきます。安全の為に行っている児童の登下校の見守りパトロールについてですが、集落によって保護者の当番制の負担の差がはげしく、地域・学校・PTA での調整がうまくいっていない現状を解決できればと思っています。
いつ巻き込まれるかわからないので不安を感じるし、自分の子どもが加害者にならないよう子どもたちと関わっていきたいと思う。

9　子どもを取り巻く犯罪・事故等について
子どもが巻き込まれる犯罪や事故が後を絶たず、SNS 等の使用上の注意喚起、交通事故防止のさらなる対策が必要。
ＳＮＳを通じてのいじめが多いがまわりから気付きにくい。ちょっとしたことでも、された人はショックを受けているようだ。
携帯電話や通信可能な端末を所持することが低年齢化してきている。学校教育の中で正しいネットとの付き合い方や情報モラル等の学習はするが、家庭や地域においても、子どもたちの置かれている現状の把握や家庭教育のあり方が重要だと感じている。

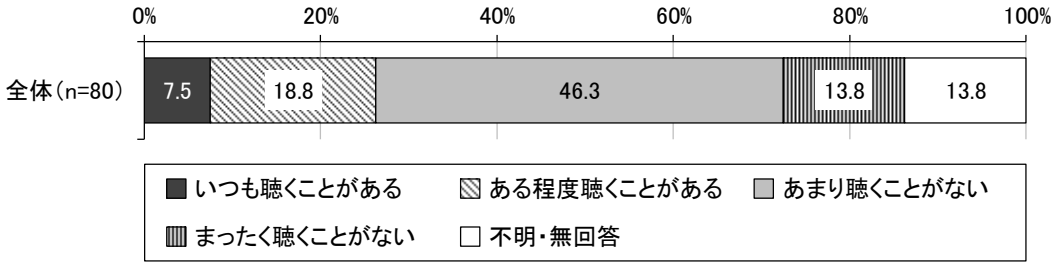
10　子ども・若者の意見を聞く機会について
当館の運営を考える時、現代の子どもや若者が何を求めているのかを把握する必要があると思いますが、なかなか若者の来館が少ないのでその機会が少なく残念です。来館されたら機会を見つけて、子ども＆若者向けのアンケートを実施して情報を得ていくことも一つの方法かと思います。学校やこども園との連携も必要と考えています。
子どもや若者の意見を幅広く聞く機会が不足していると思います。
学校でのこと（校則、行事など）や行政の施策において、当時者の子どもたちの声が本当に聴かれているのか、疑問です。子どもたちの声は聞いたらいいではなく、聞いて実際の施策や学校での１つ１つに反映しないといけないはずです。大人都合になってはいませんか。中学生の校則、この計画も含めて、すべての子どもに意見を聞くべきだと思います。なぜできないのでしょうか。

11　その他
耳鼻科がない。
最近の子は顔が小さいので矯正をしていたり考えているという話をよく聞きます。歯医者はマル福で無料なのでじゅうぶんありがたいですが、矯正にも補助などがあるといいなと思いました。
ＳＮＳ上での友達とのやり取りでトラブルになるケースが非常に多いが、親がやり取りの内容に日頃から立ち入れていない。（例）画像（顔写真）の第３者への無断送信・拡散（グループ内）、グループからの追い出し、インスタグラムのコメント欄荒らし（匿名アカウント） 心配ごと、ＳＮＳプロフィール欄に本人を特定できる自己紹介（例）山中３Ｂ〇番、アプリＳＰＯＯＮの音声ライブ配信

問４　活動を通じて、子ども・若者や子育て中の保護者の方自身から、活動への意見や市への要望等、生の声を聴く機会はありますか。（○はそれぞれ１つだけ）

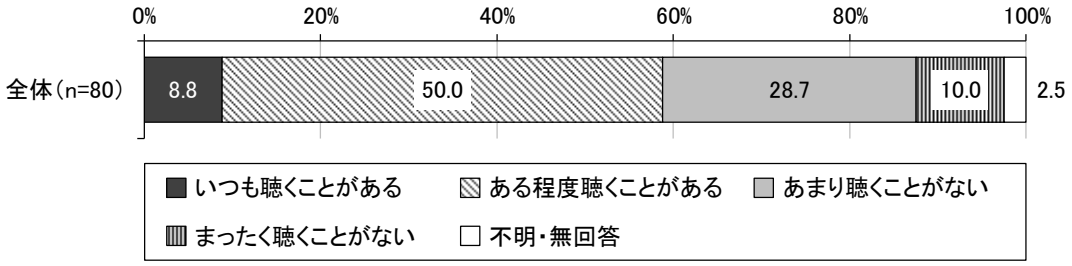
【子ども・若者自身】

「あまり聴くことがない」が 46.3%と最も高く、次いで「ある程度聴くことがある」が 18.8%、「まったく聴くことがない」が 13.8%となっています。



【子育て中の保護者】

「ある程度聴くことがある」が 50.0%と最も高く、次いで「あまり聴くことがない」が 28.7%、「まったく聴くことがない」が 10.0%となっています。



問４で、「いつも聴くことがある」「ある程度聴くことがある」と回答した方

問５　意見はどのような内容が多いですか。（具体的な内容をご記入ください。）

子ども・若者自身から聴く意見
児童クラブでの小学生からの意見や、中学生の職場体験等での話す機会に聞くことはある。
勉強する場所として使いたい。
それぞれの思いや要求等
家庭の中の状況、食事、きょうだいの様子、週末の過ごし方など子どもから積極的に教師に話しかけてくれます。また、こちらからの質問に対しても、しっかりと聞き、返してくれます。
自分自身の努力不足で直接、声が届くことはほとんどありません。
・小学校卒業しても、クラブに遊びに来たい！行きたい！ ・親の就労とか関係なしに、クラブに行けるようにしてほしい！ ・保育が必要ないときとか、土曜日にもクラブに来たい！ ・さかっこが学校をしてくれたら、めっちゃ行きたい！ ・さかっこでお泊まり会をさせてほしい！ ・学校がしんどいときに、さかっこに来たい！ ・昼間に遊べる場所が少ない。野球とサッカーと思いっきりできるところがほしい！ ・宿題を減らしてほしい！
遊ぶスペースの問題は、よく子ども達から聞く。小学校の体育館や運動場の利用等　他の団体と共同なので中々思うようにはならないことを伝えている。
・送ってもらえるので習い事に行けて嬉しい。 ・サポーターさんは優しい。
・学区が広すぎるので、中間地点に遊べる場がほしい。（ボール等を使ってもいいところ） ・公園を充実させてほしい。（遊具の老朽化）
移動手段が少ない。商業施設がない。
・授業についていけない。内容がわからない。ノートを取っていても、進むのが早く全て取れない。 ・「言葉の壁」により同じ国の子とすごしているため、学校でどちらかが休むと自分も休んでしまう。
自身での発話が難しく、聴くことが少ない。
子供たちからは（活動が）楽しい、次はいつ遊ぶん？この前はありがとう！またやってほしい！
・学校に行きたくないという気持ち。 ・人間関係の悩み。
学校（勉強）がおもしろくない。中学生では、部活の時に体育館で理不尽に先生から怒られた。学校で理不尽さを感じたことを喋ることが多いです。
やはり、旧息郷学区は学校から帰ってサッカー、ボール遊びなどをする場所がなく、学校（河南小）まで遠くて行くのにも大変で近くに遊べる所があるといいなと思う。
あじっこ、たまり場、スクールガードで子どもたちは元気で楽しそうに
みんなと遊べて楽しい。
学校や園への要望はあるが、行政に対しては聞かない。ないということではなくて、制度やサービスについてわかっていないところがあるのではないか。

子ども・若者自身から聴く意見
ボールを使って遊べるところや、大きな公園がない。
学校の活動に対する意見（よかったところ・反省すべきところ、学校をよくするためにできること等々）は聞くが、市への意見・要望はない。
進路について理想や偏見を語られることが辛い。苦しい。
・学校生活や学校での人間関係に関わる悩み ・家庭での悩み ・学習に対する不安や悩み
・学習についての質問 ・行事についての意見 ・友だちとの関係について相談

子育て中の保護者から聴く意見
保護者役員会やその活動の時に本音を聞ける。
子どもを自由に遊ばせる場所がほしい。お話会、読み聞かせの会など定期的にあればうれしい。
（園内）子どもに関する相談や、意見・要望等 （市）園庭のフェンスを高くしてほしい（不審者対策）
・子育てへの不安 ・家庭内の悩み ・保護者間の人間関係の悩み
・地域に遊べる環境がない ・子どもの安全管理について
保護者が相談できる機関
家にこもらず外へ出て社会とつながらせたい。
送迎時に子育てに関する悩みや、家での様子、きょうだいの様子、何気ない会話など気軽に話しかけてくれます。こちらからの質問にも素直に返してくれます。園は、毎日のことなので、保護者との関係を作りやすく、そこが強みでもあります。園行事の際には、その都度配布したアンケートに対しても、感想を丁寧に記入してくれます。
学校での不登校、いじめ、部活での対応等、相談を受けることはあります。
・発達障害に関するサービスが利用しにくい。例えば、放課後等デイサービスの 1 週間の利用回数をもっと増やしてほしい。 ・朝や夕方の児童クラブの利用時間をもっと長くしてほしい。 ・土曜保育の時間が短い。 ・土曜保育の一時預りがほしい。 ・未就学児対象のクラブの一日保育体験がほしい（学校の就学前体験みたいな） ・さかっこ参観の日を作ってほしい！ ・さかっこの手作りご飯が食べたい！ ・私もさかっこで遊びたい！（ある母より）

子育て中の保護者から聴く意見
友達関係の事（いじめにつながる問題）やいろんな悩みの相談をよく受けている。家庭での子どもの様子の相談が多い。市への要望で利用料が高いとの意見が多い。
・子どもに発達面での課題があったり、障害があり、大変で育児や子どもとのかかわり方がについて相談に乗って欲しい。 ・病気や用事がある時に、気軽に子どもを預かってくれる場所が欲しい。
・子どもを育てることへの不安 ・ミルクを飲まない・夜泣き・離乳食を食べない・便秘 ・子どもにどうかかわっていいのか ・子どもが「かわいい」と思えない ・子どもの発達に関して ・家族間の心配事 ・夫の育児協力 ・祖父母の育児介入
・サポーターさんのお陰で習い事にも通うことができ、感謝しかない。 ・サポーターさんは良い人ばかりで安心して預けられる。 ・自分もお世話になったので、子どもの手が離れたため今度はサポーターとして登録する。何か少しでも力になれたら。
・意見ではないが、一時預かりや就園等についてのお尋ねをされることが多い。
外遊びできる場所はたくさんあるが、室内で体を動かして遊べる施設が少ない。雨の日や暑い日など、気軽に遊べる室内施設があるといいなという意見をよく聞きます。
・遊び場所（屋内、土日、夏休みなど） ・公園、砂場、水辺がほしい ・幼稚園がなくなり、あの施設はどうなるのか
・学校で頑張っても、ついていけないので塾に行った方が良いか。 ・家庭教師は高い。学校で宿題を教えてくれない。 ・宿題が見れないので、学校（学童）で見て欲しい。
懇談やアンケートにて思いを聞き取っている。子どもへの日々の対応についての不安や、卒業後の進路についての不安などがあげられている。
・あおぞらが利用できない時は？ ・不登校のお子さんの場合、まずどうしたらよいのか？ ・どこに受診（相談）すればよいのか？（小児科として）
幼児期保護者から、「雨の日、雪の日に遊びに連れて行くところがない」とよく聞きます。
親亡き後の住まいのこと、通学支援だけでなく、事業所↔自宅などの支援（長期休み中の通所）もほしい。
放課後等デイサービスの預かりの時間を長くしてほしい、利用できる日数を増やしてほしい。
米原、近江地区で充実した遊具のそろった公園が少ないこと。
夏期中だけでもバス通学にしてほしい（熱中症等心配）。

子育て中の保護者から聴く意見

〈新生児訪問時のアンケートより〉

・子連れで利用できる施設が少なすぎる。米原市内で利用しやすい、子どもを遊ばせやすい場所を有料でもよいので作ってほしい。

・コロナで産院がなかったので両親学級をやってほしい。（4 件）

・妊婦、産婦の運動系のもの、ヨガが受けられるとよかった。（3 件）

・産後ケアを近くで利用できたらよい。（2 件）

・おむつ無料券、定期便を他市のようにやってほしい。

・家事代行

・助産師や保健師の相談を一人目の時はしたかった。

・産後、新生児訪問で話を聞いてもらえるのが嬉しかった。心強かった。電話で気にかけて下さってありがたかった。

〈妊娠 8 か月のアンケートより〉

保育園に関することが最も多く、22 件ありました。内容は、上の子が産前産後保育に入れなかったこと、6 か月で退園になってしまうことでの育児不安に関する訴えや園がどこにあるのか、入園の申込はいつどこで行うのかといった園に関する情報について知りたいとの記載がありました。次に、子育てに関するものが 20 件あり、内容はきょうだい全員に関わっていけるか、また上の子の園の送迎の負担や上記と同じく、産後 6 か月で退園になることでその後の育児を心配する記載がありました。その他、切迫早産に関すること、産休育休に伴う収入減少について、育児と仕事の両立、里帰り後やパートナーの育休が終わった後の子育てについての記載がありました。

〈活動への意見〉

・母と子で晩ご飯を食べることが多いので、わいわい友達と一緒に食べることに特別感があり喜んでいる。

・一人っこなので、交流できる機会が嬉しい。

〈市への要望〉（問 3 以外）

・雨天時や夏、冬以外でも公園のように遊べる、室内の遊び場が欲しい。

・（長浜市のサンサンランドは、午後小学生も入れるので、歳の差がある兄弟でもつれていきやすい。）夏休み、やすらぎハウスの開放はありがたかったです。

・いつもありがとう、ワンオペやから助かるよ

・（ママは）子供との写真がないからうれしい

・親同士話す機会が（あんまり）ないからうれしい

・トラブルのあった先生、こども、親苦手と思ってたけど他の人からいい人って知れてよかった

・園の次のイベントの流れや持ち物を話し合うことで忘れ物を防げたりスムーズに事が進んだ

・つながっておくことで園と連絡がつかない時間でもちょっとした疑問や、なくしてしまったプリントを共有したり、子供と親の顔が一致することで子育てしやすい環境につながっています

・一人ではさせてあげられないことさせてもらってありがとう

・また誘ってほしいです、準備や企画、ありがとう

・長浜市や彦根市のように、子どもたちを遊ばせる場所が欲しい。

・室内でも広々と遊べる場所が欲しい。

・子どもの不登校や学校行き渋りについて。

子育て中の保護者から聴く意見
長期休暇になると、家に子どもたちがずっといるので、しんどい。学童に周りの子供が行くので、自分の子供が遊べる範囲に子供がいない。
周囲にサポートしてくれる地縁、血縁の人が誰もいない中で、初めての子育てに直面した時はしんどかった。コロナ禍が拍車をかけて、子育て支援センターは予約が必要、また乳児の間は、支援センターに行っても母親どうしの交流ができず、積極的に人に話しかけられない人はますます孤立する。
やはり、旧息郷学区は学校から帰ってサッカー、ボール遊びなどをする場所がなく、学校（河南小）まで遠くて行くのにも大変で近くに遊べる所があるといいなと思う。
チーム担任制によって、時間によっては、なかなか主担任に出会えないことへの不安。兄弟で同じ園に入れなかった時の負担。仕事と育児の両立の大変さ。横のつながりの少なさ。同じ地域の子どもと保護者、地域の人との繋がりの希薄さによって、地域の同学年に誰がいるのかも知れない。
子育てしやすい環境づくりについて ・米原市の育休継続制度の要望 ①子どもの誕生の産後保育が終了後、年度内は３歳児以上が短時間利用できる。…年度内で短時間（16：00 頃退園）→短時部（14：00 退園）への変更がなく、午睡への影響がないため。また、教員の人員も３歳児以上ならクリアしやすいのではと考えるため。 ②子どもの誕生の産後保育（産後６か月）が終了後、職場復帰の時期まで、３歳児以上が短時間利用できる。…①の理由に加えて、上の子どもは職場復帰後の保育時間にならす必要がないので、生まれたこどもの慣らし保育だけに専念できる。東近江市、多賀町、愛荘町、甲賀市が行っている制度。 ③子どもの誕生の産後保育（産後６か月）が終了後、年度内は何歳児でも短時間利用できる。…年度内の変更がないことに加えて０、１、２歳の年子をされる方は想定すると、３歳児未満も利用できる方が親も子も心身ともに安全に生活できるのではと考えるため。 ④子どもの誕生の産後保育（産後６か月）が終了後、１年間は、３歳児以上が短時間利用できる。…①の理由に加え、子どもの生まれ月による利用月数に差が生じないため。 ⑤子どもの誕生の産後保育（産後６か月）が終了後、１年間は、何歳児でも短時間利用できる。…①の理由に加え、子どもの生まれ月による利用月数に差が生じないため。近隣の長浜市、彦根市が令和６年度より導入する制度。子どもと父親がサロン等に参加することで、母親が休息をとったり、家のことができる。
③ですが、あゆっ子に来られる保護者の方から米原は室内で遊べる施設が少ないという声がある。
・「私の味方は誰もいない。」と言われる。 ・「私が助けてほしい時間は 17 時以降、18 時や 19 時なんです。そんな時に助けてもらえるんですか？」と言われる。 ・「相談に来てと言われても、土日しか出られません。」と言われる。 ・一時的に子どもを預かってほしいが、預かってもらえる場所はあるか。
降園後に遊ばせる場所がない。
学級・学年の取組や全校での取組に対するご意見はうかがうことはあるが、市に対する意見はあまり聞くことはない。市への意見として時々あがってくるのは、通学路の安全に関する要望や施設に関することくらいである。
居場所づくりをされている側への公的支援を、市がもっとするべき…など。

子育て中の保護者から聴く意見
・スクールガードなど登下校の見守りをしてくださっている方が高齢で、年々負担感が増しているが、保護者世代は勤めがあるため難しい。子どもの安全を守る策を考えてほしい。 ・現在、長岡方面のスクールバスがピストン運行であるため、2 台同時に送迎をしていただけるとありがたい。 ・加勢野から通学する児童が減少している。特に下校時は人数が少なく危険であるのでバス通学にしてほしい。
・通学や学校生活上の子どもの安全について（けがの防止や熱中症について） ・子どもに対するいじめやケガ等について
学校教育に対しての意見（校外学習等）
・学校の教育活動に対する質問や意見 ・子どもの人間関係に関する質問や相談 ・子どもの学習面に関する質問や相談
・ＳＣにつないでほしい ・ＳＳＷにつないでほしい ・子どものことについて相談したい（友達関係・学習・集団登下校のことなど）

問６　活動する中で、子ども・若者からの相談や意見を聞く際に工夫していることがあれば教えてください。

子ども・若者から意見を聞くときの工夫
フレンドリーな雰囲気を作り、できるだけ本音を聞き取る。懇談会などで雑談も取り入れ、要望を聞いたりする。
勉強する場所として使いたいという申し出があるので、勉強以外の活動で集まる子ども達とは部屋を分けて案内しています。また、講座の開催等でフリースペースを使っているときは、空いている部屋を開放することもあります。集まってくれる子どもには、挨拶と声かけをしています。会話の中から聞ける場面もありますが、あまり期待する意見等は聞けないのが実情です。
子どもの気持ちに寄り添えるよう、できる限り丁寧に聴きとり、児の発達や心情、状況の正しい理解に努めている。また、日々の保育の中で信頼関係の構築に努めている。
・居場所づくり（環境づくり） ・信頼関係（安全、安心） ・個々に応じた対応
相手の話をさえぎらず、じっくり聴き、でもしつこくせずにさりげなく意見や相談事を聴き出すようにしています。（大変難しいことです）
相手の様子を見ながら、チャンスを見て話しかけ、まずは信頼関係を築くことを大切にしています。その後は、積極的にいろいろな立場の職員から話しかけ、話しやすい関係を作れるように努めています。
直接声を聞くことはできないため、園・学校の先生方との懇談会をもち、情報を得るようにしている。
相談を受けたことはありませんが、相談を受けた時は相談者の思いを吐いてもらい、受け止め一緒に考えていきたいと考えています。アドバイスはしていきますが、判断は相談者であることを基本にしていきたいです。
・学校や未就園児支援センターとの連携を密にして、情報収集に努めている。（ある程度、定期的に訪問する。） ・会議や情報交換会の場で得た情報を各校園などに情報提供している。
「まずは、聴くことに徹する」このことを大切にしようと思っていますが、ついついアドバイス等をしゃべってしまいます。
できるだけ、フラットな人と人の関係を大切にしています。ふとした日常会話の中で、悩みや考えていることを聞くことがあるので。
何でも戯気軽に話してもらえるように、日々、コミュニケーションを大事にしている。
コミュニケーションをとるために、こちらからの言葉かけを密にとっている。保護者にアンケートを実施して、改善すべき点、当施設に対する意見、行政への意見等を、集計して保護者に伝えている。意見を、それぞれに反映しているつもりであるが、なかなか難しい。
相談や意見を聞くことはありませんが、もし聞く機会があれば工夫でなく、子どもや若者の声を顔を見て、目を合わせしっかり聴くことだと思います。

子ども・若者から意見を聞くときの工夫
こちらで解決できることであれば、全員で協議をして解決への答えを探していくが、こちらだけでの判断や解決が難しい場合は、市に相談をさせていただき、判断を仰ぐ。保護者やこどもが伝えやすいように日ごろから、コミュニケーションをしっかり取り、関係性を築いていけるようにしている。
・当センターは被虐待や触法等の相談が多いため、学校現場等の職員に対して、「誰にも言わないから～教えて」等、できるだけ秘密の相談は受けないようにして、「相談内容によっては、しかるべき相談機関に繋げるよ」とアナウンスしています。 ・子ども自身の言葉だけでなく、表情やしぐさ等、非言語のコミュニケーションにも注意しています。
・安心して過ごせるような部屋を確保する。 ・興味関心を示してくれそうなおもちゃを備え、一緒に遊びながら、気持ちを受け止めていく。
・子どもが話をしやすいように、まずは仲良くなる。 ・話を聞くことに重きを置くとプレッシャーになるため、何か楽しい遊びをする中で話を聞く。
・親子で一緒に遊びながら、信頼関係を築き、話しやすい雰囲気を大切にしている。 ・否定的な声がけは控え、気持に寄り添い、子育てについて共に考えるというスタンスを大切にしている。 ・スタッフ同士、共通理解をしながら役割分担をして親子に関わっている。
・寄り添う。意見を否定せずに、まず聞く。 ・ある程度、自分の話もして心を開いてもらう。
傾聴を心掛ける。主訴が何かを考えながら聞く。一方的な見方にならないように気を付ける。
なるべく最後まで保護者の悩みを聞いて、対応できる方に相談をする。
乳幼児健診では保護者が記載されている質問票に基づいて、身体面、発達面や食事、生活リズムなどについて心配されていることを聞き取り、保護者ができるだけ話しやすいように心がけている。子どもの育ちや関わり方について保護者とともに成長を喜びあいながら共有している。
できるだけ困りごとや不安ごとを聞くようにしている。発信の難しい児童生徒については、日々の様子の変化など見落とさないよう気を付けている。
・安心して話していただけるように心がけています。 ・「家の近くが行きやすい」「近所だと知人に会うかもしれないから遠くがいい」などのニーズに合わせて、本庁舎の一室やルッチプラザの一室など複数の相談室を使い分けたり、待ち合わせの場所を配慮したりしています。
事業所への意見はアンケートや自己評価などで意見をもらう機会を定期的に取っています。日常的にも意見交換がしやすい雰囲気づくりを意識しています。
活動の対象が、乳幼児、小学生なので、やりたい遊び等しか、聞くことがありません。
おだやかに過ごせる空間作り
トラブルがあれば子供たちがその子の親に言いに来てくれています。
・子どもが話をしやすいように、まずは仲良くなる。 ・話を聞くことに重きを置くとプレッシャーになるため、何か楽しい遊びをする中で話を聞く。
対面相談時は、相談者の近況やご自身の得意なことなどを伺い傾聴しながら、まずはご自身の考えや思いを言葉に出し人に伝えることで相談員との関係性を構築することに努めています。また、サロン

子ども・若者から意見を聞くときの工夫
や施設内イベントに参加することで、自然な流れで対話（言葉のキャッチボール）出来るように努めている。
・相手の話を 100%聞こうと心がけること。早とちりせず丁寧に聞くこと。 ・「根掘り葉掘り」聞かないこと。無理に聞き出さず、話してくれるまで待つ。 ・子どもたちと対等な関係であろうとすること。「同じように悩みながら生きている大人のひとり」として、一緒に考える姿勢で話を聞くこと。
できるだけ毎日古民家をあけて、そこで子どもたちとなんでも無い時間をすごすことです。意見や相談を聞こうとして聞けるものでは無いと思います。
関わる大人との安心できる環境。日ごろからの関係を築く機会が必要。
実体験ではありませんが、日頃から一緒に活動したり、遊んだりすることで、子ども・若者と信頼関係が築け、ポロっと本音を話してくれることがあると。相談室などでいきなり、悩んでいることを話して、と言っても心は開いてはくれないとのことです。
・地域の子どもたちに関わるときには、笑顔であいさつしたり話しかけたりし、傾聴を心がけている。 ・子どもや若者とよりよい関係が築けるように寄り添うことを意識し、相手が話しやすい雰囲気をつくるようにしている。
どんなことでも聞いてあげるという雰囲気を常日頃から作っておくこと。
・当人が納得し、自らやっていこうと言う気持ちを高めていきたいと思っているが、うまく高められないことが多い。 ・相手の話のペースに合わせ、同じ目線で話す等、なるべく安心感を与えられるようにしながら話を聞く。 ・同じ目線に立ち、相手の思いを尊重し、話を聞かせてもらう。話しやすい雰囲気をつくる。 ・アドバイスしようとしない。声をきくことを最優先に。 ・話すときは相手の目線の高さに合わせ、正面ではなく斜め前もしくは横に座ってから話す。 ・相手の緊張具合から、ゲームや好きなアニメの話などしてリラックスして話しやすい雰囲気を作る。 ・真っ白な紙と色ペンなどつかい、絵や図を描いてもらったりしながら話を聞く。 ・誘導的な質問にならないように、質問する時は注意する。 ・もう少し話したいな…という部分を残して終わるようにする。
自分の気持ちを受け止めてくれたと実感できる傾聴のしかた。みんなと同じにできないことへの焦りや苛立ちを感じなくて済むよう、現状を肯定的に受け止めることや、出来ていることへのねぎらいと認めの言葉を忘れないこと。
教育相談の時間を持ち、個別に子供たちの意見を聞く機会を設けている。
児童を対象に学期に 1 回程度アンケートをとり、担任が教育相談を行っている。また、その内容を教育相談担当や生徒指導主任、教務主任、管理職で情報共有し、必要に応じて校内で会議を開いたり、相談機関につないだりといった対応をしている。
傾聴すること。
学期に一度、児童および保護者に調査活動を行い、特にいじめや家庭環境の変容について把握するとともに、保護者の意見をうかがうようにしている。
普段からの関わり・連携や、学校評価アンケートなど

子ども・若者から意見を聞くときの工夫
・定例の教育相談の機会を設け、生徒一人ひとりと担任がじっくりと話をする時間を確保している。 ・定期的に学校生活に関するアンケートを実施し、個々の抱える悩みの把握に努めている。
子ども、保護者ともに、風通しよく、自由に意見を表明できるようにしている。また、聞いた意見は全て一旦受けとめるようにしている。
学期に１回は教育相談を行い、教師と児童が１対１で話せる場の設定をしている。その際には、アンケートから児童の思いを十分に聞くようにしている。

問７　子ども・若者が安心して過ごせる居場所には、どのような視点・機能が必要だと思いますか。

居場所に必要な視点・機能
地域との連携、市を交えて協力を得ていく。
子どもと保護者が一緒に遊べる大型遊具のある施設（室内でも遊べる）センター的なところを望んでおられる。そこへ行けば相談もできる、安心できる。ゆったりできる場所が必要。
気軽に集える場所があり、その中でいろいろな世代と交流できる機会をつくることが必要だと考えます。同年代とのつながりは多いが年代を超えた交流がないため、年上から学ぶことや社会でのルールが、正しく自然に学べていない気がします。年上が年下の子を労う、年下が年上を頼りにするなど、お互いの思いやりや交流が生まれるような視点や機能が必要だと考えます。
日々様々な工夫を行っているが、何より人的配置の充実が必須であると考える。勤務する職員に心身の余裕がなければ、安心・安全な環境の実現は難しくなってくる。家庭の教育力の低下や２号、３号認定の子どもの増加などにより、職員の負担も増加している。職員が笑顔で子どもと接し、「楽しい」と感じられない保育現場は、子どもにとって安心して過ごせる場にはならないとわかっているだけに悩ましい。保護者支援とはこのような状況になる保護者を減らすためのものであるが、そのために職員が追い詰められてしまう状況は回避したいと願っている。
・ありのままの子どもの姿や気持ちを受け止める。 ・話を傾聴する。 ・保護者との連携（懇談等）。 ・子どもの姿を全職員で共有し、かかわり方を統一する。
・学校とは違うほっとする環境、自然あふれる場所（気がねなく外に出られる環境） ・通所者の意志の尊重 ・ＧＷ（ガイドウォーカー：支援員）との信頼関係
個によって違いはあるが、子どもを受容し共感することにより安心感を与えられるのではないかと思う。非常に難しいことで、自分の経験から支援している部分が多い（専門家から教えてほしいと思う時がある）。
無料や低価格で気軽に利用できる公園や遊べる施設があることで、時間を見つけて親子で安心して遊ぶことができると思います。また、未就園児親子が過ごすことができる子育て支援センターなどを市内１か所設けて、週末も開設してもらえることで、子育て中の親子が安心して通う遊び場になったり、友達作りのきっかけになったり、気軽に相談できる場になればいいと思います。 若者が安心して…となると難しいですが、市内には娯楽となる遊ぶ場がないので、そのあたりが改善できればと思います。
・自分の興味・関心に応えてくれる本があること ・空間が確保されていること ・職員などの大人から快く迎えられていること ・職員などの大人から干渉されすぎないこと

居場所に必要な視点・機能
・忙し過ぎる子どもたちである。ゆったりとした時間を過ごせる居場所が必要である。 ・子どもは、親と一緒に過ごすことが第一だと考える。しかし、その親が忙しい。親が、時間にゆとりをもてる働き方ができるよう考えていく必要がある。
・特別な子どもだけが行く場所と感じさせず誰でも気軽に立ち寄ってもよい雰囲気がある ・歓迎してむかえてくれる雰囲気があり安心してすごせる場所 ・ゆっくりすごせる部屋、スペースがある ・気持ちを出せるスタッフ、相談者がいる
・地域内で気軽に出会えて、話し合える場があるといいと思う。 ・思いを伝えられる人、相談にのってくれる人が必要である。（委員とか役職のある方でなく、地域のおじさん、おばさんと言った方々）
・学校教育のように規則正しく学習や生活を学べる場と自由に選択して自分のやりたい事に取り組める場の併用。 ・夜間（放課後）学校のように、児童・生徒が帰宅した後で、学校内で教育を受けられる場、教師による主張家庭教師。
・自由（指示ばかりされない） ・話を聴いてもらえる ・安心できる、信頼できる関係、場所
できるだけ自由に過ごせる場所がいい。あーだこーだ言われることなく、ゆっくり過ごすことができる。例えば、料理を作ったり、工作をしたり、したくなったことをやらせてもらえる。
職員の配置も、行政から十分に配慮がある中で、やはり支援する側の力の資質向上が一番に問われていると思う。特別に支援のいる子も、共に生活する事の限界もあると思う。暴力暴言が飛び交う中や怪我が多発している中での、安心安全の機能が、果たせなくなっていることが多い。
そばに、広い公園や図書館があるといい。児童館機能が子どもの居場所に出来ればいい。
・常に危険なことが起こり得るかもしれないという意識の元、育成支援にあたる。 ・こどもたちが過ごす場所の環境づくりをしっかりと行う事。 ・こどもと１対１にならず、視野を広げ、全体を見える位置についたりなど、立ち位置を意識して、育成支援をしていく。 ・命を預かっているという意識と覚悟を持って育成支援にあたる。
・子どもには、様々な発達特性や発達段階があり、それぞれに応じた集団や配慮、関わり方が必要。 ・周囲の大人から、注意を受けたり、叱られたりしがちな子どもも多いため、マイナスのコミュニケーションだけにならない配慮が必要。
・利用しやすい立地条件が必要 ・行ってみたら「良かった」「楽しかった」と思えるような場所となるための工夫が必要 ・部屋やスペースの確保 ・「歓迎している」というスタイルが伝わる雰囲気 ・クライアントに寄り添うスタッフの姿勢 ・悩みや課題に応じた相談・支援体制

居場所に必要な視点・機能
・関わる大人の人柄。サポーターとして活動される方は素敵な方が多く、子どもたちも安心して過ごすことができます。 ・預かりを行う前の事前面談で、子どもが好きなものや興味のあることなどを聞き、できる範囲で環境を整えてもらい、サポートしてもらっています。 ・人見知り、場所見知りの子の場合、実際の活動までにお試しで親子一緒に遊びに行かれることもあります。ケースによっては、お互いに活動日を安心して迎えるために必要なことだと思います。
・信頼できる大人の存在。自分の家族以外で憧れたり、尊敬できる存在がいるといい。 ・学校以外にも居場所があること。
・遊び場の提供 ・見守りの職員の配置、施設管理の人員 ・安全安心な居場所
・静かな場所でダイナミクス（動きと力）を備えた適切な指導が必要だと思います。 ・家では母国語を使い、日本語を使って生活をすると、どうしても聞き慣れていない日本語が授業で出てくると、そこで、かたまってしまう子が多く、それでも授業は次々と進んでいく。小学校低学年からの積み重ねが必要です。 ・日常会話は大丈夫であっても、休みがちな子が多い。定期的に話を聞いてあげることと、週一、二回の特別授業が必要だと思います。
自分の気持ちを相談でき、自分のことを理解してくれる存在があると感じられること。
コミュニケーション、雑談が苦手な人がいるので、何かを作る、ボードゲームをする、調理をするなど「すること」が明確でそれほどしゃべらなくても居ることができる環境があると参加しやすいと思います。また、個別や少人数からスタートしたり、まずは見ておくことができたりと段階的に参加できる方が望ましいです。
・広い空間と個別の特性に合わせた設定ができる個室空間。 ・自由な自己表現ができて、受け入れてもらえる支援のあり方や支援者の考え方。
米原市役所に行く機会が多いのですが、屋上のテラスでよく遊ばせてもらっています。障がいをもったお子さんと地域のお子さんが気軽に交流できる場所があるのはありがたいです。高校生など生活範囲が広くなってきても交通機関が少ないので特に山東、伊吹地域の方は外出に苦労しています。
乳幼児が多い為、以下個人的な意見です。 ・その場に行くと、必ずいらっしゃる同じ方、メンバーがあたたかく迎えてくれること。会うたび話すたびにうちとけられたら、人のなかに居場所がうまれる。 ・うちとける為に、簡単な共同作業や活動があること。会話や楽しさがうまれる。 ・貢献していると思えたり、感謝されたりする機会があること。手伝ってくれてありがとう、話を聞いてくれてありがとう等、簡単なことでも喜びがうまれる。
安心して遊べる場所がもっとほしい。
体育館のものを子供たちが勝手に出して遊んでしまったことがあります。誰でもいつでも用具を戻せるように写真であらかじめ物の置き場所が分かるようにしてもらえるといいのではと思います。

居場所に必要な視点・機能
・サークルづくりは未就園児とその保護者が対象だが、就園・就学しても関係が続いて行くと良いと思います。就学した子を対象にしたサークルもあります。 ・家族以外の大人と関わることも、子どもたちにとって良い経験になるため、友達の家族や地域の方と関わる機会が増えると良いと思います。 ・家族だけでは体験できないことが、地域の方の力を借りるとできると思います。 ・親は厳しくしてしまうこともあるため、子どもたちにとって逃げ場となるよう場所があっても良いと思います。
安心・安全は勿論ですが、そこに依存するような支援の体制だけは気を付けないといけないと思います。利用者自身に自己決定させること、自身のことは自分で責任を持ってもらうことを支援者がしっかりと考えることが必要だと思います。
・無料であること。（たとえ低額であっても、参加費が必要になると親の了承が必要になる。こうした活動に積極的でない家庭の場合、子どもが参加できなくなってしまう。また、有料だと、「友達に誘われて、当日ふらっと行ってみる」ことができない。） ・予約不要であること。（上記と同様） ・「自由に過ごしていいよ」「やりたいことをしていいし、何もしなくてもいいよ」「いつ来ても、いつ帰ってもいいよ」といったメッセージを、看板やチラシ、または口頭で、子どもたちにしっかり伝えること。 ・子どもたちが好きな食べ物を常備しておくこと。
いつでも開いていることが重要です。それによって、行きたいと思ったときに開いていることが大事だと彼らは教えてくれます。あといちいち大人が声をかけないこと、正しいことを言わないこと、うるさくしないことです。よかれと思って、いろいろ声をかけられるのを鬱陶しく思っています。
子どもがのびのびと安心して遊べる場所があればいい。
４月末に開所したので、まだ直接的な支援に至っていない。
自然風土の効果
大人の価値観を押し付けない、子どもの意見が尊重される空間
以前、学童で、友だちとのトラブルがあり、友だち関係で悩んだり、いじめ的なことが起こったりしていたことを聞いたことがあった。支援員の人数がもっと必要ではないだろうか。
「あなたは、大事な人、必要とされている人」だと思わせること。
たくさんの大人の目があること。

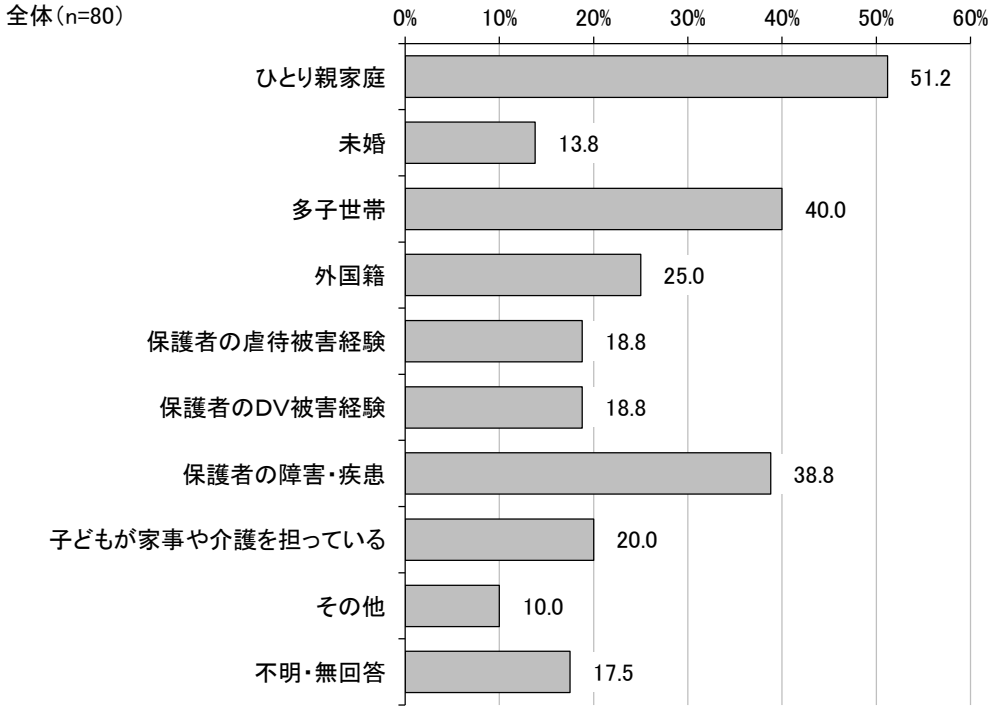
居場所に必要な視点・機能
・家族以外の他の人から認めてもらえるような場であることが必要だと思う。社会的に承認されることが本人の自己有用感を高めていくと考える。 ・大人に対しては、ありのままの自分を受け入れてもらえていると感じられること。 ・場所については、人によって違いがあるが、比較的刺激が少なく、静かな環境。また、ある程度空間がかり、自分の場所が確保できていること。活動が強要されることなく、規律は保たれているが、自由度が高いこと。 ・気をつかわず、ありのままの自分でいられる場所が必要。 ・一定のルールの中で、行動を制限されず自由に過ごせる。 ・自分がやりたいことを選ぶことができる。 ・話したい時に否定せずに傾聴してもらえる。 ・自分の力でその場所まで行くことができる（立地、規模）ように、各地域にそのような場所がある。 ・一人では行けないけれど、誰かとなら行ける（兄弟と一緒なら行けるなど）という気持ちに寄り添える場所で、人数が増えた場合でも対応できるようスタッフが充実していること。 ・保護者や家族の送迎がなくとも、子どもが自分の足で行ける地理的条件。 ・明るく、開放的な雰囲気。 ・何をして過ごすかの選択が自由でありながら、子ども目線で見守ってくださるスタッフが適正人数いること。（川崎市のどろんこパークをイメージしています。）
制限なく、話したり、遊べたりする環境や制しない大人の支援
・ありのままの自分がみとめられるということ ・困りごとに寄り添う人材が存在すること
・自分に微笑んでくれる大人がいること ・保護者も笑顔になってくれること、いっしょにゆっくり遊んでくれること
学校であれば、互いの違いを認め合い、自他の思いを受け止め合える集団をつくるという視点で学校教育を推進することが大切だと考えている。放課後であれば、現在利用をされている方も多いが、学童保育や障がいをもつ子どものためのデイサービス等の充実が望まれる。また、子どもが安心して過ごせる居場所をつくりだすためには、保護者や家庭で子育てを担っている方（祖父母であるケースも多い）の悩みに寄り添い、支援することが必要だと思う。学校がそれを担える場合もあるが、第三者への相談を望む方や学校には打ち明けにくいという人もいる。（ＳＣ、ＳＳＷは時間的な制約があるため、全てに関わることは難しい状況である。）
地域住民の見守りが必要だが、子どもに直接話ができる大人が少なくなってきている。結果、学校が子どもに対する厳しい声（苦情）を聴く窓口になっている。
・安心して子どもたちが相談できる環境。中立の第三者の方が（ＳＣなど）常駐できるとよい。 ・安心して学ぶことができる環境。（個別に対応できる部屋があるとよい）
・自分を受け入れてもらえていると感じられるような環境 ・自分の頑張りを認めてもらえるような環境
・まずは教室が、生徒一人ひとりにとって安心して自分の力を発揮できる場であることが重要である。そのために、生徒指導の実践上の視点として「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安心安全な風土の醸成」の４つに留意して、日々の教育活動を展開していくことが必要と考える。

居場所に必要な視点・機能
・それぞれの多様性が認められ、心の安心安全が守られている。 ・信頼できて頼ることができる大人や先輩がいる。 ・自身の悩みや心配事などが素直に話せる。 ・自分の夢や将来に向けての希望が後押しされ、必要な情報が手に入る。
・教師と子どもの関係、子ども同士の関係が良好であること。 ・児童が安心して自分の思いを話せる。 ・「しっかりと見てもらえている」と児童（保護者）が感じていること。 ・ルールがしっかりと守られていること。

4　困難を抱える家庭の状況について

問８　困難を抱える家庭において、貧困以外にどのような背景や特徴がみられますか。
（あてはまるものすべてに○）

「ひとり親家庭」が 51.2%と最も高く、次いで「多子世帯」が 40.0%、「保護者の障害・疾患」が 38.8%となっています。



【その他】

保護者に話しが通じにくい、問題意識がない
虐待や不適切養育
ワンオペ
参加がない
保護者のやる気

困難を抱える家庭の背景や特徴
地域との連携、市を交えて協力を得ていく。
保護者の障害疾患によりお金を使う優先順位や、同じ物を何度も購入したりする等のお金の管理が出来ない。不登校になっている子どもを家の手伝いにし、親のすべきことを任せている。
生活を支えるため、親が遅くまで働いていたり、土日の休日に親が休みでない場合など、子どもと過ごす時間が少ない。日頃、子どもを見てもらう人がいない。などの背景があると考えます。
成功体験、失敗体験の不足
１：子どもへの関わり方がわからない、子どもが不安定である。 ２：祖母が育てている、母は親の自覚が少なく子どもが不安定である。 ７：持ち物の衛生面の課題、提出物が間に合わない、持ち物の紛失がある。 ８：保護者の子育て方針にて、全ての子に自分の朝ご飯を作らせている。持ち物も上の子が下の子の準備をする。保護者は自立と考えている。
・保護者の精神疾患が子どもに与える影響は大きいように思います。 ・ひとり親家庭の場合､祖父母や保護者のきょうだい等の関わりの有無があるか否かの影響は大きく、誰からの支援も得られないケースは経済的困窮と精神的な孤立の状況にあるケースが多いです。
・保護者の病気が心配で離れたくない。 ・頼れる祖父母や親戚などがいない。 ・地域とのつながりを持たない。
何を持って、困難を抱えているかを見極めるのが難しい。保護者も疲れていて、余裕がない感じでも、本人がそれに気づいていないこともある。また、障害の問題になると、子どもは困難を抱えているが、保護者がそれに気づいていないこともある。
困難を抱えると言っても、どこまでがその域に入り込んでいるのかが理解に苦しむところ。 内面にある貧困と、表に見えている貧困と現状のギャップが大きくあると感じる。 支援の在り方が問題だと感じる。
①経済的 ④言葉・生活習慣等の違い
保護者がＤＶを経験していると、こどもまで影響があり、同じことを周りの友達にしてしまったり、将来大人になったときに自分のこどもに同じことしてしまう可能性が高いこと。保護者が障がいを持つ場合は程度にもよるが、保護者自身が周りのサポートがないとまともに生活が出来なかったりすることがあり、子育てが難しくなり、愛情不足や育児放棄などに繋がってしまう恐れがある。
・面前ＤＶが非常に多い。夫婦間の関係について警察を呼ばないと収まらない等、脆弱な家族関係の世帯、核家族化が目立ってきている。 ・一人親家庭とステップファミリーの増加　家族の形が急激に変化する。あたらな関係の取りにくさ簡単に結婚し簡単に分かれる。ＳＮＳで簡単に知り合う。何の地縁や人間関係のない中で家族になる。孤立的で閉鎖的な養育環境。 ・若年親の増加、未熟な養育知識、経済的な苦しさ、余裕のなさ。 虐待の世代間連鎖のケースが多い。満たされない思い、自分の原家族に対するあきらめ、決別と新たな生殖家族へのあこがれ、憧憬が背景に。 ・精神疾患、発達特性や二次的な障がいによる人格障がい的な保護者が多い。

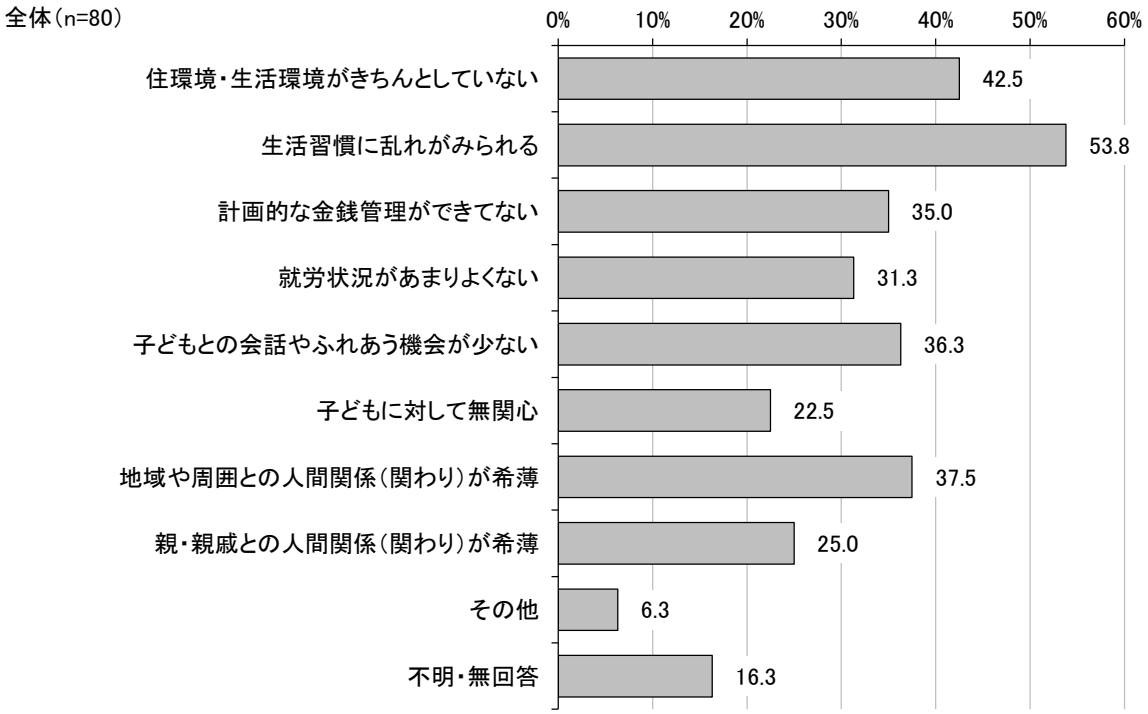
困難を抱える家庭の背景や特徴
・年代別では乳幼児期の養育負担の大きさ。いやいや期の大変さ。思春期の反抗や行動化への対応。高校生年齢で極端に減る。 ・児童の発達特性の問題、適切な集団が保障され、認められる体験ができたか。失敗体験の積み重ねや自尊心の低下、学校場面での不適応、地域での不適応。 →　触法行為　虞犯行為　自傷行為（自殺企図） →　いじめ、衝動性の高さ、支配欲＝攻撃性
・実家からも離れ、知り合いもなくアパートで子どもと二人で過ごしている家庭。 ・生まれて首も座っていない子を小学生の姉に世話をさせている家庭。 ・ハイハイの子どもがいるが、ごみの処理ができず、汚れと危険が多い家庭。 ・ペットの処理ができず不衛生な環境。 ・食事を作らない家庭。 ・子どもの肥満と虫歯が多い。
①金銭的に苦しいこともあり、ファミサポはひとり親家庭への助成があることで利用もしやすくなっています。 ③多子世帯の場合、出産直後等、他の子の送迎が家族だけではまわれない場合があるため、ファミサポに依頼が入ることがあります。 ④祖父母が近くにいないため、サポーターさんに助けてもらう場合があります。 ⑦保護者の障がい・疾患に加え、祖父母が高齢（長時間の世話ができない、運転ができない等）の場合、ファミサポを利用されることもあります。
貧困ではない、非課税世帯ではない普通の世帯には特に給付金や援助もないのに、子どもにはお金がかかり（食費、医療費、学費など）、とても生活が苦しくつらい思いをしている。
・車がない、移動手段が限られお金がかかる ・近所とのコミュニケーションがとりづらい ・公の情報提供の場所がわからない、不定期でいつも空いていない ・通訳がいない、気軽に聞ける人がいない ・公の書類等が読めない ・保育園の書類などむずかしい
仕事を休むことが出来ず、中学生の子どもに体調を崩している下の子の面倒を見させているケースがある。
保護者が日頃から気軽に相談できる相手や場所が少ない。
「ワンオペで大変」という言葉を耳にすることが増えた。子どもが発達障害、親が疲れている。
保護者の方が知的障がいを持っていることで子育てに関する知識や、養育能力が低くならざるを得ないと感じています。
昔、働いていた保育園に多子世帯の家庭があり、大変そうだった。円の準備は前日のまま、お弁当にコンビニのおにぎりや菓子パン、買い物の日は上の子を休ませて、下の子の子守りなど、子どもへの負担を感じた。
①ひとり親家庭のサークル加入は割合としては少ないです。生活のために仕事をされている方が多く、サークル加入者の中にはあまりおられない状況です。

困難を抱える家庭の背景や特徴
③兄弟が多い、双子等で子育てが大変という声はよく聞きます。近くに子育てを手伝ってくれる祖父母・兄弟等がいないとファミサポを利用される方もいます。 ④外国にルーツのある保護者が友達を作りたいという理由でサークルづくりに参加されています。相談を受け、多文化共生協会につないだこともあります。 ⑨ワンオペの家庭も多く、サークル仲間で協力しておられます。
保護者自身も発達障がい傾向にあると思われるが、親の世代では現在のような社会的認知度も低く、特に検査を受けておられないことが考えられる。その状況下での家庭内では「普通」であっても、外部から観ればそのことは「普通」とは言えないことがあり、当事者に理解されにくい面がある。ご両親がそのご両親から厳しく育てられてきた場合、どうしてもご自身のお子さんに対しても意識なく同様に厳しい対応をしてしまうことがあり、「○○しなさい！」「○○しなければならない」との口調が日常的になる傾向がある。
多子世帯では⑧とも関わるのですが、年下の子どもの面倒を見ている子がいます。彼らは、本当はもっと遊びたいけれど、帰らないといけないといいます。あとは、親に余裕がないように思えます。その原因までは聞いていませんが、子どものことを気に掛ける時間的にも精神的にも余裕がないように思います。
保護者が知的障がいであるご家族の困難な状況。発達障がいのお子さんが学校の支援を離れて以降も問題。
米原市は、医療費が高校生まで無料ですが、給食費がいるので次は給食費無料を実現してほしい。とくに、左記 1.2.3.4 の世帯は、ありがたいと思う。
現在、情報を収集中
最近、特に男性の未婚が多く、徐々に高齢化してきており、このことが、孤立、孤独になっていき、課題も。
保護者が体調不良になったときの育児が大変になる。子どもの具合が悪くなっても、仕事の調節、病院の手配、他の兄弟の育児が重なると大変。
地域とのつながりを持たず、無関心。
保護者（母親）に育児、子育てが十分でないケースがある。
経済的困難な状況
保護者が朝起きられない等のうつ病などを抱えておられる子どもさんは大変だと思う。
・保護者が極端な考えを抱くときがあったり、すべて周りの責任にしたりと疾患と思われるようなケースもある。その場合、保護者は自身の疾患に気づいておらず、受診していない場合も多い。 ・「○○の連鎖」と呼ばれるように、虐待も障害・疾患も連鎖していくことが多い。 ・課題が一つだけでなく、いくつも重なって難しくなっている。 ・貧困や虐待は連鎖するといわれているが、教育現場と福祉の現場に関わる中で実感している。
保護者自身が虐待被害を受けてこられた方は、（子どもに対する愛情が決してないわけではないが）どのように愛したらいいのかわからない・どのように子どもと接したらいいかわからないといった悩みを抱えておられる方もいる。
保護者さん自身の生育歴に、親から丁寧に見てもらえなかったり、暴言暴力の中で育っていたりすると、子どもにも粗い言葉が多かったり、幼くても自己責任を押しつけて放任してしまったりすること。

困難を抱える家庭の背景や特徴
・保護者との連絡がつかず、子どもの様子がわかりにくいケースがある。 ・保護者が外国籍のため、情報共有を行うこと等について難しさがある。 ・子どもが夕食を作ったり、十分な栄養が取れているか心配したりするケースがある。
課題を抱える生徒には、家庭において虐待を受けているケースも存在する。虐待する保護者は、幼少期に被虐待の経験を持つことが多いといわれる。
保護者が仕事で家を空けることが多く、子どもにかかわる時間が短い。また、子どもの話をゆっくりと聞く時間がなく、子どもの困り感になかなか気づくことができない。
上記はあくまでも本校学区内のことであり、市内全体をみれば、①－⑧のすべてがあてはまると思います。特に、親の虐待体験（ＤＶふくむ）などが、世代間の連鎖となっているように感じる。

問９　困難を抱える家庭の保護者には、生活や就労、子どもとの関係でどのような特徴がみられますか。（あてはまるものすべてに○）

「生活習慣に乱れがみられる」が 53.8%と最も高く、次いで「住環境・生活環境がきちんとしていない」が 42.5%、「地域や周囲との人間関係（関わり）が希薄」が 37.5%となっています。



【その他】

保護者の過干渉
社会との繋がり
子どもとの関わり方に問題がある

困難を抱える家庭の保護者の特徴
保護者（母）自身に生活能力がなく、また周りに支援してもらうことを嫌がる傾向にある。話の内容に真実性がなく、嘘と分かることが見られる。
生活に追われて子どもと向き合う時間が少ないこと、自治会などに所属することが少ないことがあげられます。学びあいステーションに居て、自治会へのおたよりを発送する時、直送便の数が年々増えていることからも、自治会に所属しない世帯が増えていることがわかると同時に疑問に思います。
園児（３歳児。今年度から入園）の身の回りの物や新学期用品が中古品であることが多い。保護者から生活状況についての報告や相談等はなく、中古品であっても園としては構わないが、クレヨンについては劣化が激しく、園児が扱いづらいかもしれないことを伝えるが、買い替えることはなかった。
とにかく心に余裕がなく、家庭と園で見せる保護者の表情の違いがある。
何でもない普通の家庭。家での家族の一員としての役割分担。

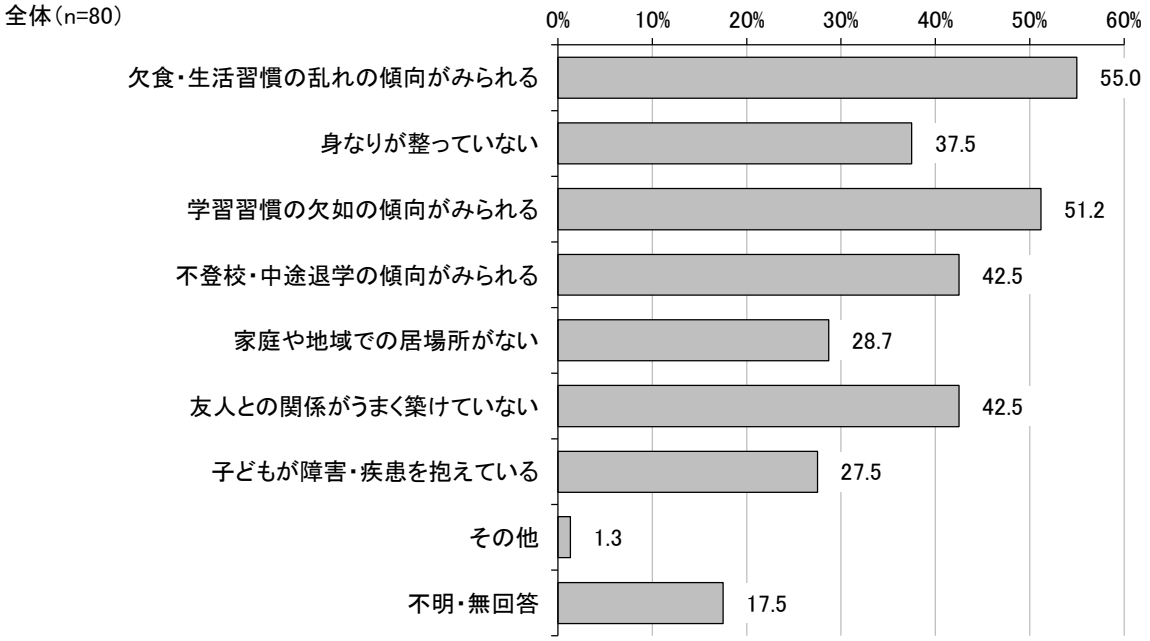
困難を抱える家庭の保護者の特徴
1：提出物や持ち物を紛失しがちである。 2：子どもがお風呂に入らないことがある。 5：自分に余裕がないことと、子どもへの関わり方がわからず、側にいても上手く触れあえない。 6：子どもが服を前後間違えていても気がついていない。鞄の中も把握できていない。
・保護者が実子よりも再婚相手やパートナーとの関係を重視している。 ・収入に見合わない支出（特に携帯電話代や自動車ローン）を優先し、修学旅行代や進学費用等、先を見通したお金の使い方ができない。 ・就職と離職を繰り返していたり、時給が良い水商売で働いているために夜間子どもだけで過ごしている。 ・子どもの生活に無関心で、子どもの就寝時間を把握していない。
子ども会に属さず、地域の人とのかかわりを持ちたがらない。
親が親として自覚が育たず養育を祖父に任せている。祖父も社会的地位があるが、家庭内は荒れ放題で、まわりからの支援はプライドが許さず、その犠牲者といえる。
地域から、家庭が孤立している場合が多いように思います。行政の支援が一層必要だと思います。
生活が整うことは、障害があるないに関わらず、子どもにとって大きな意味がある。生活の乱れが子どもの落ち着きのなさにもつながるので、子どもにとって落ち着く生活のルーティンがあるとよい。
・衣服の乱れを強く感じる。（だらしがない、汚れている　洗ってない　敗れている等） ・金銭感覚が、ずれている。 ・外食やゲームに費やすお金が大きくウェートを占めている為、肝心なことにお金が費やされていないように思われる。
時間的に余裕がなかったり、経済的に余裕がないのか、保護者の顔に笑顔が見えない。お迎えに来ていても、子どもが嬉しくて親に話をしようとしても、早く早くとせかして子どもの話に聞く耳を持たない。
語彙の数が少なかったり、愛情不足でうまく大人に甘えられなかったり自分の気持ちをうまく伝えられず、言動に支障が出てしまう。そういったことが、他害行為や衝動的に暴れたりすることに繋がってしまうおそれがある。
保護者が見通しを持った生活が難しく、場当たり的な、行動パターンになり、そのことが、経済困窮等の問題に影響していることがあります。対人的な関係において、支配、被支配関係に陥りやすい傾向があり、社会的な孤立や、子どもとの関係に不全をきたすことがあり、子どもが家庭内で基本的な安心感を得ることができず情緒的な安定や自己肯定感を持ちにくくなってしまうケースがあります。
・保護者が未熟で、生活環境においての優先順位が異なり、子どもを尊重する生活環境が整わず、金銭の使い方や、時間の流れ方にも偏りがある。 ・自動車の運転免許がなく、買い物、保育園の送迎、子育て支援センターの利用がしにくい。 ・生活にメリハリがなく、約束して訪問してもパジャマのままで対応する。 ・幼い子どもに勝手に携帯で画像を検索させている。

困難を抱える家庭の保護者の特徴
・仕事が忙しく、子どもと過ごす時間が少ない。そのため、どのように触れ合ってよいか分からないという方もいます。 ・友人や知人に、ファミサポの仕組みをかましてサポートしてもらえないか聞くと「友人がいない。近所の人と話す機会がない。気軽に頼める人がいない。」という方もいます。 ・親や親族との関係が悪く、子育てを手伝ってもらえない、預けられる環境であっても預けたくないという方もいます。
・子育てする中で孤立感を感じている。（一日中、子どもと 2 人きりで息がつまる、など） ・同居のストレス。（家にいるのが苦痛、など）
派遣会社に勤めている方が多く、残業が多い月と少ない月で収入にバラつきがあり、金銭管理ができなく子の就学旅行等の費用が払えなく、行かせることができない家庭も少なくない。
・保護者の管理が行き届かず、家庭での生活リズムが整いにくい。睡眠、食事、入浴など、基本的な生活習慣が整っていないケースがある。 ・学校で必要な備品が整わない。また諸会費の滞納がある。 ・子どもとの関りが希薄で、ゲームやスマホ依存傾向の児童生徒が増えている。 ・保護者とのやりとりができにくく、家での様子が見えにくい。
子どもへの対応に不安。特に進級、進学前は不安
多子家庭のケースだと子どものプライバシーの確保が難しかったり、経済的に困窮している様子が見えました。保護者の方の就労ができていないと家庭全体が困窮されていると思います。
・親の生活時間に合わせ、子どもも過ごしているため、就寝時間が遅い家庭がありました。 ・子どもと何をして遊ぶと良いか分からないという保護者がいました。 ・兄弟が多いと、一人にかけてあげる時間が少ないという声を聞いています。 ・近所の人とか関わることが少ない。誰が住んでいるのかも分からないという方もいます。 ・近所に同じ年の頃の子が少ないので気軽に遊ばせられないという方もいます。 ・親との関係が悪いので面倒を見てもらえないと困っておられました。
子供が夜遅くまで過ごしていても、とくに気にしません。古民家に来る子どものほとんどは 18：30 には帰るのですが、それをすぎても、また約束の時間をすぎて子供が遊んでいても迎えに来ることもありません。ただ、それには事情があると思うので、それ以上のことや、それの意味づけなどはしたくありません。
保護者の過干渉による影響もある。
兄弟が多いと、本人に任せきりにする保護者もいる。社会のルールが自己流になり、自分のルールを押し通すがために、社会との繋がりが薄れていく保護者もいる。
・以前、朝、始業に間に合わず送迎したり、学校を休ませたりしていた家庭があった。 ・学校徴収金の口座振替ができず、滞納することがよくあった。
・保護者の仕事が続かない ・夜型の生活
1．子どもさんの話によると階段の足の踏み場がない。 2．夜遅くまで子どもが帰らない。家にかぎがかかっている。（友だちの家にいすわる）

困難を抱える家庭の保護者の特徴
手当、収入があるにもかかわらず、子どもに関しては後回しになることもある。例えば、中学入学時の制服が購入できなかったこともあった。 ・仕事が続かない場合もある。人間関係が問題であることが多い。 ・先を見通した家計管理が難しく、修学旅行の費用の積み立てをすることができない。 ・常に金銭的に困ってるが、就労意欲がなかったり、就労しても頑張りすぎて息切れしてしまったりバランスが良くない。 ・金銭的な余裕がないと、子どもの前でもそのことを平気で口にするため、ある程度大きな子どもたちは家計の事情を鑑みて進路決定を行ったりする。
1　いわゆる「ゴミ屋敷」のような住環境の家もある。 2　保護者自身の生活習慣が乱れがちのため、子どもの生活習慣も整わない。 5　保護者が仕事に追われているため、子どもとゆっくり触れ合ったり会話をしたりする時間が極端に少なく、子どもがさみしい思いをしている。 7　子どものことや自治会に関することで周りから批判された経験があるため、周囲とかかわりを持つことを鬱陶しく思う方がいる。
地域や周囲との人間関係が希薄なため、トラブルが起こった際の保護者対応に難しさを感じた。
地域の行事に参加しないことが多い。また、保護者間のつながりがうすい。
・子どもとの接点があまり感じられないケースがある。 ・家が散らかっており、快適に過ごすことが困難であることが予想される。 ・物の準備等が整わないケースがある。
現在、在籍している生徒を想定して回答すると、保護者が子どもの思いを十分に聞くことなく、保護者の考えを押し付けてしまっていることで、子どもに心理的、情緒的あるいは身体的影響が出ているケースがある。
・子どもと十分な会話がもてていないため、学校からの連絡で初めて知ったという状況がある。 ・全ての家庭がそうとは言えないが、不登校傾向につながるケースもある。
一律にこうだということはないのですが、困難をかかえている家庭の保護者は１－８のどれかの課題はかかえておられると思います。逆に、上記のような課題を複数かかえているために、困難をかかえているという方もいらっしゃいます。

問 10　困難を抱える家庭の子どもには、生活面や学習の様子でどのような特徴がみられますか。（あてはまるものすべてに○）

「欠食・生活習慣の乱れの傾向がみられる」が 55.0%と最も高く、次いで「学習習慣の欠如の傾向がみられる」が 51.2%、「不登校・中途退学の傾向がみられる」「友人との関係がうまく築けていない」が 42.5%となっています。



困難を抱える家庭の子どもの生活面や学習の様子での特徴
朝食抜きでの登園や持ち物の忘れなど。また、子どもに何らかの偏りが多い。
季節に合った服装ができていないことが多いように思います。夏に長袖の服、冬は薄い服、また同じような服を何日も着ているなどの様子がうかがえると思います。
今のところ他児と比べて自分の用品が違うことや汚れていることなどについて気にしたり、それによって園生活に支障が生じたりすることはないが、今後、年齢発達的に周りが見えてくるようになった時でも、のびのびと楽しく生活できるよう様子を見ながら、必要に応じて配慮していきたい。
・コミュニケーション能力の低下 ・多様な価値観への対応が苦手 ・学習の遅れ
人とどのように接したらよいかわからない。学習習慣が定着していない。
１：偏食が多い。 ２：忘れ物が多い。衛生面を心配することもあります。 ３：今後宿題や提出物の確認が難しいと感じます。 ６：自信のなさから不安になりがちです。また、嘘をついてその場を取り繕うことがあります。 ７：病気なども病院に連れて行ってもらいにくく、治りが遅くなりがちである。

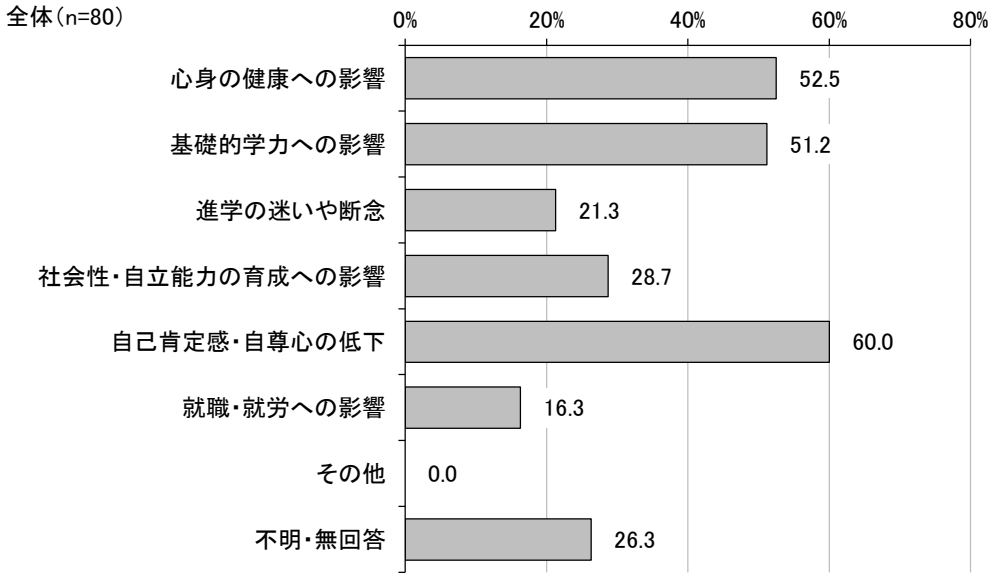
困難を抱える家庭の子どもの生活面や学習の様子での特徴
入浴ができていなかったり、入浴していても保護者の目が届いていないため、きちんと洗えていないケースがある。 ・揃って食卓で食事をする習慣がなかったり、好きな物だけを食べていて肥満傾向にある。 ・学習習慣以前に生活習慣が乱れているため、学習に対する意欲が低い。
・兄・姉妹ともに不登校
・生活習慣が確立されていない中で、また月齢の幼い子どもへの影響は大きいと思います。現在は認識していませんが、数年前小学校勤務の時、支援していた児童は、祖父母に養育され、入浴もまともにできない、明日の食べ物に欠く、ふとんがぼろぼろで綿がとび出している、本人が食事の準備をしているなどすさまじい状況でした。豊食の時代と言われているのに、現実は厳しいものです。
貧困や不衛生等に慣れてしまって、改善したり、より高みを目指そうとしない傾向がある。（自尊感情がきわめて低い）
生活が整うことは、障害があるないに関わらず、子どもにとって大きな意味がある。生活の乱れが子どもの落ち着きのなさにもつながるので、子どもにとって落ち着く生活のルーティンがあるとよい。 読み方によっては、下記の内容が「問題だ」と言っているようにも取れる。表現に気をつけるべきだ。 3　学習習慣の欠如の傾向がみられる 4　不登校・中途退学の傾向がみられる
・落ち着きがない。 ・机に座って宿題などに取り組めない。 ・挨拶等ができない。
・児童クラブにいても一人遊びが多い。 ・保護者におびえている。
・保護者が未熟で、生活環境においての優先順位が異なり、子どもを尊重する生活環境が整わず、金銭の使い方や、時間の流れ方にも偏りがある。 ・「抱っこで授乳」の習慣がない。 ・語りかけや一緒に関わる機会が少ないので、言葉の獲得が遅い。 ・一日中テレビがついている。
・忙しく、食事を簡単に済ますことが多いという方がいました。 ・学童を利用していても、友達関係がうまくいっていないため、早く迎えに来て欲しいという子がいました。母親やひとり親でフルタイム勤務、残業もあったためサポーターさんに送迎してもらいました。 ・子どもに発達障がいがあり、下の子の面倒を見ながら子育てをすることが大変。夫の協力が得られない等の相談を受けました。（利用には至りませんでした）
困難を抱えていない家庭の子どもにも 3，4，6 の項目で困っている子が多いように感じます。だから、どのような家庭の子でもしっかりとした支援が受けられるといいなと思います。 5 については、今の若者などは SNS でつながることが多いので、家庭・地域だけでなく広い意味での居場所やいじめについて考えてほしいです。
母が精神的疾患を患っており、母の面倒をみるため、週 3、4 回学校を休んでいた。

困難を抱える家庭の子どもの生活面や学習の様子での特徴
・金銭管理の弱さから、生活環境が整わず、身の回りのものが整いにくい。 ・養育不安のある家庭において、家庭での生活リズムが整いにくく、登校時間が遅れたり登校しても学習中に寝てしまう。学習の積み上げができにくい。 ・親が仕事を優先され送り出しができないため、子どもが登校できない。その結果引きこもってしまっている。
4.6.7で不安に思っている保護者の声を聞いた。
一般的な常識とされているもの、社会的なルールなどを学びにくい。
入浴や洗濯など清潔保持に関して行き届かないのか、体臭がきになったり、何日か同じ服を着ていたりすることがあります。
・偏食や朝食を食べる習慣が無い、就寝時間が大人に合わせて遅い子がいました。 ・友人関係がうまくいかず不登校になった子が、何か地域とつながるボランティア活動をしたいと相談を受けました。 ・サークル加入の子どもに障がいがあり、友人関係がうまくいかないと話を聞きました。
小学校・中学校時期の長期不登校、もしくは中学校全欠の場合、どうしても学力面で社会生活を営む基礎的学力が不足しており、人との関わり経験も不足している傾向にある。読み書き、足し算、引き算、掛け算、ＡＢＣの理解不足は現状の年齢に関係なく「学び直し」の場が必要。収入を得て「自立」するために「学び直し」は必要ですが、家庭内においては生きていくだけ、現在の生活を維持するだけで精一杯ですし、他人（他者）の関わり、介入を好まない傾向もあるように感じる。
⑥に近いのですが、なんとなく他の子どもたちと違うんです。それが何かと言われるとよくわからないのですが、話し方、そこでの過ごし方、何かをお願いしてくる言い方、そういうものが、他の子どもと違っています。具体的に何というわけではないのですが、過ごしていると感じることはあります。
人との付き合い方の距離感に違和感を感じる。
専門的な必要なケアを受けられない。
宿題をしてこなかったり、学用品や教材持ち物を忘れてきたりした。
自分の興味、関心が家庭、学校、友人以外のところにいっている。
・保護者の子どもへの関わりが希薄になり、それが生活習慣や身なりに表れる。 ・家庭が安心できる場所でなければ、家庭以外の場所、学校等で十分に力を出し切れない。身体的虐待を受けた場合、学校での暴力行為につながることがある。 ・学校の持ち物が揃わない。 ・親の都合で安心して登校できていない場合、学習の積み上げができていない。 ・家庭内の生活習慣が整っておらず、家族そろって食事をする、片付けるなどがない。 ・保護者が子どもの宿題や学校であったことを確認する習慣がない。
自己肯定感が低い場合が多いので、自信をもって何かに挑戦したり、進んで人と接したり、よい関係を維持したりすることが難しい。
・毎日洗濯できていないようで、制服が黒ずんでいた。 ・お風呂も毎日入っていないのか臭うことがあった。

困難を抱える家庭の子どもの生活面や学習の様子での特徴
・困難を抱える家庭の子どもといっても、その課題は人によって様々である。 ・裕福な家庭であっても上記のような課題をもつ子どもは多く見られるため、特徴としてまとめることは難しい。
・朝食を食べず、遅刻することがあった。 ・宿題をやってこないことが多く、学習にも集中できない。 ・友だちとのトラブルがあっても、自分のことを冷静に振り返ることができない。
・学校生活において不適応を起こし、遅刻や早退をするケースがある。 ・学習に集中することが困難なことがある。
・生活のリズムが乱れ朝起きにくかったり、朝食が用意されておらず食べずに登校したりすることがある。 ・家庭生活が安定しないことから、不安が強くなったり、登校する気力がわいてこなかったりする中で、長期欠席に至るケースがある。
・保護者が家庭にいない状況が多いと、長時間ゲームをしたり、学校から出ている家庭学習に取り組めなかったりする状況がある。 ・子どもが登校をしぶると、保護者自身が仕事に行かなければいけない状況があるため、学校に欠席連絡を入れ、ほぼ子どもだけで日中過ごさなければいけないことがある。
本校では、２・７はありませんが、市内では上記の１～７の課題をかかえている家庭はたくさんあると思います。特に、１・３の課題をかかえる子どもが多いようにかんじています。

問 11　貧困に伴い、子どもにどのような影響や課題が生じていると感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

「自己肯定感・自尊心の低下」が 60.0%と最も高く、次いで「心身の健康への影響」が 52.5%、「基礎的学力への影響」が 51.2%となっています。



貧困に伴う子どもへの影響や課題
幼いうちは、本人も分からないだろうが、成長と共に自分の家庭について理解が出来、人と見比べたりして社会性への積極的な参加を拒むようになる。
貧困から、保護者が働いているので、その間家事をしたりで学習が出来ていなかったり、塾にも行っていなかったりで、人との関わりに欠け、いじめなどの原因となり不登校になったりするケースがあります。学校に行けていないと学力の低下につながっていると感じています。
1：病院に行けない。不衛生であり、治りが遅れる。 2：お腹がすいて、学習に臨めない。 5：認めてもらう場が少ないことから、自分の評価も低く、自信が無い。
・公立高校でも入学準備にかかるお金が払えないとの理由から進学を断念したケースがあった。 ・きょうだい間でケンカの枠では収まらない程度の暴力的な行動がある。 ・他人との関係を上下関係で捉えることが多い。 ・「死ぬ」という言葉を安易に使う。
・規則正しい生活習慣や食事の偏りがないか ・不登校により基礎学力が身につかず将来への不安
大阪のように高校が無償化でない限り、中学校卒業後の進路の決定はたいへんです。生活全般に貧困のためがまんしなければならない事が増えてくると思います。そのため、健康面や自己肯定感も必然的に低下して当然です。しかし、支援するといっても、公費を使うなら、市民に平等なものではないでしょうか。

貧困に伴う子どもへの影響や課題
自己肯定感の低下がすべてに影響してくると思います。貧困がすべて、悪影響を与えているとは思いません。保護者が一生懸命努力されている中での貧困と、親中心の生活でギャンブル等に、のめり込んでおられる様な貧困では全くなく異なる思います。貧困でも愛情が十分感じられる家庭は、子どももたくましく育つ場合も多々あると思います。
日本の貧困は相対的貧困率が高いために困り感を抱えている子が見えにくい点がある。当人や家族もなかなか困っていることを打ち明けにくい点もある。それらの点からも、相談しやすい関係づくりを子どもが通う場所すべてでつくる体制づくりは必要になるのではないか。
打たれやすい子ともが増加してきている。集中力の欠如。
友達とのかかわりの中で、自分の思いや、考えが言えない。
保護者に認めてもらえなかったり、褒めてもらえず感情的に怒られてばかりで、心身への影響や自己肯定感等の低下につながっている。
子どもが家庭内で基本的な安心感を得ることができなかったり、特に、ライフラインが止まる等の絶対的貧困がある場合には、「大事にされていない、がんばっても意味がない」等、子どもの自己肯定感の低下や生活全般に対するあきらめ感が増幅されるように感じます。
・愛着関係の形成が未熟なため、自己肯定感が育めない。 ・非認知能力の形成に必要な実体験の不足。
・ファミサポを利用されても、体調を崩し、利用をキャンセルされることがありました。 ・学習面でついていけなくて困っているという話も聞いています。親子で過ごす時間が少なく、愛着関係が持てない。大事にされているという気持ちが持てない子もいます。
何をするにもお金がかかる時代です。特に、高校や大学などに行くととてもお金がかかります。もし優秀な子が、金銭的なことが理由で進学をあきらめなければならないのなら、将来の日本にとってとても大きな損失ではないでしょうか。米原市には非課税世帯への援助はありますが、その他の困っている家庭への支援が少なすぎるので、そういうところにお金をかけてほしい。
金銭的問題等により、高校へ行きたくても行けないから、勉強をする意欲が減っていき進学を断念しなければならない。
親に余裕がなく、子どもへの関わりが薄れている。子ども自身、親の受け止めや愛情を注がれておらず、自己肯定感が低い。そのため自信が持てずいろいろなことに主体的に向かうことができない。
安心して過ごせる場所の確保。「学校よりあおぞらがいい」というお子さんは集団生活は苦手だけど頑張っている傾向にあると思うのでホッとできる場所の提供は必要だと思う。
・生活習慣の乱れにより、心身の健康も不安定な子がいます。 ・学習面でついていけなくて困っているという話も聞いています。塾へ行きたくても金銭面で余裕がないため、学習支援を受けている子がいます。 ・様々な体験の機会を奪われることで、他者と交流が持てず、コミュニケーション能力が低い場合があります。 ・親子で過ごす時間が少なく、愛着関係が持てない。大事にされているという気持ちが持てない子もいます。

貧困に伴う子どもへの影響や課題
貧困家庭は片親家庭、特に母子家庭が多いと感じますが、子どもにとっては両親が片親になった理由やそれまでの家庭内における夫婦関係のことが、子どもにとって精神的な影響が無いとはいえない。また、学校に通う中でそのことが言葉のいじめや他の子どもとの違いが、精神的影響があることも事実です。男性拒否・男性が怖い、人の目が怖い、周りの話がすべて「自分の事で何か言っている」との意識が高く、結果、他人との関わりを閉ざし、ゲームや仮想空間での時間が一番心地良い環境となっていることは、子どもご自身にとってはそれが一番良い環境であり、他者との関わりに関しては恐怖であり、ストレス状況となり、結果他者への暴力・暴言へとつながる。子どもからの暴力・暴言を避けるために、親も「今はそのままで…」となる事が続き、でも子どもの将来を考え、どうすべきが悩み、相談に来られることがある。
ここに書かれている全てだと思います。そもそも、貧困の定義がわからないです。絶対的貧困ですか？相対的貧困ですか？関係性の貧困ですか？すべてにあてはまるのですが、もう少し質問の解像度をあげてください。
貧困によって保護者の生活能力が著しく落ちてしまった場合、子どもは基本的な生活能力が身につかず、朝起きて夜寝る、食事を採るといったことができない。何が生活において優先しなければならないことなのかの、順位づけが自分でできず、必要機関への手助けを求めることもできない。
貧困の負の連鎖が生まれている。
経済的なことで進学をあきらめてしまう。
小学校中学年ぐらいになると自分がおかれている立場がわかってくる。自分の家は「どうせ○○したって無理」「努力する必要はない」と考えてしまう。成功例が乏しい。
・子どもが早くから働く必要性を感じていることがある。 ・家庭の状況を理由に、進学を安易に断念してしまうことがある。 ・定時制高校に合格したが、タブレットの購入費用等実費負担の難しさから、進学を断念したケースがあった。奨学金や貸付の利用について保護者と検討しようとしたが、保護者の価値観が子の進学を優先するものではなく、いったん進学を断念することとなった。 ・元々苦手な勉強をすることよりも、「家庭のために自分が働く。」となる子どももいるが、就職先の少なさや、経験不足感がある。
通信制高校は私立が多く、湖北には公立の通信制がないので、学びたくても断念せざるをえない場合がある。「どうせ無理だ」という観念がある。
・アトピー性皮膚炎などの症状があっても、改善しにくい。（生活環境の困難さ） ・家での学習習慣が身についていないので学力がつきにくい。
すべての面で可能性があるが、本校では顕著には表れていない。
落ち着いて学校生活を送ることが困難で、人とのトラブル等につながってしまうことがある。
高等学校を受検し合格したものの、入学金や学費が支払えず、入学を辞退するケースがあった。
・家庭の養育力に課題があるため、そのような中で育ったことが、将来的に負の連鎖にならないかが危惧される。 ・家庭学習において保護者の見取りが難しく、学習につまずきがあっても協力が得られない。
以前から経済格差と学力の問題は全国的に指摘されているところです。残念ながら貧困は②の原因となり、そこから③、⑥につながっています。また、②は⑤にも連結する課題といえます。

5　支援の状況・課題について

問 12　子ども・若者やその家庭に対して支援を行う際、工夫している点はありますか。また、課題となっている点はありますか。

支援を行う際の工夫
近江連携の会（近江地域の保幼小中）できょうだい間等、子どもたちの情報共有をし、状況に応じて市にゆだねながら連携を図っている。また、連絡なしや長期欠席時には保護者に電話をかけ、状況把握に努めている。
園では、全ての子どもが公平的に生活できるように、充分に良質な保育環境を整え、本人のクラスでの活動の姿を肯定的に認めている。
あくまで挨拶から始まり、会話をすることで見出すぐらいしかできません。また、そのことが正しい情報なのかも判らない状態です。当館利用の方達を、問われているような観点から見るようなことはありません。
聞く姿勢、まずは寄り添い理解しようとする姿勢を大切にしている。子どもの姿の背景にある家庭の様子を知るためには、まずは信頼関係を築くところから始めなくてはいけない。子どもが低年齢であればあるほど、家庭が及ぼす影響が大きくなってくるので、指導の前に受容と理解を心掛けている。
園から積極的に保護者に話しかけ、不安や悩みを共有し、必要な支援を関係機関と連携して行う。
子どもを取り巻く家庭環境等を職員間で共有し、支援の在り方を検討後、それぞれの立場で対応を行っている。支援の方向性が職員間同じ方向に向かい、支援をしていこうとしているところ。
興味のあることなどから会話を増やし、一言一言を注意深く聴くことにより、どのような支援が必要なのか敏感に感じとるようにしている。
その子の課題を丁寧に把握しながら、支援のポイントを明確にする。支援児にとって、支援が必要と感じているときに適切な支援が行えるよう距離感など工夫している。また、友達や担任の手を借りながら、自分なりに頑張っている場面は、温かく見守る。いろいろな立場の職員が関わることで、気になる点や新たな課題を共通理解しながら、同じ関わりができるように努める。保護者にも、その都度子どもの様子を伝え、ｖけるように呼びかける。
地域内で困り感のある家庭がないか、民生委員さんにアンテナをはってもらい、関係機関につなげるよう心がけている。
本人からの申出や、地域の方からの連絡があれば、本人に寄り添い話を聞いていきたいと考えています。
日常的なかかわりができなくなった場合、定期的に家庭を訪問し、世間話や現在の様子などを話し合ったりしている。繋がりを断つのではなく、ちがう形で保っていけるようにしたい。
市の方活につなぐようにしている。民生委員児童委員の間では「すぐに動いてくれる」という、信頼や期待ができつつある。社協やあおぞらへの期待もある。
その子や家庭、保護者のバックボーンをよく知るために、情報収集を丁寧に行って、普段の様子も細かく観察しながら、状態像とその内なるニーズを探るアセスメントを行っている。その上で、特に学校と連携すべき点は情報共有しながら、手立てを実施し、その都度、PDCA で軌道修正しながら対応している。

支援を行う際の工夫
第１に保護者との信頼関係を深めることに重きを置いている。先ずは保護者の気持ちに寄り添い、話を聞くこと。否定はしない。必要に応じて面談を持っている。
常に気をつけて見守る。
まずはしっかりと関係性を作るためにコミュニケーションをとることを心掛けており、話がある場合は話しやすい環境を設定したり、当事者の気持ちに寄り添いながら話を聞いていく。出来る範囲で支援に当たったり、難しい場合は各機関に相談をする。
当センターでは虐待ケースへの対応が多数を占め、保護者に対して指導的、介入的な関わりが必要ですが、虐待に至る、親の事情や子どもに対する思い、目的、意図等、評価できる点については徹底的に寄り添いながら、協働関係を築き、その関係性を元に支援、指導するように心がけています。
・クライアントの置かれている状況を把握し、気持ちに寄り添う。 ・クライアントの抱えている不安や不満を受容しながら共感していく。 ・話しながらクライアントの考えを整理し、見通しや納得を見出していく。 ・実践できる事柄を見つけ、アクションにつながるようなきっかけづくりをする。
・子どものこと、家族のことを気楽に話ができるような関係づくり。 ・信頼関係を築いた上でないと、本音は出にくいと思います。 ・適度な連絡。頻度が多すぎると重荷になる可能性もあると思うので。 ・担当者だけの情報では不十分なこともあるため、必要に応じて関係機関にも連絡をとり、関わる大人の対応がバラバラにならないようにすること。
関係機関との連携を密に取りながら、未就園の時期から家庭を把握し、園開放や相談・訪問を行うなど、つながりを持ちながら丁寧な関わりを心がけている。
距離感が近く感じられるように接し、困りごとを気軽に話せる場所にすること。
・敷居を低く、安心安全な支援センター運営 ・センター周知やきっかけ作り（訪宅、おたより、ネット予約等） ・継続的な利用につなげるようイベントの企画や開設
子どもの様子を確認するためにも、月に一回、子ども向けのイベントを開催し、子どもと保護者の交流の場を設けています。また、その場で、困っていることなどを聞き取り、可能な限りご支援をさせていただいている。
保護者の話を丁寧に聞くようにしている。子どもの成長に合わせ、見通しをもってもらうことで、しんどさの軽減につながるよう、支援を心掛けている。
保護者や子どもの声を聞き、校内で情報共有し複数で関わるようにしている。必要に応じて関係機関につないでいる。
お迎えの時、その日その子ががんばったことやできたこと等、プラスになることを伝えるようにしている。また、子育てをする母親同士というところから子育てと仕事の大変さなどを共感したりして信頼関係をつくるようにしている。
・家庭と協力体制を作る。 ・子ども・若者本人の思いも尊重する。 ・必要な支援につなげる。
社会福祉法人として、地域課題や当事者の困り事に対しては出来る限り対応している。

支援を行う際の工夫
障がいを持ったお子さんを中心に考えて、その子の将来を一緒に考えていくことを念頭に置いて支援しています。保護者の方には支援する側からの一方通行ではなく、双方向のやりとり、伴走者であるという気持ちで関わっています。
・子どものこと、家族のことを気楽に話ができるような関係づくり。 ・信頼関係を築いた上でないと、本音は出にくいと思います。 ・適度な連絡。頻度が多すぎると重荷になる可能性もあると思うので。 ・担当者だけの情報では不十分なこともあるため、必要に応じて関係機関にも連絡をとり、関わる大人の対応がバラバラにならないようにすること。
極端な変化や一般的には〇〇すべき的な行動や発言は避け、子どもご本人や保護者（両親・祖父母）からの傾聴に徹して、ゆっくり整理していくように心がけています。継続的来所や面談が続き、一定の信頼関係が出来た時点で、ご自身が判断、決定して頂くようなアドバイスや体験（サロン・イベント応援）や参考資料（ネット情報など）を提供し、一緒に学ぶようにしています。
・相手の話を100%聞こうと心がけること。早とちりせず、相手のニーズを丁寧に聞くこと。 ・専門機関ではなく、「近所の子育て仲間」として接すること。 ・「お互い様」の姿勢。 ・「親切の押し付け」、相手の望まない支援はしないこと。相手の意向をしっかり確認してから、お手伝いのアクションを起こすこと。 ・相手が望まない場合、他言しないこと。 ・相談機関を紹介する、こちらから提供できそうなお手伝いの形を伝える等した後は、それらを実際に利用するかどうかは相手の選択として、無理強いは決してしないこと。
なにより、支援が必要になる前の段階から関わることを大事にしています。
こども食堂を伊吹で初めて開催したので、まずは安心できる場所として認知してもらえるよう心掛けている。
区民全員にサロンやイベントの案内を出している。
気軽に、本音を出して話せるよう人間関係の構築に努める。
しっかりと聞く耳をもって聞くこと
声かけ、見守り、気持ちによりそう
・子どもやその家族と関係していく中でニーズを引き出していく。 ・相手の思いや立場を尊重しながら傾聴し、自分の思いをおしつけないこと。話の流れから今後のことについて導き出していくようにする。子どもと保護者のなりたいイメージ、願い、希望を聞き、そこに近づくためにできることをスモールステップで一緒に考える。 ・話してよかったのだと思ってもらえるように、教えてもらってありがとうという気持ちで話をする。 ・どんな些細なことでも、相手の工夫や頑張っていることに対してねぎらう。 ・継続した支援ができるような関係性を築くこと。そのために「あなたの力になりたい」というメッセージが伝わるような関わりを意識している。
相談者の話を傾聴し、相談者の思いに寄り添うようにしている。相談者の頑張りを認めつつ、伝えたいことを伝えている。
傾聴とコーチング

支援を行う際の工夫
保護者に対しては、そのしんどさに寄り添いながらまず話を聞くようにしている。
一人で苦しむ人がいないように。 生きていたいと思ってもらえる機会づくり。 公式 LINE を必ず伝え、いつでも連絡がとりあえるようにしている。 子どもだけでなく保護者さんもリラックスできる場所にすること。
・本人との関わりを持てるようにしている。 ・できるだけ家庭との連絡を取り合う。
市関係機関や公民館、地域の子ども食堂との連携を図る。
各団体と連携して、様々な意見をいただきながら支援を推進している。
普段から良好な関係づくりに心がけ、課題が出たときに相談しやすいようにしている。 役割分担を行い、組織で対応する。
・校内でケース検討を行ったり、外部機関と連携したりするなどして、早期に組織対応につなぐよう努めている。 ・子どもに対応する者、保護者に対応する者、外部機関との調整を行う者等、組織の中で役割分担しながら、家庭全体を包括的に支援していけるよう努めている。
・生徒指導や特別支援教育の面で子どもたちの課題やその背景等の情報を整理し、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して課題解決に努めている。 ・必要に応じて、市教育委員会や子育て支援課と連携し、情報を共有している。
学校だけでできることは限られており、市の関係機関、ＳＳW等との連携によって、市の各方面から支援をしてもらえるよう腕木をつくっている。
児童や保護者の思いを十分に聴きとるようにしている。

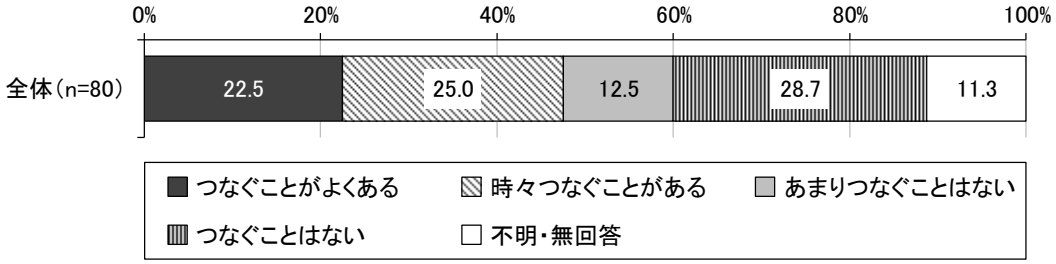
支援を行う際の課題
家庭の中にまで入り込むことを拒まれるため、手助けすることが限られている。
個人の生活に踏み込むことはできず、見守ることしかできません。プライバシーの問題もあり、貧困家庭なのかどうかを判断することは難しいと感じています。
家庭の教育力の低下や保護者の価値観、物事の捉え方の多様性により、互いの思いや状況、ルールや基準等を理解し合うまでに時間を要するようになってきている。子育て支援は大切だが、サービスの名のもとに子育てを外注し、愛着関係や信頼関係、家庭の基盤が築きにくい家庭も一定数あるように感じている。園は保護者支援も大切にしたいとは思うが、それによって本来一番に守られるべき子どもの心身に負担がかかるようなことだけは避けたいとも強く思う。
保護者の意識改革が難しい。
全職員の共有の難しさと、復命で伝えていることもあり、話し合いの状況を知らないままに結果だけで支援を行うことになるため、全職員による支援の見届けが必要となってくる。保育者の支援の方法で疑問を感じたら、声に出して支援の確認を行うようにしている。
大変時間のかかる作業で、よい方向に向かうまでに本人や周りの者があきらめてしまいやすい。
保護者も支援が必要な方の場合、どのように話せば伝わるのか伝え方が難しく課題である。

支援を行う際の課題
・どこまで民生委員が介入できるのか、とまどいも多い ・学校との信頼関係
地域性にもよりますが、あまりオープンにしたがらない方が多いようなので、自らの申し出がないように考えます。
・地域で、民生委員児童委員が、家庭の様子について気付かれていても、直接声をかけることは難しい。 ・親が子どものことについて、SOS（ひきこもり等）を発信されても、本人の相談には、なかなか時間がかかり結びつかない。当事者が成人だと、親といっしょに相談を受けることは、多くの時間がかかる。
基本的な職員配置が限られているため、上記の対応に限界がある。もっと、充実した人員配置と専門性が高められる労働条件が必要になってくる。
生活面、学習面共に直接の解決にはなかなか難しい問題。行政・学校・地域・家庭との連携が大切。
保護者が話をしてくれない限り、こちらから入り込めない。
友達関係が上手くいかなかったり、言動に支障があり他害行為などに繋がってしまうこと。
個々のケースにより対応や結果は異なるが、長期化する場合の見守り体制が不十分である。
ファミサポで支援することで、子ども・その家庭が抱える問題は解決するのか？
人手不足
・支援センターでの支援は限定的 ・ケース会議などで上がってきた支援家庭への見守り
まだまだ、外国籍の子には「壁」があるように感じます。子ども同士の交流の場を増やすことによって、学校では見せない『自分らしさ』を出せるような場所が必要であると思います。併せて、長期休暇や放課後の居場所づくりも検討する必要がある。
保護者が拒否的な時の関わり方
登校できているケースについては、子どもの様子が把握できるが、不登校児童生徒の場合、子どもと話したり接したりする機会が限られてしまう。また、電話や家庭訪問への拒否が見られるケースが多く、家庭との連携が難しい。
・支援が必要な人の量に対して、職員数が不足している。あとのフォロー、その後の様子伺いといったていねいな支援に力を割くことが難しい。 ・現状、小学校の時の先生、就労支援の支援者などライフステージごとに「点」で人が変わる。しかし子どもがだんだん大人に成長するのは「線」なので、ライフステージを通じて俯瞰して見るような人がいるとよい。
子育てとサービスのバランスが難しい
ご家族の本人理解、障がい理解について温度差があると感じています。幼少期から家族に対する障がい理解を進められる場がもっとあると良いなと思います。
・対象となる家庭に必要な情報（サークルづくりや、他者と交流するイベントの案内）が届いているのか？ ・情報収集能力に差があるのではないか？

支援を行う際の課題
子ども・若者やその家庭が抱えている課題解決には、ひとつの相談窓口だけで解決することが少なく、各窓口との連携やご案内が必要になります。その窓口紹介などに関しても「たらいまわし」と言われないように相談員の基礎知識向上（学習）も必要になりますし、各窓口との継続的関係づくりも必要と考えます。
それを評価し、きちんと資金的に支える仕組みが行政にも社会にもないことです。
本当に届けるべき者に届けられているのか疑問。教育機関との連携が必要。
参加者がいつも限られていることが課題。
実態把握をするために、関係機関との連携が大切である。
困り感をさらけ出してもらうにはどうすべきか。
・ニーズがあって子育て支援課に相談がある場合はよいが、関わりがない時、最初に関係を結んでいくことは難しい。 ・市という、子どもたちや保護者から少し離れたとことにいるため、関係構築することの難しさがある。 ・保護者が支援の受け入れを拒んだ場合、子どもに支援が届かないことがある。 ・こどもの障がいについて保護者が受け入れられず、そこへの支援が難しい。 ・話をしている間に、論点がずれる場面があり、軌道修正に時間がかかる。 ・関わりを拒否する家庭（保護者）に対して、アプローチすることの難しさ。
支援者が働いているので勤務時間内に連絡を取ったり面談することが難しい。
保護者自身のこれまでの人生の中で培われた価値観・考え方はなかなか変わらないため、学校が伝えたいことをどのように伝えていくか、ご理解をいただくかが大きな課題。
利用料の設定。
教育困難な家庭の場合、話が伝わりづらい。信頼関係も築きにくい。トラブルが起きた際、対応に苦慮する。
相談案件が多く、多岐にわたるため、学校の教員だけでは人手も時間も足りない。また、関係機関ごとに説明に費やす時間が多くかかり、負担となっている。
保護者との連携がとれにくい。
学校として入り込めるところには限界がある。
・貧困やヤングケアラーの問題は見えにくく、家庭の内情を正確に把握するのが難しい。 ・経済状況に関わる内容は、話題にしづらい。また、学校が支援をすることが難しい。
学校は、学校生活において子どもの困り感を把握することができ、課題解決に当たることができるが、保護者自身の困り感をキャッチするのは難しく、信頼関係を築く中で保護者とつながり必要な機関とつなげていく必要がある。
保護者が困り感を持ってないために、関係機関からの支援を必要と考えていないなどの状況だと、実際に被害をうけるのは子どもになってしまう。
児童の思いと保護者の思いが違うことがある。

問 13　課題のある子どもや家庭を、他機関につなぐことはありますか。

「つなぐことはない」が 28.7%と最も高く、次いで「時々つなぐことがある」が 25.0%、「つなぐことがよくある」が 22.5%となっています。



問 14　つなぐことがある場合、どのような内容で、どのような機関につないだかなど具体的に記入してください。また、他機関と連携する上での課題があればご記入ください。

つないだ機関・連携する上での課題
ネグレクトなど虐待の疑いを感じたときに米原市子育て支援課に連絡したり、市を交えたケース会議をし、情報共有をしながら、連携を図っている。
子育て支援課や保育幼稚園課、互いの情報交換や方向性を同じように進めている。
・発達支援センターや健康づくり課…発達や愛着関係に課題が見られる子どもの発達検査や相談等課題。 ・入園予定児や在園児の入園前の情報についての情報交換がしにくい。 ・入園後の保護者や児への支援が、園にすべて任されてしまうこともある。担当保健師等、関係機関との協力体制が密にできたらよい。
いろいろな機関がかかわっていく必要があるケースが多く、情報交換や共有する中でそれぞれが必要に応じた支援をしている。
・虐待ケース（子育て支援課：こども家庭相談室） ・進捗状況の共有 ・こどもの発達について（園だけの判断で支援する難しさを感じたとき：発達支援センター） ・子どもの健康面について（健康づくり課）※情報共有を要する園児に対して
発達支援センターみのり
スーパーバイザー的な方の見立てを参考にしようとしているが、今のところタイミングが合わず残念です。
小学校さんにきょうだいがおられる場合は、小学校に連携を図り情報共有をします。療育教室に行かれている場合は、療育教室に尋ねることもあります。
・小学校入学時に地域の方より心配な家庭の情報を得、小学校へ情報共有した。 ・引っ越して来られた時に、不登校ぎみという情報を得、子ども食堂の方に誘いかけていただき利用につながった。そこで確認できていたが、今年度利用がとだえ、会えない状況が続いている。 ・昨年度は学校コーディネーター？の方と情報を共有し、共に見守っているという安心感があったが、今年はなくなり不安である。

つないだ機関・連携する上での課題
・包括、あおぞら、社協－ひきこもりでつなぐ 医療－発達の課題、精神でつなぐ 行政（福祉）－貧困、虐待でつなぐ ・親は、心配しておらずとも本人が、相談できるまでには時間がかかる
・虐待通告で関係機関につないだ。 ・学校の専任職に情報共有して、対応してもらった。 ・特に他機関との情報共有は密に行っている。 ○連携の課題…他機関とのコミュニケーションをとる機会がないために、タイムリーな相談がしにくい。せめて、責任者同士で定期的に交流や情報共有する機会がほしい。
市子育て支援センターや小学校との連携
・行政（子育て支援課　教育委員会） ・学校 ・発達支援センター
児童クラブにて、こどもから保護者に嫌なことをされたり、言われたりなどの訴えがあり内容やこどもの感情的にも他機関に相談するべきことの判断をして、市役所の児童クラブを管轄している子育て支援課に相談を行う。他機関へつなぐ場合はしっかりと状況整理をし、確認をして、慎重に判断をしていく必要がある。
市の家庭児童相談室と連携し、要対協の参加機関で、保護者の相談、児童の見守り支援、子育て支援機関へのつなぎ、支援の進捗状況のモニタリング等、依頼しています。
・合同ケース会議において対象児の把握と情報の共有を図る。 ・合同ケース会議で支援を続けた児の就園先に情報の提供をする。 ・児の就園後は、支援を園に任せながら、連携する必要がある。
・発達障がいのある子の預かりについて。特性のあるお子さんだったためサポーターさんで対応できる方が居ないと判断し、日中一時支援を利用した方が良いのか等、計画担当者につなぎました。結果、他のサービスを利用されることになりました。 ・特性のあるお子さんの園への迎え依頼。保護者にも支援が必要な様子で、上手く保護者とも連絡が取れなかった。通っている園の先生に相談し、家庭環境についても伺い、ファミサポ利用時の約束事（サポーターさんへの利用依頼、社協への連絡）等ができないのでは、という話も出てきましたが、結局、迎えは不要となり利用には至りませんでした。 ・土日も働くため、子どもを預かって欲しいと相談があったが、それ以外にも現在の仕事や精神面の不安等を聞き、既に関わりのあった子育て支援課の担当者につなぎました。まずは受診が最優先となり、現在もファミサポの利用には至っていません。
組織として位置付けられている。
訪宅などで気になる家庭（体重伸びや離乳食の食べ方、母の育児への意識、家庭状況）について、「まいるっち」の先生に相談し、合同ケース会議で情報共有し市の健康づくり課などにつないだ。

つないだ機関・連携する上での課題
①社会福祉協議会 ②滋賀県国際協会 ③市役所：教育委員会、福祉部局 ④ハローワーク ⑤労働基準局
虐待もしくはその疑いがある場合…子育て支援課（こども家庭センター） 発達に課題がある場合…発達支援センター
本校で実施している保健相談（医師、心理士）にかかり、地域の医療につなぐケースが増えてきている。
小児科受診された場合、日赤や一市民病院などに紹介することもあります（小児科として）。
・医学的診断、薬、手帳や年金といった支援を得る目的で医療機関につなぐ。 〈幼児期〉 ・専門的な発達支援のため児童発達支援（療育等）につなぐ。 ・専門的な発達支援のため近江診療所の作業療法（リハビリ）につなぐ。 ・一部のケースでは盲学校、聾話学校の早期支援につなぐ。 〈小中高の時期〉 ・ＬＤ（限局性学習症、学習障害）の診断と訓練のため専門の医療機関につなぐ。 〈成人期〉 ・居場所支援、社会活動参加支援、就労支援のため若者自立支援あおぞら、社協の就労準備支援につなぐ。または障害福祉サービスの就労移行支援事業所、働き・暮らし応援センターにつなぐ。
計画相談、学校、市が先に話し合いをしており、その結果の支援策として、放デイや SS が選ばれるので、こちらからさらにどこかへつなぐことは少ない。
どちらかというと課題のある子供さんが先にいてつないでもらう立場になることが多いです。そこでさらに課題が大きくなったときに相談支援専門員に相談する形が多いです。子どもの状況について、発達検査の結果や前の所属の学校の情報などは学校が主体なのでサービス事業所には情報提供がほとんどありません。日常での関わりでは一部の熱心な先生からは情報共有など連携を望む声は聴きますが、ほとんどいらっしゃいません。
・発達支援センター ・社会福祉協議会 ・各種作業所 ・計画相談支援事業所 ・市役所各課 我々が伴走者であることと、見通しをもって連携することを心掛けています
・子どもが不登校や学校行き渋りという家庭に対しては、「不登校の親の会こっとん」作成の「不登校／ひきこもりサポートブック」に掲載の各団体について、個別に紹介している。
子ども家庭課との連携（経済的なこと、保護者の就労など）

つないだ機関・連携する上での課題
・自殺企図での自傷行為がある場合、健康づくり課の自殺対策担当と関わることがある。 ・生活保護を受けている家庭であれば社会福祉課、保護者に障がいがあれば障がい福祉課や発達支援センターと関わる。 ・重大ケースについては、彦根児相に援助依頼を出したり、送致したりする。米原警察署に相談することもある。 ・要対協対象者の転出、転居に伴って他市の要対協事務所とのやり取りがあるが、各市町の担当部署の確認をするときに『児童相談』という言葉があるとわかりやすい。米原市にもどこかにあるとよいと思う時がある。
・発達に課題がある場合は発達支援センター ・お金に困っている場合は、社会福祉課や社会福祉協議会 ・ＤＶの場合は彦根子ども家庭相談センターの女性相談、生活困窮や行先のない母子は中央子ども家庭相談センターの女性相談 ・法的なことは法テラスの紹介や市の法律相談紹介 ・他市に転居予定の場合は、本人の同意があれば他市の担当課 ・ＤＶや住民基本台帳事務における支援措置の申し出があった場合は警察の生活安全課 ・就労支援でハローワーク
・虐待が疑われる場合･･･市子ども家庭相談室、児童相談所 ・学力に関する課題･･･通級指導教室（発達検査）、長浜養護学校 ・発達課題･･･市発達支援センター、通級指導教室 ・その他･･･ＳＣ、ＳＳＷ、米原警察署
子ども食堂等でみる姿が気になったときに、学校の先生や子育て支援課の方と連絡をとりあった。
虐待…子育て支援課、家庭相談所等 障がい…発達支援センター、医療機関等
中学校卒業後のことを考え、親の子育て支援、子どもの自立支援のために関係機関につなぐようにしている。
虐待の疑いは要保護児童地域協議会や児童相談所への連絡を行うなど、積極的に子どもを保護する取組を行っている。また気になる児童について、発達支援センターや子育て支援課、学校においてはＳＣへつなぐことが多い。
・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに相談し、児童観察やカウンセリング等を行ってもらっている。 ・特別支援にかかわって、校内通級指導教室や発達支援センター、医療機関等へつなぐことがある。 ・虐待等については、子育て支援課や子ども家庭相談センター等につなぐことがある。
・虐待や親の子育ての悩みにかかわる相談は子育て支援課につなぐ。 ・発達課題のある子どもについては、市の発達支援センターにつなぐ。 ・学校が他機関と情報共有することをよしとしない家庭（保護者）については、福祉の支援が必要なケースであってもつなぎにくい。
・市子育て支援課：子どもの不登校傾向、発達の課題、家庭状況の課題　等 ・市子育て支援課：虐待と疑われる事案

つないだ機関・連携する上での課題
子育て支援課につないでいます。そこから市の各部署へつないでもらっています。
発達支援センターいぶき：児童の様子を見て指導のアドバイスをもらう 子育て支援課：虐待の疑いのある児童の報告 ＳＳＷ：保護者の悩みや抱えている課題の解決をはかる ＳＣ：児童や保護者の悩みをきいてもらう ＊ＳＳＷやＳＣは常勤ではないため、タイムリーな対応が難しい。 要対協：対応の窓口が教職員の場合、保護者と学校との関係維持に苦慮することがある。

問 15　さらなる子ども施策の充実のために、米原市が取り組むべきと考える支援・制度・連携等について、ご意見・ご要望がございましたらご自由にご記入ください。

意見
今までから関わり合う事業所の合同ケース会議など設けられているが、民生委員さんとの意見交換は個別対応により、全体として見えてこないので、できれば広く知り得る必要もあるのかと思う。地域での家庭の様子の情報交換が必要と思う。
当館の周辺でも、昨今新しい住宅が増えてきています。それに伴って、小さい子どものいる家庭も増えています。当館では、一般の利用者も多い為、子ども専用の遊び場を設けることはとても困難です。可能であれば、若い親が孤立しないことと合わせて、子どもを遊ばせる場所の設置をしてくださると良いのではないかと思います。
困難を抱える家庭の子ども、保護者のために SC の配置（現在より日数、時数を増やす）。全校、スタッフ（別室、保健室（不登校）などニーズに合わせた）の充実。スタッフの確保⇒予算の確保
（私の場合ですが） ・専門性もないまま、いろいろな方からのアドバイスや自分の経験でこれでよいのかと思いつつ子どもや保護者と接していることが多いです。よかれと思っていることが…？支援の仕方などを教えてもらったり、具体的な取り組みを一緒に考え、一緒に実践するなど、市民の要望や期待に応えられるようリードあるいはサポートしていただけるとうれしいです。
子育て支援センターを園と別に設立して、市民は低価格で利用料を払い、週末も開設してほしい。雨でも利用できる施設は保護者にとってありがたい。金銭面での子育て支援は、十分にされていると感じる。保護者の中で米原市のいろいろな手厚い支援が当たり前になっていかないように、検討することが必要である。園に長時間預けることも当たり前のような風潮がみられつつあり、就園させたくて必死に仕事を見つける方も多く、保護者が休みでも当たり前のように預けられている。親子で過ごす今しかない貴重な時間を大切に感じていただけるよう、各園も工夫して取り組んでいますが、親子の関わりがもてるような支援が市としてできればありがたいです。
予防的なケース支援ができる体制整備が重要と考えます。
米原市の子ども施策について、あまり理解できていないのが現状で、申し訳なく思う。市内の子どもたちの現状や市の子ども施策について、民児協や市の主任児童委員会等の場で、研修できるとありがたい。
外国籍の方々が地域に住まれ、その子ども達が保育園やこども園、小学校、中学校に在籍しています。年々増えている現状を耳にします。子どもは集団の中で日本語を学び個人差はありますが話せるようになっていきますが、親はなかなか母国語しか話せない方が多いので、保育・授業参観時や懇談会や個別相談会（進学相談会など）時に、母国語で話し通訳の方を通して思いが伝えられる場を充実させていただけたら有難いと願います。米原市内の通訳の方については三か国語のように聞いています。また、災害も至る場で発生している現状なので、災害についての通訳も子育てや日々の生活や、地域の防災訓練においても命を守る点から大事なことだと考えますので、外国籍の方々への支援をお願いします。

意見
支援や制度が大切だということは痛感しますが、公平なものでないといけないと思います。一部の人たちのための効果では、他者に不満が残ります。また、支援が必要か否かの線引きもむずかしいです。具体策といわれると正直わかりません。 朝の居場所作り 夜間学校 公民館などへの出張授業 子ども食堂の充実 長期休業中　地域での見守り　など 申し訳ありません。私にはむずかしくて的を得た回答となっていません。
・厳しい環境で生活する子どもには、ぜひ手厚い支援をお願いしたい。 ・直接担当課が対応できれば一番良いが、今の現状から考えると、あおぞらや社協、子ども食堂、プラットフォームさん、リエゾンさんなどに、資金的な支援が必要だと感じる。経営に大変、ご苦労されている。
①子ども達が自由に集えて、自由に過ごせる場所が地域ごとに設置されること（具体的には児童館のような施設を設置し、柔軟な対応ができる「居場所」としての拠点づくりが必要だ）。 ②様々なニーズの子ども達に応えるために市内に公的支援で設置された「フリースクール」を設立すること（助成制度があっても、通学できるフリースクールが少ない）。 ③様々なニーズの子ども達に応えるために放課後等デイサービスをもっと充実させて、特別支援学校や特別支援学級の対象にならないが発達障害等を抱え、支援を必要とする子ども達の過ごす場を充実させることを望みます。
・お金のバラマキでなく、本当に支援の必要な子ども・保護者に手厚く出来たら良いと思います。 ・冒頭でも述べましたが、先生の働き方改革を見直すならば、子どもの学級人数を 30 人にするとか、フリースクールを充実する方向にもっていく。 ・行政がすることには限度があります。やはり、人と人とのつながりが大切だと思います。昔は、どこの地域にもおせっかいおばちゃん達が何人かいました。こういう人の掘り起こしをすることも大切だと思います。このような人の力を利用する。 ・子ども達の学力向上にもう少し力入れてほしいと思います。
保育園、小学校、放課後児童クラブ等、こどもと関わる施設との連携を密に取りつつ、お互いに情報共有をしていき、お互いに協力体制を築いていく。放課後児童クラブに関しては、子育て支援支援課様のおかげもありまして、色々ご相談できたり、ご協力いただき、お助けいただいていることも多々ありますので、感謝の思いです。今後とも良い関係性を築いていけたらと思っております。
困難を抱える家庭に対しては家事支援等の訪問できる制度の活用、児童の下校後の時間帯の支援メニューが必要ではないかと思われます。
「ここに行ったらなんとかなる」と思えるような拠点づくりが必要だと思われる。それは、「行ってみよう」と思えるような場所と設備が必要で、いつでも誰でも利用できて、その中に悩んでいる人、助けてほしい人も自然な形で利用できるような基地のような場所が必要だと考える。

意見
・関わる家庭には複合的な問題を抱えている家庭もあるため、関係機関が情報を共有し、困りごとの解決に向けて話し合えればと思います。 ・ファミサポのサポーターさんに関わってもらうことで、困りごとの解決につながるのであればできる限りマッチングができればと思います。 ・ファミサポの利用を通して、地域の方と交流し、今後も米原で暮らしていく際に気楽に相談できる相手になればと思います。 ・サポーターさんの中には、自宅で子どもをみることが難しいこともあります。広々とした施設で、何かあった時に相談できる相手（まなびあいステーションや社協の施設）があれば良いなと思います。誰か大人の人がいる環境は、サポーターさんにとっても、安心材料になると思います。
・高校、大学への就学援助　・支援センターのみの施設（もしくは児童館）を作る ・子どもの遊び場の充実　・給食費の無償化 ・部活動の選択肢が増えること（もしくはクラブチームへの援助の充実）
子ども誰でも通園制度施行的事業についての現在の状況、利用の有無等を含めて状況や今後の見通し等教えてほしい。
子ども施策を充実させるためには、保護者から最低限の支援（日本人市民が受けている最低限の行政支援：外国籍市民は米原市自治基本条例の市民の定義において市民に位置づけられているが、福祉計画等で外国籍市民への対応が本当に考えられているか。）が必要である。 負の連鎖の解決は、生活支援→子の教育→就労対策→自立 米原市の様々な計画策定において、初めて外国籍市民へのヒアリング調査をしていただき本当にありがとうございました。
話を聞くだけでなく、直接的な支援が必要（家事支援、送迎支援等）。 子どもの全天候型プラス外遊びもできる場所を作り、そこには気楽に相談できるベテランの保育士さんがいてくだされば子どもも成長し、発散できる場にもなり、親も子育てに行き詰まりにくい環境が作れると思います。
・不登校児童生徒の家での過ごしについて、携わってほしい。また、家庭や学校外での過ごし場所について情報を提供してほしい。 ・保護者が相談できる場所の確保。
それぞれが持っている情報が個人情報保護として伝わってこない。親はどこに何を相談してよいかも分からない。情報提示、連携できる体制が必要と思う。
保育園が主で担っている未就学児（障がいのある）の支援を園と並行通園できる事業所を増やして、より早い段階から当事者や保護者の支援を行える体制の充実。

意見
①山間部など過疎地域における障がい福祉サービスの充足。 ②地域の小学校の特別支援級を卒業して中学校に進学した後に福祉サービスが途切れる児童さんが多くいるのではないかと考えています。本来であれば療育の必要性が高いのに放課後等デイサービスのキャパシティーの問題、幼少期は大変だったが本人の成長によって落ち着き手がかからなくなった等様々な理由はあるのでしょうがサービス利用が減ったり終了することで関わる機関が減ってしまうのでないでしょうか。学校以外でも関わる機関の数が多いほど課題のある家庭に関われると思います。 ③障がいを持ったお子さんが将来自立した生活を行うために放課後等デイサービスの存在意義を広く認知してほしいと感じています。保護者の方の就労の支援のための預かりも重要な機能ですが、託児所のような一時預かりだけではなく高校卒業後の本人の将来の自立に向けた療育、訓練もできるということをもっと知って活用してほしいです。
普段の活動で、課題のある子どもや家庭に出会うことがないので、簡単な回答で申し訳ないです。実家や義実家から離れて住まわれている方、仕事の関係でワンオペ育児をすることが多い方もたくさんおられると思います。又、１人で住んでいらっしゃる高齢者の方もおられるので、子育てサークル等のサポーターとして、活動を支えてもらったり、子どもたちの元気や笑顔をおすそわけしたり、お互いのメリットとなるような交流が増えたらいいなと思います。また、活動ができる、交流ができる、施設利用費の助成があれば嬉しいです。（以前、会館の無料開放の話を子育て仲間から聞いたことがあるので）
園でトラブルになった親が普段短時部の親子と長時部の親子とつながる機会がないため自然な流れで話し合う機会が持てずお互いのことを悪い印象をもったまま溝がうまらないままほかの親や子、先生にも話すので精神的な安定が持てず、安心した子育て環境につながりにくい。
・関わる家庭には複合的な問題を抱えている家庭もあるため、関係機関が情報を共有し、困りごとの解決に向けて話し合えればと思います。 ・地域のボランティアさんに関わってもらうことで、困りごとの解決につながるのであればできる限りマッチングができればと思います。 ・様々な活動に参加してもらうことで、地域の方と交流し、今後も米原で暮らしていく際に気楽に相談できる相手になればと思います。 ・子育て世代から要望が多い、自由に遊べる公園等の整備ができれば良いなと思います。

意見
・あじっこパークには、これまでに、学区の学校の先生方がいらっしゃり、子どもたちと過ごしてくださったことが何回かあります。子どもたちにとっては、学校とは違う先生の雰囲気に触れる機会、先生に「学校とは違う自分」を見てもらえる機会となり、一方、先生にとっては、学校とは異なる、子どもの居場所のコンセプトや、そこでの子どもの表情を知ってもらえる機会となります。さらに、保護者と先生が、学校以外の場所で出会うことで、自然な形でお互いの人となりを知る機会にもなっています。教職員の方々が、休日にこうした地域の活動に行ってみようと思えるようになるためには、平日の勤務の負担が大きすぎないことが大事だと思います。 ・大変ご多忙とは存じますが、市の職員の方にも、ぜひ現場にお越しいただければと思っています。本アンケートに記入したような生の声が聞けると思います。また、市役所に連絡して相談するのはハードルが高いという家庭でも、地域の居場所などで自然に接する中でなら、困りごとを相談できるという場合があるかもしれません。 ・活動の資金面を支えてほしいです。日々の活動の細かなお金は寄付や物販などでまかなえても、人件費や設備面（エアコンの設置、古民家の改修等）は難しいです。
本気で考えているのでしたら、職員の方が現場に通ってください。この計画をつくられてからも、一度もいらしていません。それで、何がわかるのでしょうか。このアンケート結果だけでわかるのですか？このアンケート結果がどういう背景からでているのか職員の方が活動現場で感じるべきです。子どもの声も僕ら団体を通じてではなく、子どもたち一人一人から聞くべきです。なぜ、しないのですか。どうか、職員の方は現場に足を傾けてください、それからです。
「居場所 CAFÉ　こすもす」では、既存のサービスになじめない人たちの居場所になるべく支援、そこからステップアップして、参 PR、就労につなげるよう働きかけていました。また、ご家族の居場所でもありました。また、社会生活をしているけれど、いろいろなしんどさを抱えている人の拠り所であったり、ワンオペ育児で孤独だった子育て中の人たちが、つながり子育てサークルを作り、活動の支援、そして自立していき、読み聞かせボランティアの独居の高齢者とつながるなど、多様な活動が生まれていきました。そのような居場所を開き、運営するための支援がほしいと思います。活動できていませんので、十分な回答ができず、すみません。
・給食費無料 ・子どもたちの遊べる所を作る
意見交換の場や情報が少ない。本気で対応するなら助成も少ないと感じる。ある程度の出費は厭わないが、長く続けるにも限度がある。「予算がないから」では少子化問題は改善されない。
・保育士の待遇改善と保育園等への預けやすい制度設計 ・地域との関わりを持とうとされない家庭にいかに関心を持っていただき、地域に溶け込んでもらうか、そのきっかけづくりや支援策
・困っていることを、安心してさらけ出してもらう場所、時間の提供 ・困っていることを、どう克服していったかなどを聞く機会の提供
ＳＦＰ（双葉中の不登校のための教室）で学習ができるように準備が必要です。まずは居場所作り、次は自己肯定感作りのため学習もできてもよいと思う。物をそろえてほしい。

意見
・各課、関係機関の横のつながりを強くしていくことが大切。そのためには、各課、各機関とも関わろうとする積極的な意識が必要 ・子どもや家庭の「ニーズを待つ」だけでは、結局は関わることはできない。ニーズを出せるようなアプローチの仕方を考えていくことも大切。 ・米原市民の大人から子どもへの約束。米原市子ども条例は今も存在していますか？ ・虐待防止啓発活動がもっと必要かと思います。他市町の取り組みについて知りたいです。 ・児童虐待は子どもを持つ親なら、ある意味平等にだれでもおこりうる可能性がある。そんなことありえないと他人事と思っているこれから子どもをもつ妊婦さんに、子どもを持つ前の段階で、必ず自然に出会える健康づくり課から、児童虐待についてハードルを下げて、どこかで全妊婦(とパートナー)に話をしてもらえたらなと思う。母子手帳発行の際、必ずみんなに聞いてもらっているんです、母と子を守るためなんです、と。児童相談所の紹介もしてもらいたい。0 日虐待を防ぐために。プレパパママ教室は復活しないのかな。 ・児童虐待はこどもを持つ親なら、だれでも起こりえる可能性のあるもの。だから、子育てを一人で抱えないでもらいたい、頑張りすぎないで相談してもらいたいことを、妊娠期から自然と出会える健康づくり課からもっと話してもらいたい。0 日虐待を防ぐために、プレママ教室を復活してもらいたい。 ・不登校ひきこもりについてワンストップで対応する部署、窓口の設置と専任者の配置を行い、必要に応じてアウトリーチを行うことが必要。
滋賀県全域に言えることですが、教育にお金がかかっておらず、学校で使う用紙までも保護者負担となっている。また、米原市は大規模な公園などもなく、子どもが安心してのびのび遊べる場所が、子どもが多い地域にない。
学校や行政がどうしても入り込むことができない家庭環境・状況がある場合、現在「りえぞん」さんに大変お世話になっている。本来、学校や行政がやるべきことをボランティアという形でやってくださっている。このような民間の方々（組織）のご厚意に甘えているだけではなく、行政からの支援（特に財政的な支援）はしっかりと行うべきだと思う。
不登校・ひきこもり支援をする団体への助成
いつもお世話になりありがとうございます。個人的な意見になるかも知れませんが、子育てについて、支援が必要な家庭には、今後もぜひ継続した支援をお願いしたいと思います。気になる点として、例えば米原市は医療費が無償であるにも関わらず、う歯罹患率が高いなどの傾向もあり、子育てに関わっている方の意識をどう高めるのか等、学校も連携しながら考えていきたいと思います。また、これは全国的な傾向だと思いますが、何事も目先のことにとらわれがちで、誰もがすぐに、より手厚い行政サービスを求める傾向があると感じています。今、目の前にいる子ども達がたくましく育ち、自己実現が図れるように、また、「ふるさと米原市」という愛着をもって、社会で生きていけるようにするためには、もっと根本的なところにメスを入れる必要があるように感じます。
学校にスクールソーシャルワーカー、カウンセラーを常駐していただきたい。
各施設や団体が、積極的に情報交流できる場や組織作りが必要であろう。

意見
・生活費や進学等に必要な支出に対する補助 ・児童虐待や自殺を防ぐ取組の強化 ・障害（発達障害を含む）のある子ども、その保護者に対する支援
・困り感をもった保護者が気軽に集え、多様な課題をもった子どもたちが集えるセンター的機能をもった施設があるとよい。
いつもお世話になっています。やはり、保護者の無自覚な部分が子どもの支援を滞らせているような部分の解消のため、ＳＳＷなどの活用をさらにすすめていければと思います。また、金銭的に苦しく、学力が低くなっているお子さんへの支援をさらに拡充することができればと思います。
教育支援…質の高い教育課程の整備：教室の設備改善や ICT 機器の更新 健康支援…メンタルヘルスサポート：カウンセラー等のさらなる配置や心の健康を支えるためのプログラムの充実 福祉支援…経済的支援：低所得家庭への補助金の充実や給食費等の援助を充実し、子どもの貧困対策を進める 居場所の提供…地域の遊び場や交流スペースの確保：子ども達が安心して遊び交流できる場所を整備する（現有の図書館スペースの充実） 地域社会との連携…企業やＮＰＯとの連携：地域の企業やＮＰＯと協力し、教育プログラムや支援活動を実施していく

Ⅲ　子どもヒアリング調査

1　実施概要

（1）調査の目的

こどもまんなか社会の実現やこどもの権利を守ることが重要となっていることも踏まえ、当事者である子どもたちの生の声を聴くことで、今後のこども施策に活かしていくことを目的とする。また、現在策定中の「米原市こども計画」へ意見を反映する。

（2）対象者・実施方法

対象	実施方法
米原市内の中学校生徒会の生徒	学校を通じて調査票を配布・回収
居場所や施設に通っている子ども	施設等を通じて調査票を配布・回収

2　中学校生徒会

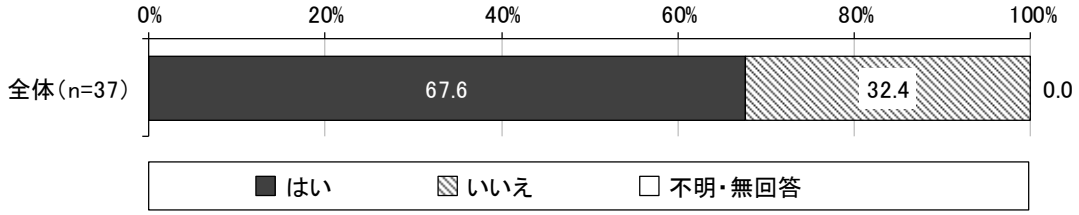
問１　ふだんの生活の中で楽しいとき、ほっとするときはどんなときですか？

意見
友だちとしゃべっている時（３件）
昼休みなどに生徒会が設置したトランプを使ってカードゲームをするのが楽しいです。ほっとするのは、何気ない会話をしている時などです
友だちとしゃべる時、ゲームなど、自分が好きなことをやっている時
友だちとトランプで遊ぶのが面白い
趣味をしている時
友だちとしゃべっていて話があった時
ゆずかちゃん、つばきちゃんの顔を見た時
仲間が声をかけてくれた時
趣味をしている時(読書、アニメ見る等)
親や先生、友達に褒められたとき
部活する時が楽しい。ほっとするときは友達としゃべっているとき
友だちと話しているとき。家で家族や猫といる時
友だちと遊んでいる時
友だちと話すとき、家でゆっくりしているとき
家で好きなことをしている時、絵を描いている時、ごろごろしている時
家に帰った時ほっとする
学校に帰ってきてから、外の景色を眺める時
家に帰ってご飯を食べている時
友だちといる時、学校、お風呂、寝る時
人としゃべっている時
楽しい時、友達と遊ぶ時、ゲーム、本
友だちと話すときや毎日、安全に学校に行ける時
家族といる時、友だちと遊ぶ時
友だちとしゃべっている時や、自分の仕事が失敗せずにおわった時
友だちと話している時、ベッドの中にいる時、寝ている時、スマホを見ている時
スポーツをしている時、買い物をしている時。ご飯を食べている時
家に帰ってきた時、テストが終わった時、習い事の時
家でのんびりしている時、家族や友達と話している時
自然（伊吹山、森など）を見ている時
休み時間、友達としゃべっている時、テストが終わった時
一日が終わった時
好きなことをする時、寝る時、ご飯を食べる時
友だちとしゃべっている時、家族といる時

意見
テストが終わった時、妹や友達と遊んでいる時、TV を見ている時、家族と出かけている時
友だちや家族と会話するとき

問２　あなたはこの先も米原市に住みたいと思いますか？（どちらかに○）

「はい」が 67.6%、「いいえ」が 32.4%となっています。



「はい」を選んだ人　**その理由は何ですか？**

意見
自然が豊かで空気がおいしいから（２件）
故郷であり、自分が慣れ親しんだ地域なので住み続けたいです！
田舎が好きだから
住み慣れているし、災害の被害も少ない。穏やかで良いと思ったから（交通や物の便はよくないかもしれないけれど）
自然も豊かで、新幹線が通っていて、不便なことがあまりないから
自分の生まれた市だから
空気がきれいだから、特に都会に住みたいと思わないから
自然が豊かで、治安がいいから
環境も落ち着いているし、市役所は自習スペースなどあって勉強する場を提供しているから
大人になれば、考えは変わるかもしれないけど、今は住み慣れているから
空気がきれいだから、災害の被害が少ないから
自然豊かで、災害が来づらくて、安心して住める町だから
災害が起きづらいイメージだから。日本の真ん中で、どこへ行くにも行きやすいから。もう少し近くにコンビニやファストフード店などを増やしてほしい
自然が多くあり、田舎過ぎない所
自然豊かであるから。生活に必要なものが自分の家の近くにそろっているから
自然に囲まれていて、店も近くにあるので、生活に困らないから
田舎過ぎず、都会過ぎず、きれいな空気は吸えるが、新幹線は近くを通っているし、少し出たら色々な商業施設などもある
自然が豊かでビルなどの建造物が少ない。空気がきれい
自然豊かで災害が日本や滋賀県で比べると少ないから
住み慣れているから。自然がたくさんあって、地域の人がとてもやさしいから

意見
自然が豊かで、住んでいて落ち着くから。1番よく知っているから→知らないところにはなるべく行きたくない
安心する。安全。このまちを知っているから
自然が多いから
空気がきれいで近所の人が優しい。出会う人に挨拶をかけてもらえる。→暮らしやすい

「いいえ」を選んだ人　**米原市がどうなれば、住み続けたいと思いますか？**

意見
米原市は他の市と比べて誇る場所や、何か特別なものが無いので、みんなが何か目を引くような魅力的なものがあると良いと思う
一人暮らしをしてみたいから
有名な飲食店ができたら
人が増えたら
都会に住みたいから。商業施設がもっと増えてほしい。電車の数増やしてほしい
買い物ができる場所（ショッピングモール）を増やしてほしい
店を増やしてほしい。子どもが楽しめる施設を作ってほしい
都市化
もっと大きなショッピングモールとかあって、もう少し都会だったら住みたいと思う
交通手段が増えてほしい
今の自然を残したまま、大型ショッピングモールができたり、子供やお年寄りへ補助金が出ること
通勤、通学などがしやすい環境や制度が整う(増加する)。高齢者が車を運転しなくても生活できるようなる。長く住み続けることを考えるとそういった点を安心できるようにしてもらいたい

問３　米原市の魅力は何だと思いますか？

意見
伊吹山（３件）
自然豊かなところ（２件）
自然（三島池など）（２件）
豊かな自然が美しい
豊かな自然の中の落ち着いた空気や、昔ながらの風景が良いと思う
大きな伊吹山と、豊かな自然、たくさんの動物など、自然がたくさんあるから
他の市に行きやすい。電車で
伊吹山が近くにあり自然豊かなところ
伊吹山に携わっている学校行事のある学校が多いことです
山
伊吹山がきれいに見える

意見
山があって田畑があって自然が多い所。「都市～」というような雰囲気はなく、のびのびと過ごせるところ
不便と感じることが少ない
駅がちかい、自然が豊か、地域の人があたたかい
安心して過ごせるところ。市民皆優しい
給食がおいしい。学校と地域の方々と関われる機会が多い。新幹線が止まる。自然がたくさんある
程よく田舎で、自然が豊かな所
とても災害が起こらず安心して生活できること
大きな災害がほとんど起こらない所。自然豊かな所
琵琶湖、伊吹山が近いところ
新幹線が止まること
自然に囲まれている。地域で協力して、行事を企画、運営できるところだと思う
新幹線。コンビニ多い。自然豊か
ローザンベリー多和田などの観光地がある。自然がとても豊か。新幹線がある。大都市に近い
事件が少ない所
米原駅に新幹線が止まったり、交通の便がいい所
三島池や伊吹山等の自然。子育てに熱心
自然が豊かな所。地域の人々がいつも優しい所。新幹線がとまるところ（滋賀県で唯一）
新幹線。人柄がいい
人が優しい所。自然豊かで空気がきれいな所
町がきれい、緑がたくさんある
自然が豊か。住民同士が挨拶をして関わりがあること
豊かな自然。地域の人々のつながり

問４　あなたの将来の夢、やってみたいことは何ですか？

意見
教員（２件）
本に関わる仕事がしたい。伊吹山の特産のものを知り、守りたい
私は図書館で働きたいです。そして、たくさんの思い出のある近江図書館でも働けたら嬉しいです
卓球を続ける
沢山の人と関われる仕事
医療系の仕事。仲のいい友達と大人数で遊ぶこと
海外で生活してみたい
まだないけれど、人に感謝されたり、自分がその夢がかなった時に良かったと思えることをしたい
色々なアルバイトをして、様々な仕事を体験したい
今はまだありません
美容の資格をとること。美容に関わる仕事をすること。編集者　など

意見
人の役に立つこと
沢山の人の役に立つしことをしたい
色々なことろに旅行に行ってみたい
ショートスリーパー。留学
日本や世界などの広い所への旅行。職場でやりがいのある仕事をする
先生、市役所で働く人
募金活動
美術スタッフ（美術に関わる仕事）
海外旅行。動物の保護活動
将来の夢→中学校教師。今までやったことがないことにチャレンジしたい
整体師。北海道に行きたい
食品系の仕事に就くこと
大きい大人になること
自分の得意なそろばん関係すること（やってみたい）
看護士
1 日総理大臣になってみたいです。空手や剣道をやってみたいです。将来の夢は、大手企業に就職することです
決まっていない

問５　自分のやりたいことをするために、大人の人に手伝ってもらうとしたら、どんなことを手伝ってほしいですか？

意見
金銭的援助（２件）
もっと地域のイベントを開いてほしい。司書さんの話をもっと聞きたい
自分のことを客観的に見て、どこが良くないか、どうすればもっと成長できるかを教えてほしいです
卓球ができる所を探してほしい
色んな仕事についての内容を教えてほしい
大学のお金を出してもらう
集団で行く海外研修のプロジェクトを米原市でも数を増やして行ってほしい
体験する場所をたくさん作ってほしい
やりたいことをするための施設を設置してほしい
相談
話をしっかり聞いてもらうこと
新しいことに挑戦するときに色々補助をしてほしい
人生の先輩としてのアドバイスをもらいたい
留学のプロジェクトの支援
社会で生きていくために必要なことを教えてもらう。いろんなことにチャレンジさせてもらう

意見
勉強を教えてもらいたい
簡単に募金できる施設の設置
美術に関わることをしたいので、画材費など専門学校での費用を少し保証してほしいです
話を聞いてアドバイスしてほしい。サポートしてほしい
自分では用意できない材料などを用意してほしい。分からないことは教えてほしい
ご飯を作ってほしい。お金を稼いでいてほしい。相談に乗ってほしい
応援
時間をくれること
進路決定
自分の得意なことを伸ばすための手伝いをしてほしい
奨学金を充実させてほしい
進路相談に乗ってほしいです
自分のめざす道や、興味のある道に進んだ米原市や近くの人の話を聞く機会をつくってもらうこと

問６　あなたは、「子どもの権利」が守られていると感じますか？
守られている、または、守られていないと感じるときはどんな時ですか？

意見
守られていないと感じる時は、誰かのことをからかうっぽくなるとき。授業でした内容をどこまで守れるか（全て守ることができないから）よく考える時間が必要だと思う。守られていると感じる所は、アンケートがあったり、聞く機会があったりするところ
守られている。クラス全員が平等にものごとを行っている時
守られていると感じる。交通道路に立ってくれていたり、挨拶をしてくれる
守られていると思う
守られていると思う。学校でクラスや学年で交流することやみんなで協力して勉強しているときに、守られていると感じる
働かずに勉強出来たり、学校へ行ける毎日に子どもの権利がある。意見を発表したり、聞いてもらえる場がある
学校の先生に悩みを聞いてもらったり、自分に寄り添ってもらったとき、守られている
学校の生徒会などで、子供の意見のもとで活動が行われている時
地域の人たちが、会ったらしっかり挨拶してくれる
守られている。幸せに育ってきたから
守られていると感じる→子供のパトロールなど
旗当番や地域の人が地下道などに立ってくれている時に守られていると感じる
守られていると思う。滋賀で、子どもと大人が話し合う会議があり、自分たちの意見が尊重されていると思う
守られている。相談したら話を聞いてくれる
守られていると思う。当たり前のように学校に行けて不自由なく生活できている

意見
私たちに寄り添って話を聞いてくれている時に守られていると感じる
やりたいことをサポートしてくれたりしたときに子どもの権利が守られていると感じる
守られていると感じる時は、スクールガードさんが通学路にいてくださるとき。守られていないと感じる時は、信号無視など交通ルールが守られていないとき。また、ポイ捨てをしているのを見た時
守られていると感じる。家族や先生は話をよく聞いて見守ってくれている
守られていると感じる。大人が子供のことを考えて行動している時（食事を与える、ものを買うなど）
衣食住が保障されているところ
感じる。自分のことを叱ってくれたり褒めてくれる
感じる。自分がやりたいことができる時。
守られている。子どもとして生きれているから
子どもの通学路に立って、横断歩道を渡るときに守ったり、挨拶をしたりしてくれる人がいる時に、守られていると感じる
感じます。毎月のアンケートや教育相談で、先生が話を聞いてくれるから
学校に通えたり、毎日ご飯を食べられているので、守られていると思います
このようなアンケートに回答している時や、選挙や政治について学んでいる時に、権利が守られていると感じる

問７　どのような方法があれば、大人（学校や米原市など）に意見を伝えやすいですか？

意見
口や話でだと伝えにくい人もいるかもしれないので、このようなアンケートを取ると伝えやすいと思う
今では SNS を行っている人がほとんどなので、メールで伝えられたら伝えやすいです
手紙
お手紙、アンケートなど
主張したいことを作文に書いて大人に読んでもらう。意見 BOX（ポスト）を市に設置する。各学校でアンケートをしてもらう
タブレットで行うアンケートは答えやすいし、意見も伝えやすい
学校や、米原市、大人などとの交流を身近に感じることのできる活動をする
実際に、子供と大人が話し合いをする
インターネットを使ったクチコミなどで直接市に送る
スマホから簡単に意見が送れるようなものを設けてほしい
teams などのアンケート
すぐに相談が出来る環境がそばにあること
このような形のアンケートを紙ベースで行う方法
話し合う機会があれば、伝えやすいと思う
いつでもオンラインで、持ち込めば質問できるようウェブサイトをつくり、そのことを市民に宣伝すればいい

意見
学校に意見ボックスなどを設置して米原市などに伝わるようにする
直接は伝えにくいから、アンケート等とると言いやすいと思います
スマートフォンなどですぐに意見を言えたりしたら（メールのようなかんじで）伝えやすいと思う
中学校など人目の付くところに大人に対する意見箱を置くことや、大人に対する思いを伝えることのできるイベントを開くこと
SNS で簡単にできるもの（LINE や QR コードを使ったサイトなど）
意見を伝える機会を設ける。意見箱のようなものをつくる。周りの環境を整える（意見を言いやすい環境）
学校であれば、先生との距離が近く、接しやすかったら…。しっかりとまじめに意見を受け止めてくれ、意見を実行してくれる先生と 2 人での対談をしたい。　匿名性で。直接は話さない方法
意見を出せるホームページ(匿名で)
実際に話し合う機会をつくる。アンケートを実施する
対面
この用紙のようなアンケートを定期的に行う
定期的にアンケートをする。タブレット
相談できる場(機会・アンケート）があると良いと思います
匿名性のあるアンケート（その存在を多くの人が知っている）。スマホから手軽に伝えられる場所に意見を寄せることができる

問８　子どもや若者たちにとってより良い社会となるためには、何が必要だと思いますか？また、大人や社会に対して、意見を言いたいことがあれば、ご記入ください。

意見
お金は必要だと思う。お金がないと高校、大学に行けないから。いま、市や県が何をしようとしているのかを簡単に知れるようになりたい。
互いのことを知って、そして互いの問題点を一緒に考えること
子どもにも権利があるということをみんなに言いかけること。子供の意見にも耳を貸すこと
市全体が発展して、市の人と沢山交流できる場を作ることが必要
私たち一人一人が社会を身近に感じて、これから大人になって行く子に目を向けることが必要
大人も子供も、偏見をなくすこと
米原市が動いて、大人と子供がともに意見を出し合って協力していくことが大事だと思います
古臭いものにとらわれないで、新しいものを取り入れてほしい。政治に参加する人は、定年 65 までで、若い人も入れる
子どものパトロールは続けるべきだと考える
効率を重視しすぎず、公正さも考えていくことが必要だと思う
ボランティアの機会を増やす。交流をたくさんする
子どもたちが疑問を解決できるような環境をつくる。どんなことでも自分で改善点とその方法を見つけてより良くしていけるようにする。近くの人と交流できる場があればお互いを知れると思う

意見
子どもたちの意見をもっと取り入れていくこと
いじめ防止などの為に、道徳の考えをもっと深く浸透させたい
地域での活動をたくさん行う→絆や協力していこうという気持ちになると思う
若い世代の人たちの考えを政治に取り入れることや、大人が子供の意見を否定せずに真剣に聞くことだと思う。高齢者の方やすごい知識を持っている人（日本の伝統など）から話を聞ける機会などが増えていけば良いと思う
今までになかった取り組みを行う。若者、子どものことを１番に考える。移動手段、商業施設を増やす
歴史的なものはあるので、みんなが楽しめる、みんなのたまり場みたいなスポットがほしい
互いを信じあう気持ち
ジェネレーションギャップを無くすこと。互いを理解し、認め合うこと
地域との交流
身の回りの人との関係性をよくすること
特にないです
学校に通えたり、仕事ができる環境づくりが必要だと思います。私は日本の食材廃棄量がすごいことを学んで、それを少しずつでも減らしてほしいなと思いました
気軽に相談できる場所

Ⅳ　子どもワークショップ

1　実施概要

（1）ワークショップの目的

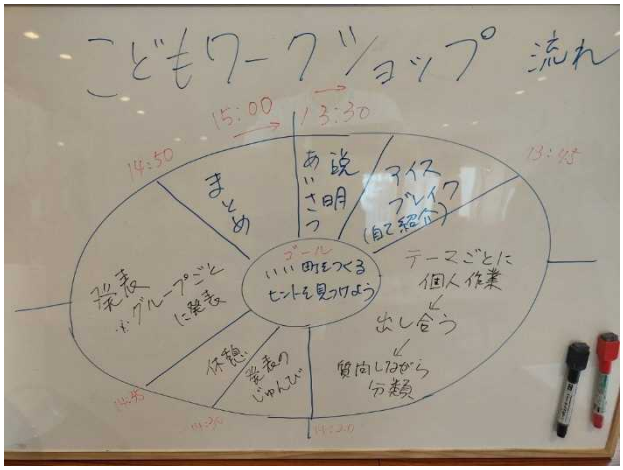
こどもまんなか社会の実現やこどもの権利を守ることが重要となっており、当事者である子どもたちの生の声を聴くことで、今後のこども施策に活かしていくことを目的とする。また、現在策定中の「米原市こども計画」へ意見を反映する。

（2）実施概要

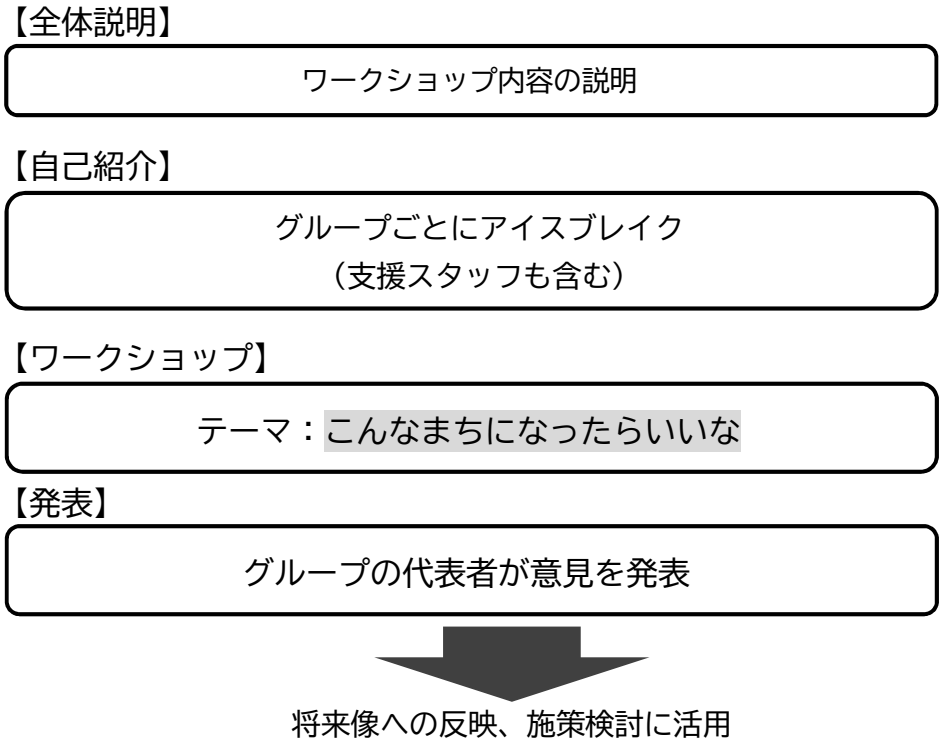
実施日時	令和 6 年 8 月 22 日（木）
時　間	午後 2 時～　（午後 1 時～集合、お菓子買い出し）
場　所	坂田第 1 児童クラブ（さかっこクラブ）
対　象	放課後児童クラブに通う子ども　1 回 30 人程度（6 人× 5 グループ）
進め方（概要）	1 グループ 6 名程度でグループ分けを行い、テーマに沿ってグループワークを行う。
支援者スタッフ等	ファシリテーター：さかっこ　柳生様 各グループ内進行：さかっこクラブ支援員、市職員、ジャパン総研

（3）当日プログラム

○会場準備
○開会あいさつ
○ワークショップの概要説明
○自己紹介（アイスブレイク）
○ワークショップ
○発表
○閉会



■ワークショップの流れ



（4）テーマ

≪全体テーマ≫

こんなまちになったらいいな

意見を分類しながら、みんなで理想のまちを考えます。

≪個別テーマ≫

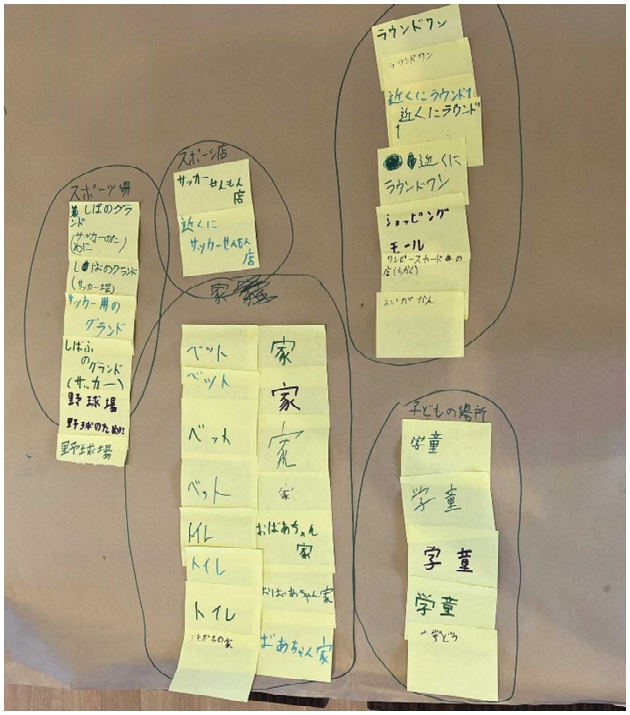
①	自分の住んでいるまちの好きなところ
②	あったらいいなと思うもの・落ち着く場所

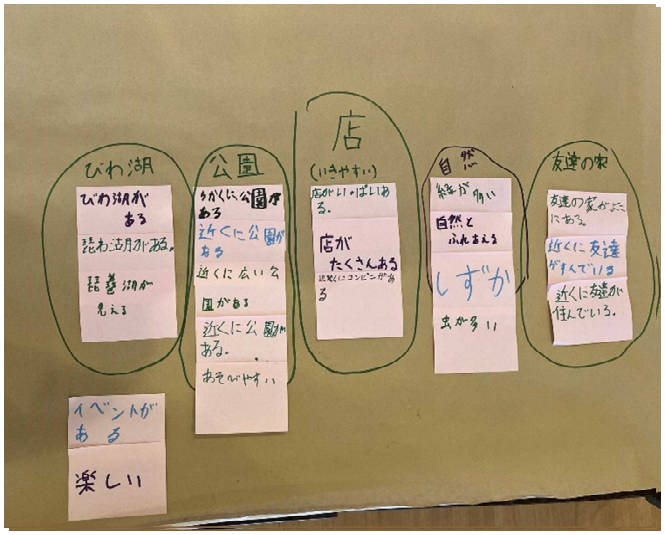
2　実施結果

（1）A グループの意見

個別テーマ	分類	意見・アイデア
自分の住んでいるまちの好きなところ	びわ湖	■琵琶湖がある（2件） ■琵琶湖が見える
	公園	■近くに講演がある（3件） ■遊びやすい
	店 (行きやすい)	■店がいっぱいある（2件） ■近くにコンビニがある
	自然	■緑が多い　■自然と触れ合える ■静か　■虫が多い
	友達の家	■友達の家が横にある ■近くに友達が住んでいる（2件）
	その他	■イベントがある ■楽しい
あったらいいなと思うもの	スポーツ場	■芝のグラウンド（サッカーのために）（4件） ■野球場
	スポーツ店	■サッカー専門店（2件）
	その他	■ラウンドワン（5件）　■ワンピースカードの店 ■ショッピングモール　■映画館
落ち着く場所	家	■家（4件）　■おばあちゃんの家（3件） ■ベッド（4件）　■トイレ（3件） ■友達の家
	子どもの場所	■学童（5件）

■A グループ模造紙


ラウンドワン
近くにラウンド1
近くにラウンド1
近くに
ラウンドワン
ショッピング
モール
スポーツ店
サッカーせんもん店
近くに
サッカーせんもん店
スポーツ場
しばふのグランド
野球場
ペット
家
ペット
家
ペット
家
トイレ
トイレ
トイレ
子どもの場所
学童
学童
学童
学童

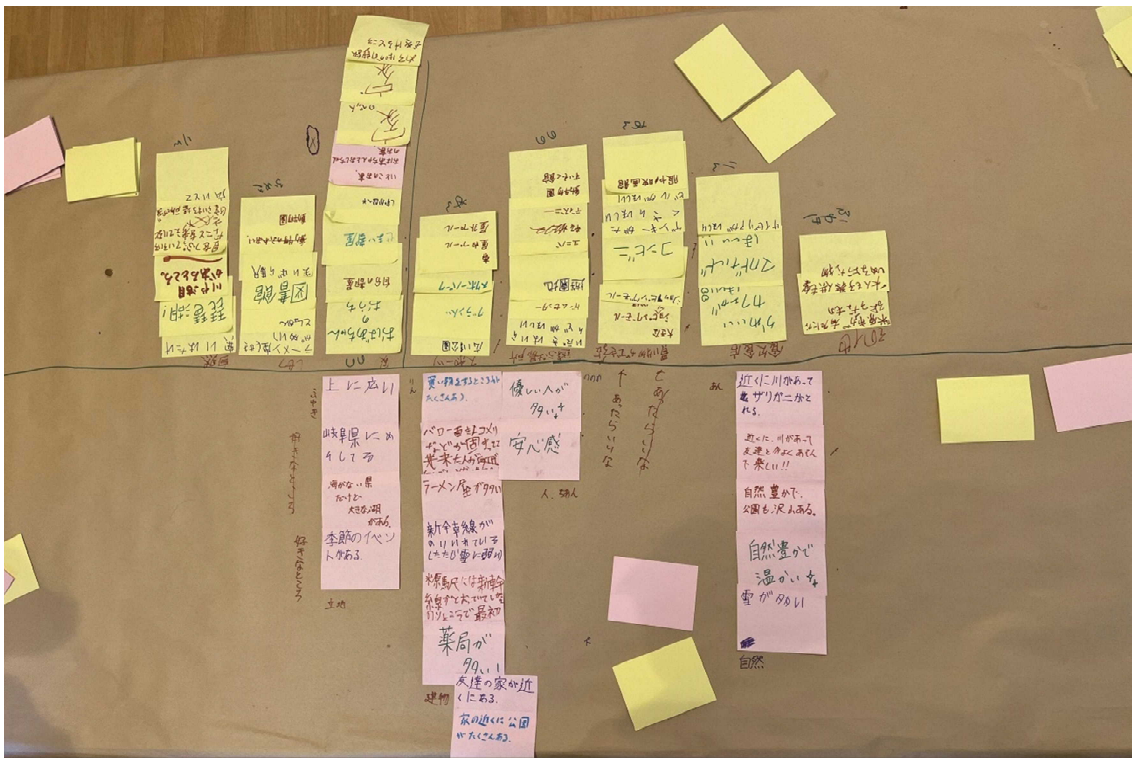

びわ湖
びわ湖がある
琵琶湖が見える
公園
近くに公園がある
近くに広い公園がある
近くに公園がある。
おそびやすい
店
(いきやすい)
店がたくさんある
自然
自然とふれあえる
しずか
友達の家
友達の家がよこにある。
近くに友達がすくでいる
近くに友達が住んでいる。
イベントがある
楽しい

（2）B グループの意見

個別テーマ	分類	意見・アイデア
自分の住んでいるまちの好きなところ	立地	■上に広い ■岐阜に面している ■海がない県だけど大きな湖がある ■季節のイベントがある
	建物	■買い物をするところがたくさんある ■バロー、百均、コメリなどが固まってて来た人がついでに買い物しやすい ■ラーメン屋が多い ■新幹線が乗り入れている（ただし雪に弱い） ■米原駅には新幹線が通っていて滋賀への旅行で最初に来やすい ■薬局が多い ■友達の家が近くにある ■家の近くに公園がたくさんある
	人	■優しい人が多い ■安心感
	自然	■近くに川があってザリガニがとれる ■近くに川があって友達とよく遊んでいて楽しい！ ■自然豊かで公園もたくさんある ■自然豊かであたたかい ■雪が多い
あったらいいなと思うもの	スポーツ	■広い公園　■グラウンド ■スケボーパーク　■屋内、屋外プール
	遊ぶ場所	■いぶきはいらんどがほしい ■ゲームセンター　■遊園地 ■ユニバ　■ディズニー ■動物園　■水族館
	買い物ができる	■大きなショッピングモール（2件） ■コンビニ　■ゲンキー ■ビル　■服屋、映画館
	飲食店	■かわいいカフェが欲しい ■マクドナルド　■サイゼリヤ

個別テーマ	分類	意見・アイデア
	その他	■「米原市」が有名になるようなもの ■大人も子供も楽しめるようなもの
落ち着く場所	家	■おばあちゃんの家（２件）■家（２件） ■自分の部屋　■狭い部屋 ■静かな部屋　■いとこの家 ■めろぱかの曲を聴けるところ
	施設	■ラーメン屋（席が多い） ■図書館（２件） ■米原駅　■動物園
	自然	■寒い畑　■琵琶湖 ■川や湖があるところ　■広いところ ■目をつぶっていろいろなことを考えているとき（信頼する場所に限る）

■B グループ模造紙

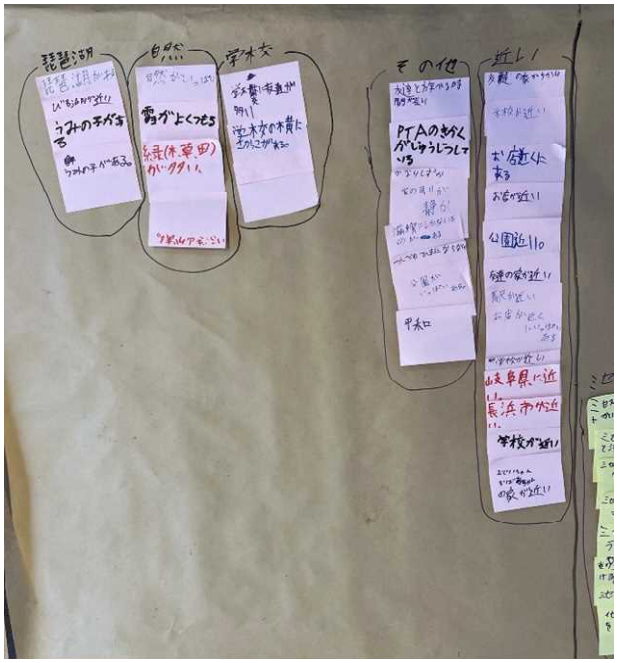


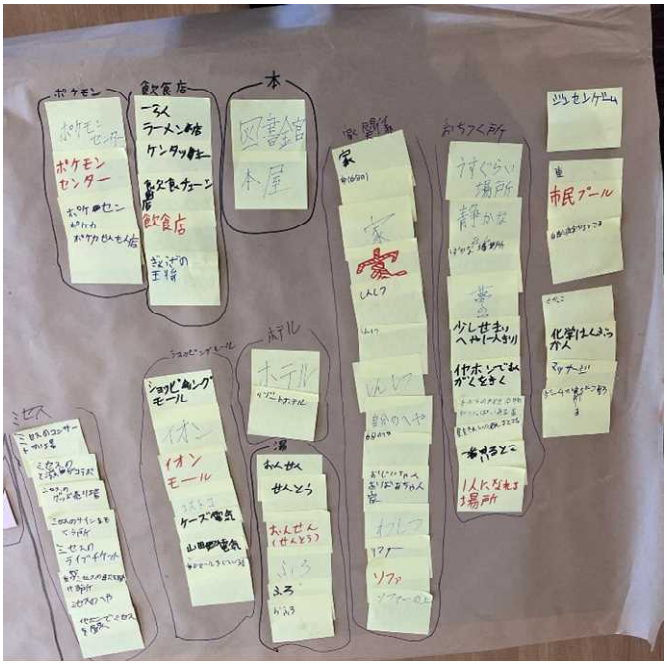
（3）C グループの意見

個別テーマ	分類	意見・アイデア
自分の住んでいるまちの好きなところ	琵琶湖	■琵琶湖がある（2件） ■うみの子がある（2件）
	自然	■自然がいっぱい　■雪がよく積もる ■緑（木、草、田）が多い　■伊吹山がある
	近い	■友達の家が近い（2件）　■学校が近い（3件） ■お店が近い（3件）　■公園が近い ■駅が近い　■岐阜県に近い ■長浜市が近い　■祖父母の家が近い
あったらいいなと思うもの	ポケモン	■ポケモンセンター（2件）■ポケカ専門店（2件）
	飲食店	■一蘭のラーメン店　■ケンタッキー ■飲食チェーン店（2件）　■餃子の王将
	本	■図書館　■本屋
	ホテル	■ホテル　■リゾートホテル
	湯	■温泉、銭湯（6件）
	ショッピングモール	■ショッピングモール　■イオン（2件） ■コストコ　■ケーズデンキ ■ヤマダ電機　■毎日セールをしている店
	ミセス	■ミセスのコンサート会場 ■ミセスと滋賀がコラボ ■グッズ売り場　■サインをもらうところ ■ライブチケット　■ミセスの部屋 ■車の中でミセスの歌を聴けるところ ■イヤホンでミセスを聴く

個別テーマ	分類	意見・アイデア
落ち着く場所	家関係	■家（３件）　■寝室（３件） ■自分の部屋（２件）　■祖父母の家 ■和室　■ソファ（３件）
	落ち着く所	■薄暗い場所　■静かな場所（２件） ■夢の中　■少し狭い部屋（一人きり） ■イヤホンで音楽を聴く ■子どもの好きなものがいっぱいある店 ■星をきれいに見れるところ ■一人になれる場所　■一番いるとこ
	その他	■ジンセンゲーム　■車 ■市民プール　■自由に遊べるところ ■さかっこ　■科学博物館 ■マッサージ　■ゲームがあるところ

■Ｃグループ模造紙

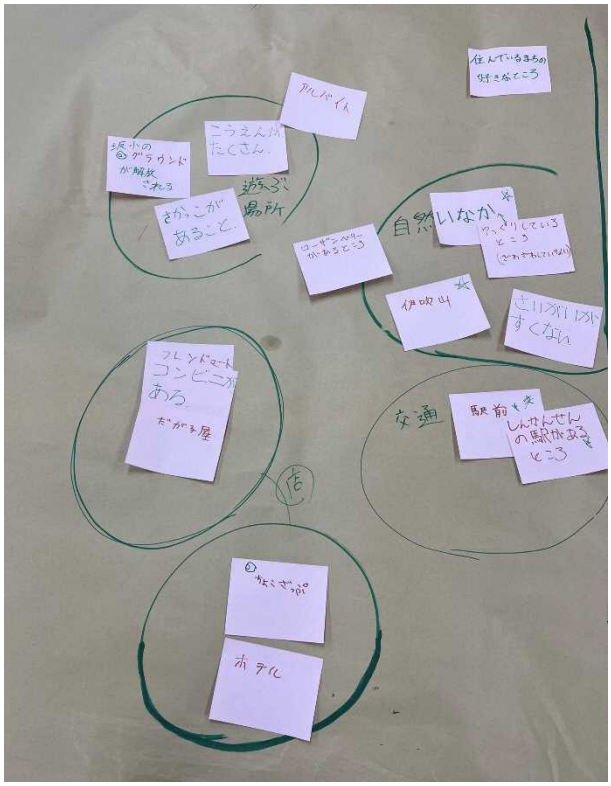


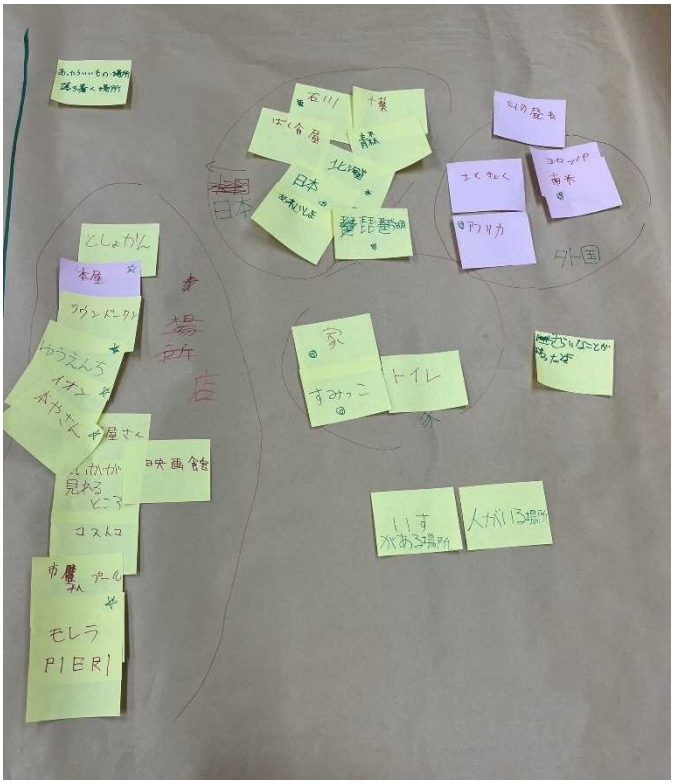


（4）D グループの意見

個別テーマ	分類	意見・アイデア
自分の住んでいるまちの好きなところ	遊ぶ場所	■公園がたくさん　■アルバイト ■坂小のグラウンドが解放される ■さかっこがあること
	自然	■田舎　■伊吹山 ■ローザンベリーがあるところ ■ゆっくりしているところ（ざわざわしていない） ■災害が少ない
	交通	■駅前　■新幹線の駅があるところ
	店	■フレンドマート　■コンビニがある ■駄菓子屋　■チョコザップ ■ホテル
あったらいいなと思うもの	店	■図書館　■本屋（4件） ■ラウンドワン　■遊園地 ■イオン　■映画館（2件） ■コストコ　■市民プール ■モレラ　■PIERI
落ち着く場所	日本	■石川　■千葉 ■ばく食屋　■青森 ■北海道　■琵琶湖 ■日本　■淡路島
	外国	■山の昼寝　■ヨーロッパ ■北極　■南米 ■アフリカ
	家	■家　■トイレ ■すみっこ
	その他	■嫌いなことが終わったとき ■椅子がある場所　■人がいる場所

■D グループ模造紙


アルバイト
こうえんが
たくさん
さがこが
あること
自然いなか
伊吹山
さいがいが
すくない
交通
駅前
しんかんせん
の駅がある
ところ
ホテル
店

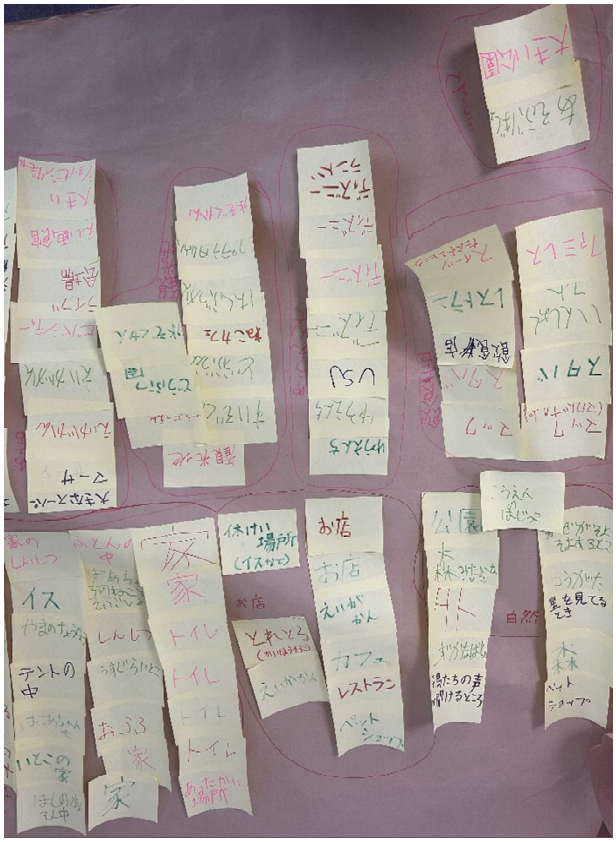

石川
十葉
北海
日本
外国
としょかん
本屋
ウウンドンクン
ゆうえんち
イオン
本やさん
屋さん
映画館
コストコ
市庁
プール
モレラ
PIERI
家
すみっこ
トイレ
いす
がある場所
人がいる場所
場所
店

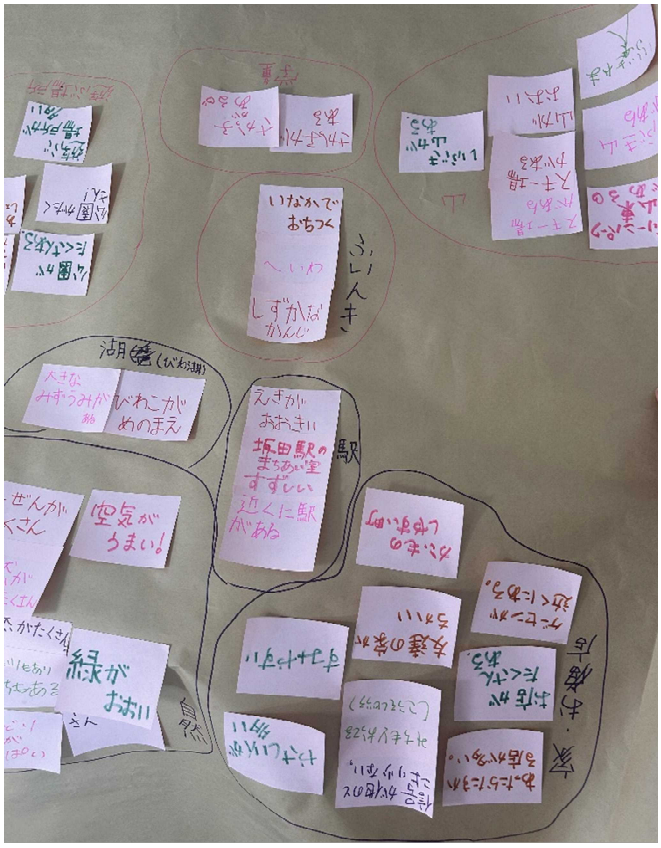
（5）E グループの意見

個別テーマ	分類	意見・アイデア
自分の住んでいるまちの好きなところ	家・お店	■あったら助かる店が多い　■お店がたくさんある ■ゲーセンが近くにある ■信号が他のとこより少ない ■道も通っている（高速道路） ■友達の家が近い　■買い物しやすいまち ■優しい人が多い　■住みやすい
	駅	■駅が大きい　■近くに駅がある ■坂田駅の待合室が涼しい
	雰囲気	■田舎で落ち着く　■平和 ■静かな感じ
	山	■グリーンパーク山東がある ■伊吹山がある（3件） ■スキー場がある（2件）　■山が多い
	学童	■さかっこがある
	遊ぶ場所	■公園がたくさんある（2件） ■遊ぶ場所が多い（2件） ■初対面でも仲良くなれる
	湖	■大きな湖がある　■琵琶湖が目の前
	自然	■田舎だけど住みやすい　■学校がいっぱいある ■自然がたくさん（2件）　■空気がうまい ■山・川がたくさんある　■緑が多い（3件） ■農業ができる　■平地がたくさん
あったらいいなと思うもの	飲食店	■マック（2件）　■スタバ（2件） ■飲食店（2件）　■ファミレス（2件） ■スイーツ食べられるところ
	遊園地	■遊園地（2件）　■USJ ■ディズニー（4件）
	公園	■遊ぶ場所　■大きい公園
	観光地	■観光地　■水族館（3件） ■動物園（3件）　■猫カフェ ■博物館　■プラネタリウム

個別テーマ	分類	意見・アイデア
	お店	■大きなスーパー　マーサ ■アウトレットモール ■映画館（3件） ■ビバシティ ■ライブ会場 ■モレラ ■100円ショップ ■本屋 ■市民プール ■アニメイト ■ショッピングモール（2件）
落ち着く場所	家	■家（5件） ■ソファ ■寝室（4件） ■お風呂 ■椅子 ■山の頂上 ■テントの中 ■おばあちゃんち ■いとこの家 ■星の観測中 ■布団の中 ■薄暗いとこ ■ばあちゃんちの猫と遊ぶとき ■トイレ（4件） ■あったかい場所
	お店	■お店（2件） ■映画館（2件） ■カフェ ■レストラン ■ペットショップ ■休憩場所（いすなど） ■とれとる（解放倉庫）
	自然	■公園 ■森（2件） ■外 ■静かな場所 ■小鳥たちの声が聞けるところ ■公園の端っこ ■風がそよそよするとこ ■夕方 ■星を見てるとき ■ペットショップ

■D グループ模造紙





■実施風景

米原市こども計画策定のための
意見聴取結果報告書

発行：米原市　子育て支援課
TEL：0749-53-5131
FAX：0749-53-5128

発行年月：令和 6 年 10 月